

北九州市立自然史・歴史博物館  
(北九州市立いのちのたび博物館)  
年 報  
令和4年度



茅葺き屋根を葺き替えた文化学習園の再現民家



## ごあいさつ

北九州市立自然史・歴史博物館（いのちのたび博物館）は、自然史・歴史・考古の3博物館が統合して平成14（2002）年11月3日に開館しました。このたび、令和4（2022）年11月3日をもって開館20周年を迎えました。

令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症の拡大によって、当博物館も休館や特別展の中止・延期等の困難に直面しました。また、普及講座やボランティア活動等も著しく制限されました。こうした厳しい状況下においても、時間制ウェブ予約システムの導入や、インターネットやSNSを活用した情報発信など、新たな取り組みを行ってまいりました。

そのようななかで、昨年度には開館20周年を記念した特別展を開催し、常設展の展示リニューアルを実施して、年間40万人を超える来館者をお迎えすることができました。また、20周年を目前にひかえた10月19日には開館以来、入館者数800万人を達成しました。これもひとえに当館の活動に対する皆様のご支援とご協力によるものです。心より御礼申し上げます。これからも博物館の魅力向上を目指し、職員一同研鑽を積み、職務に取り組んでまいります。

ここに令和4年度の年報を刊行いたします。本号には開館20周年記念事業についてもまとめています。この機会にいのちのたび博物館を多くの方々に知っていただき、これまで以上に地域に愛されながら、世界に向けて発信できる博物館を目指してまいります。皆様には、引き続き、さらなるご協力を賜りますようお願いいたします。

令和5年9月

北九州市立自然史・歴史博物館長  
伊澤 雅子

# 北九州市立いのちのたび博物館「理念と方向性」

## <理 念>

自然と人間の関わりを考える共生博物館

- 1 博物館の展示に於いて示していく
- 2 教育・普及事業に於いて啓発を行う
- 3 資料収集、保存及び研究を進めていく

## <方向性>

知的アクセス権を保障する博物館...知的好奇心への対応

- 1 ミュージアム・ネット化構想を進める
- 2 常に開館している博物館「24時間ミュージアム」を推進する
- 3 知的な疑問や関心に責任を持って応える

セカンドスクールとしての博物館...将来への知的投資

- 1 学校等に対して誘致事業を推進する
- 2 学校教育の支援事業を強化、拡大する
- 3 家庭教育の支援事業を充実する

研究の成果を教育・普及に生かす博物館...社会への知的還元

- 1 知識と経験を生かし、質の高い展示と教育・普及事業を行う
- 2 知の集積施設として外部の委員・講師や他組織の指導・助言を行う
- 3 地域の特性を活かした研究を行い、広く情報を発信する

# 目次

ごあいさつ

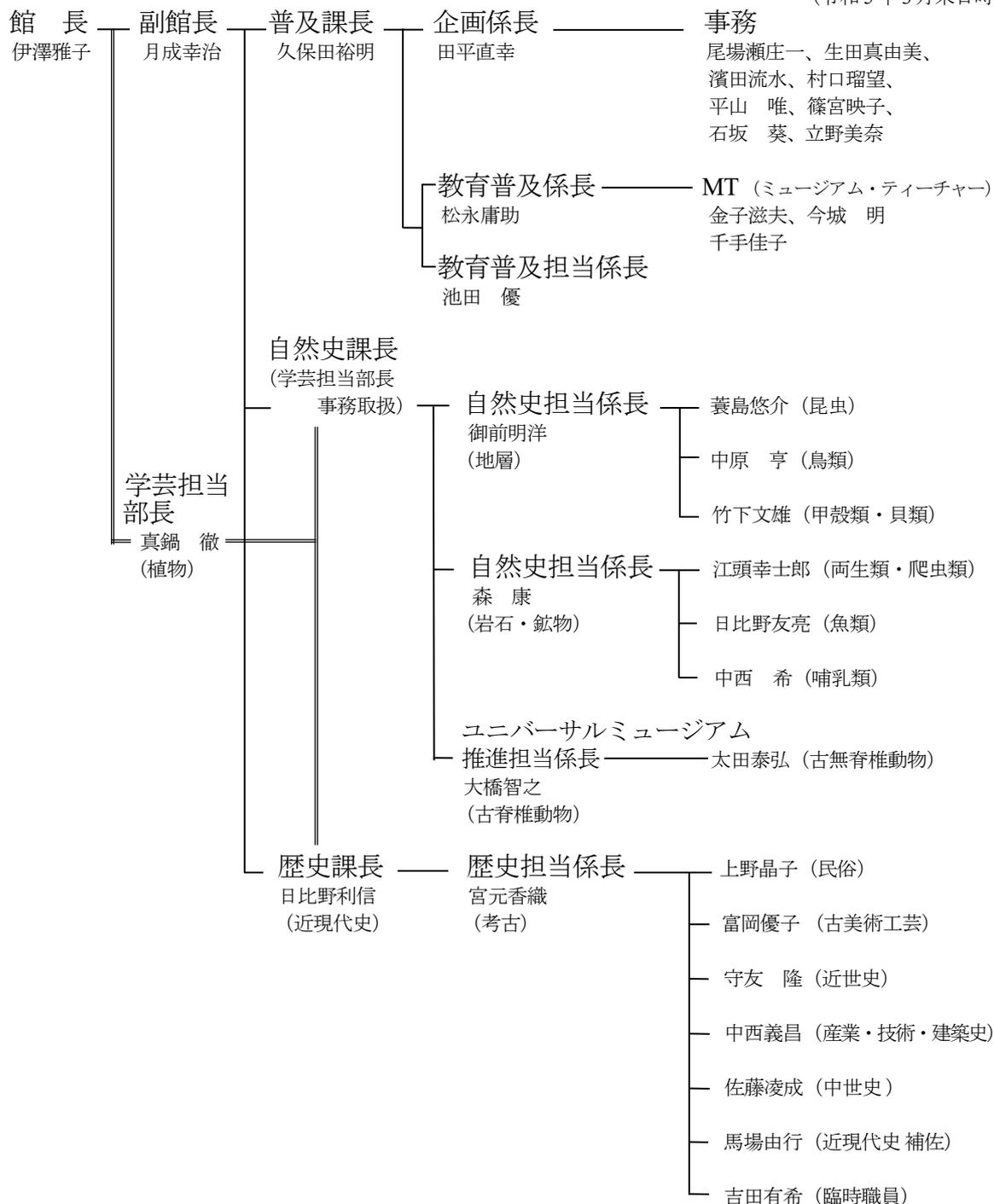
	頁
1. 組織・運営体制.....	1
2. 博物館協議会.....	2
3. 博物館評価.....	3
4. 令和4年度予算.....	4
5. 施設概要.....	5
6. 沿革.....	6
7. 入館者の状況.....	10
8. 広報・報道実績.....	11
9. 開館20周年記念事業.....	12
10. 特別展.....	18
11. 企画展・その他展示.....	28
12. 中核施設としての重点事業.....	44
13. 教育普及事業.....	47
14. ボランティア組織の活動.....	57
15. 博物館友の会の活動.....	58
16. 資料の収集保存状況.....	60
17. 資料の特別観覧状況（自然史・歴史）.....	63
18. 資料の貸出状況（自然史・歴史）.....	65
19. 画像等資料の貸出状況（自然史・歴史）.....	66
20. 学芸員研究業績.....	67
21. 博物館刊行物.....	74



# 1. 組織・運営体制

## (1) 令和4年度組織

(令和5年3月末日時点)



## (2) 名誉館員

藤丸詔八郎 (2005.4.1) 戸来義臣 (2007.4.1) 税田昭徳 (2007.4.1) 藤井厚志 (2008.4.1)  
 岡崎美彦 (2010.4.1) 永尾正剛 (2011.4.1) 有川宜博 (2012.3.1) 上田恭一郎 (2013.4.1)  
 伊藤明夫 (2015.4.1) 山根明弘 (2016.4.1) 山家桂一 (2018.4.1) 藪本美孝 (2018.4.1)  
 下村通誉 (2018.4.1) 武石全慈 (2018.4.1) 馬場 稔 (2019.4.1) 松井和幸 (2019.4.1)

※ 括弧内は、就任日

## 2. 博物館協議会

(1) 博物館協議会委員 (任期 令和3年9月1日～令和5年8月31日) ※委員は五十音順

会長	阿部 芳久	九州大学大学院比較社会文化研究院教授*
副会長	岩松 文代	北九州市立大学文学部教授*
委員	井上 龍子	八幡駅前開発株式会社代表取締役社長
	緒方 泉	九州産業大学地域共創学部教授 (大学美術館長)
	川津 博司	北九州市立浅川中学校長*
	杉山未菜子	福岡市経済観光文化局博物館事業管理部運営課長
	染川 香澄	ハNZ・オン プランニング代表
	富田 幸光	国立科学博物館名誉研究員
	針尾 泰久	北九州市立赤坂小学校校長
	三島美佐子	九州大学総合研究博物館教授
	吉田 涼香	北九州市立大学文学部学生

\*博物館外部評価小委員会委員

(2) 開催日時

令和4年9月13日 10:00～12:30 対面・オンライン併用で開催

(3) 内容

- ① 令和3年度の事業実績について
- ② 令和3年度の博物館評価について
- ③ 令和4年度の事業計画について
- ④ その他 意見交換

(4) 主な意見

- ホロタイプ標本の収集数が際立っていて、特別な成果と思う (①)。
- 不登校生徒に対するオンライン授業の実施については特筆されるべきと思う (①)。
- 対前年度比だけではなく、目標値を定め、1年間の活動全体のなかでバランスをとり、目標値を適切に変更しながら、評価を実施すべきと思う。ワークライフバランスの観点からも必要である (②)。
- 市民・利用者がふだん疑問に思っていること、知りたいことなどを事前に募集し、調査・研究によって掘り下げた成果をもとに、応答するような取り組みをおこなうと、その興味や関心の入口を広げ、新たな利用や来館を促進し、満足度を高めることにつながるのではないか (③)。
- 秋の特別展「トイレのうんちく」の開催を前に、博物館内のトイレで様々な「うんちく」を親しみやすいかたちで紹介している試みは良いと思う (③)。
- 博物館法の改正があり、来年4月から施行される。博物館の活動として、これまでの資料収集・保存、調査・研究、展示や教育普及に加えて、「文化観光」が加わった。このことがどのような意味を持つか、協議会としても注視していきたい (④)。

### 3. 博物館評価

#### (1) 評価方法

##### 1) 評価項目

資料収集・保管活動や調査研究活動などの常置 7 評価項目に加え、①新型コロナウイルス感染症拡大防止対策および②北九州ミュージアムパーク創造事業を時限的な評価項目として選定した。

##### 2) 評価基準

各評価項目は、A：大変良い、B：概ね良い、C：やや不十分、D：不十分の4段階で評価した。評価に際しては、北九州市の目標管理制度を参考に、定量的な基準および定性的な実績を総合的に加味し、達成度が120%以上の場合をA、120～80%をB、80～40%をC、40%未満をDとした。

##### 3) 自己評価

各評価項目に係る活動を、博物館職員が上記の評価基準に則り評価した。

##### 4) 外部評価

博物館協議会委員から、同協議会会長を委員長とする3名の外部評価小委員委員を選出した。これら3委員による外部評価小委員会において、博物館に対するヒアリングなどをおし、外部評価小委員会案を作成した。博物館協議会において同案を審議し、必要に応じて修正を行い、外部評価を確定させた。

#### (2) 令和3年度の評価

1) 資料収集・保管活動 自己評価：B 外部評価：B

2) 調査研究活動 自己評価：B 外部評価：B

3) 展示活動 自己評価：B 外部評価：B

4) 教育普及活動 自己評価：B 外部評価：B

5) 広報・情報発信活動 自己評価：A 外部評価：A

6) 市民との連携 自己評価：B 外部評価：B

7) 社会貢献 自己評価：A 外部評価：A

8) その他

①新型コロナウイルス感染症拡大防止対策

自己評価：A 外部評価：A

②北九州ミュージアムパーク創造事業

自己評価：B 外部評価：B

<総合評価>

自己評価：B 外部評価：B

#### (3) 総合評価に係る協議会での意見

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止の高いレベルでの対応や、数多くの社会貢献・教育普及活動を行っており、近年のその努力は博物館の存在確立のためにも大きな実績になったと考える。
- ・一方、現在の外部評価体系は、評価基準が難しく評価が厳しくなりがちな項目がある。従って、目標実現に向けた努力が評価できる仕組みを検討する必要がある。
- ・館員の業務時間や様々な業務のウエイトの再確認や、調査研究活動あるいは展示活動のいずれかの重点化、そして調査研究・展示活動の資料収集・保管活動へのリンクの強化などをおし、新型コロナウイルス感染症収束後の新しい博物館活動の展開を検討すべきである。
- ・これまで達成してきた職員のワークライフバランスの確保を引き続き配慮するとともに、メンタルヘルスにも十分に留意した業務計画の策定が必要である。

\* 自己評価および外部評価の結果は、過去のものを含め、以下に示す当館のホームページに掲載している。 <https://www.kmnh.jp/external-evaluation/>

## 4. 令和4年度予算

歳 入 (単位：千円)		歳 出 (単位：千円)	
博物館使用料 (常設展入館料、駐車場料金など)	165,166	企画展・特別展開催経費	63,570
施設貸付料	1,428	資料整備・調査研究経費	11,555
施設目的外使用料 (ミュージアムショップ使用料など)	1,371	教育普及経費	1,988
その他収入 (特別展観覧料、刊行物販売など)	58,923	ジオパーク活動推進経費	1,064
		博物館維持管理経費等	289,836
計	226,888	計	368,013

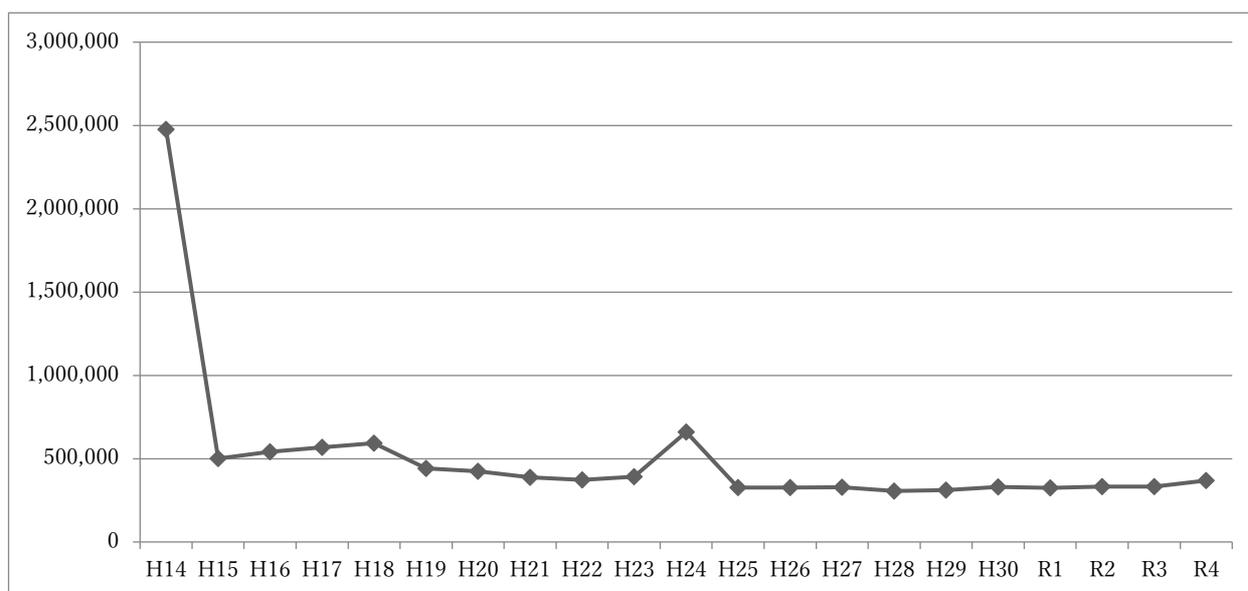
### 博物館予算（歳出）の推移

(単位：千円)

年 度	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21
予算額	2,476,072	501,604	540,788	567,441	593,467	441,058	424,070	387,868
備 考	H14.11.3 開館		内、太陽光発電 設備整備 32,000	内、太陽光発電 設備整備 60,000	内、太陽光発電 設備整備108,000			
年 度	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
予算額	372,731	392,184	659,576	326,569	326,913	327,833	306,067	312,067
備 考			内、博物館展示・ 施設等改修事業 300,000					
年 度	H30	R1	R2	R3	R4			
予算額	330,620	325,027	332,904	332,719	368,013			
備 考					内、開館20周 年記念リニュー アル事業40,300			

### 博物館予算(歳出)の推移 (グラフ)

(単位：千円)



## 5. 施設概要

構造 鉄筋コンクリート造（一部鉄骨構造）地上3階

各室面積（単位：㎡）

室名	面積	室名	面積	室名	面積
展示部門	6,232	研究処理部門	871	管理部門	624
アースモール（PMを除く）	1,885	地学系研究室	57	館長室	25
ほけっとミュージアム（PM）	253	生物系研究室（植物・昆虫）	29	副館長室	25
エンバイラ館（リサーチゾーンを含む）	1,067	生物系研究室（動物・魚類）	29	事務室	163
自然発見館（バイオリウムを含む）	581	歴史研究室	87	応接室	32
ギャラリー館	509	骨格標本作成室	36	会議室	62
歴史展示（カルチャーモールを含む）	1,755	燻蒸室（前室を含む）	30	印刷室・出版物保管室	29
こどもミュージアム（乳幼児対象）	89	解剖室	46	救護室	21
こどもミュージアム（小学生対象）	93	無脊椎動物化石処理室	30	更衣室	13
		脊椎動物化石処理室	30	一般倉庫	57
		岩石鉱物処理室	37	交流員控室	25
		昆虫標本処理室	30	管理人室	26
		動植物標本処理室	60	会議室S	30
		液浸標本処理室	30	会議室R	30
情報部門	1,018	技工室	60	会議室X	49
		整理室	60	外来市民研究室	37
ホール（オープンギャラリーを含む）	509	暗室（前室を含む）	26		
ガイド館（倉庫2を含む）	386	撮影室	41		
情報館	123	電子顕微鏡室	40		
		コンピューター室	28		
		保存科学室	40		
探究部門	204	薬品室・特殊薬品室	25		
実習室	123	シャワー室	6		
講座室	81	器材倉庫	14		
収蔵部門	2,506			サービス部門	463
荷解室	96			ミュージアムショップ	156
一時保管室	64			休憩ルーム	206
組立室	52			休憩デッキ	101
冷凍室・冷蔵室（前室を含む）	49				
地学系収蔵庫	202			供用部門	5,093
液浸標本収蔵庫	221				
重量物収蔵庫	204				
植物標本収蔵庫	234				
動物標本収蔵庫	165				
昆虫標本収蔵庫	238				
模式標本収蔵庫	44				
歴史資料収蔵庫	430				
考古資料収蔵庫（金属器を含む）	75				
特別収蔵庫	71				
古文書・古美術収蔵庫	140				
書庫	138				
展示準備室	83				
				合計	17,011

## 6. 沿革

昭和 50(1975)年	8月	北九州市立歴史博物館が小倉北区内に開館 (8/1) 【歴史】
昭和 51(1976)年	10月	小学生の発見をきっかけに、山田弾薬庫跡地で世界最古のニシン科魚類化石 ディプロミスタスが発掘される【自然史】
昭和 53(1978)年	4月	戸畑市民会館内に「自然史博物館開設準備室」設置【自然史】
昭和 54(1979)年	1月	「北九州自然史友の会」が発会し、機関誌「わたしたちの自然史」の発行 (1/7) 【自然史】
昭和 56(1981)年	5月	北九州市立自然史博物館が八幡駅ビルの2・3・4階を仮施設として開館 (5/2) 【自然史】
昭和 58(1983)年	8月	北九州市立考古博物館が九州最初の考古学専門博物館として小倉北区金田一丁目に開館 (8/1) 【考古】
昭和 59(1984)年	9月	北九州市と大連市の友好都市締結5周年記念として、中国大連市の大連自然博物館で「世界の 昆虫」展を開催【自然史】
	12月	響灘沖から巨大珪化木の引き上げ【自然史】
平成 5(1993)年	4月	考古博物館友の会発足【考古】
平成 7(1995)年	5月	展示解説ボランティア制度発足【考古】
平成 8(1996)年	7月	展示解説ボランティア制度発足【自然史】
	10月	「東田地区文化施設整備構想検討委員会」(委員長 有馬朗人 東京大学名誉教授) が、「環境」 を共通テーマとする自然史、産業科学、環境、歴史の4館からなるシャイン博物館構想「東田 地区文化施設の整備の方向について」を報告
平成 11(1999)年	6月	(仮称) 北九州市立自然史博物館・歴史博物館起工
平成 13(2001)年	3月	(仮称) 北九州市立自然史博物館・歴史博物館の建物が竣工
平成 14(2002)年	11月	北九州市立自然史・歴史博物館が開館 (11/3) 小野勇一館長が就任 (11/3) 開館記念特別展「セイスモサウルスとその世界」(11/3～12/28 : 56日間)
平成 15(2003)年	3月	開館記念特別展「COME BACK～よみがえれ文化と生きものたち～」(3/1～4/6 : 37日間)
	4月	特別展「ミネラルワールド九州・山口 わたしたちのまわりの鉱物展」(4/26～6/8 : 44日間 : 25,871 人)
	7月	特別展「発見！虫王国」(7/19～8/31 : 44日間 : 79,687人)
	9月	特別展「恐竜時代の生き物たち」(9/19～10/13 : 25日間 : 12,828人)
	10月	特別展「発掘された日本列島2003」(10/26～11/30 : 36日間 : 11,260人)
	12月	企画展「絵で見る植物の世界」(12/6～12/23 : 18日間)
平成 16(2004)年	1月	企画展「博物館のお正月」(1/2～2/1 : 31日間)
	3月	企画展「博多祇園山笠展～まつりにみる福岡の歴史～」(3/5～4/11 : 38日間)
	4月	特別展「葛飾北斎展」(4/23～5/23 : 31日間 : 14,262人)
	7月	特別展「からくり・ロボット体験ランド」(7/17～9/5 : 51日間 : 50,712人)
	10月	企画展「～片山正信氏の版画に見る～昭和の北九州百景」(10/1～12/26 : 87日間)
	10月	企画展「襤褸の世界～堀切辰一・布のいのち見つめて～」(10/8～11/28 : 52日間)
平成 17(2005)年	1月	特別展「古代都市誕生～飛鳥時代の仏教と国づくり～」(1/2～2/20 : 50日間 : 11,590人)
	3月	特別展「なぜ？なに？動物ワールド」(3/19～5/8 : 51日間 : 26,638人)
	7月	特別展「生きもの大集合 世界の両生・爬虫類展」(7/16～9/4 : 51日間 : 76,623人)
	10月	入館者100万人達成！(10/26)
	11月	特別展「大名細川家～文と武の軌跡～」(11/18～12/11 : 24日間 : 3,739人)
	12月	特別展「恐竜博2005～恐竜から鳥への進化～」(12/23～3/31 : 99日間 : 207,397人)
平成 18(2006)年	4月	企画展「化石王 三葉虫」(4/29～5/28 : 30日間)
	7月	特別展「昆虫ワールド・カップ2006」(7/15～9/3 : 51日間 : 76,008人)
	9月	企画展「アイヌ文様の美～線のいのち、息づくかたち～」(9/23～11/26 : 65日間)
	12月	特別展「驚異の地下帝国 始皇帝と彩色兵馬俑展～司馬遷『史記』の世界～」(12/14～3/31 : 104日 間 : 63,811人)
平成 19(2007)年	4月	企画展「有明海 干潟を育む生き物と文化～中尾勘悟写真展～」(4/15～5/6 : 22日間)
	7月	開館5周年記念特別展「世界最大の翼竜展～恐竜時代の空の支配者～」(7/7～9/2 : 58日間 : 96,103

- 人)
- 10月 開館5周年記念特別展「修験の歴史と自然～西日本の山の信仰～」(10/12～11/11：31日間：2,580人)
- 12月 特別展「フェアブルにまなぶ」(12/22～2/11：52日間：18,658人)
- 平成20(2008)年 3月 入館者200万人達成！(3/22)  
企画展(開館5周年記念事業)「5年間のあゆみ展」(3/22～4/6：16日間)
- 4月 企画展「絵で見る植物界の多様性 原田英子植物画展」(4/19～5/11：23日間)
- 7月 北九州市・仁川広域市姉妹都市提携20周年記念展「近代北九州百年の歩み」を仁川広域市立博物館で開催(7/19～9/21：65日間)  
特別展「シーラカンス展 ブラジルの化石と大陸移動の証人たち」(7/12～8/31：51日間：56,360人)
- 8月 北九州市・仁川広域市姉妹都市提携20周年記念展「開港場仁川の情景」(8/2～10/5：65日間)
- 10月 特別展「美しき九州の旅～「大正広重」初三郎がえがくモダン紀行～」(10/11～11/30：51日間：6,659人)
- 平成21(2009)年 1月 特別展「小倉のお殿さま～小笠原家と城下町～」(1/2～2/8：38日間：6,513人)
- 3月 企画展「ひとと海のものごたがり」(3/1～5/10：71日間)
- 5月 企画展「自然史友の会って何？ 友の会30年のあゆみと活動」(5/23～6/14：23日間)
- 7月 特別展「恐竜ラボ2009～よみがえれ！恐竜ワールド」(7/18～8/31：45日間：64,628人)
- 9月 特別展「世界遺産ナスカ 地上絵の謎」(9/19～11/23：66日間：30,266人)
- 平成22(2010)年 1月 特別展「布のこころ 受け継がれる母の想いとくらしの美」(1/2～2/21：51日間：6,567人)
- 2月 中国大連市の旅順博物館と友好交流協定を締結(2/6)
- 3月 特別展「どうぶつ大集合！肉食系？草食系？なにをたべているのかな？」(3/20～5/30：72日間：28,327人)
- 4月 伊藤明夫館長が就任(4/1)
- 7月 特別展「昆虫大接近！～みんなであそぼう・虫たちの森～」(7/17～9/5：51日間：71,641人)
- 10月 特別展「禅寺広寿山の名宝～小倉にひらいた中国文化の華～」(10/9～11/28：51日間：4,881人)
- 11月 仁川広域市立博物館、旅順博物館と「東アジア友好博物館に関する合意書」調印(11/6)
- 平成23(2011)年 1月 特別展「古代メキシコ・オルメカ文明展 マヤへの道」(1/2～3/31：89日間：22,598人)  
入館者300万人達成！(1/15)
- 2月 入館者300万人達成記念「ありがとう祭」(2/11～13：3日間)
- 4月 特別展「エビとカニのふしぎ 杉浦千里博物画の世界」(4/23～5/31：39日間：19,297人)
- 7月 特別展「世界の両生類・爬虫類大集合！」(7/16～9/4：51日間：74,797人)
- 10月 特別展「大連・モダンの風景 旅順博物館所蔵大連古写真展／鉄道展～あじあ号から新幹線へ～」(10/7～12/11：66日間：11,493人)
- 2月 特別公開「小惑星探査機『はやぶさ』帰還カプセル」(12/22～12/25：4日間：11,158人)
- 平成24(2012)年 1月 特別展「大内文化と北九州 戦国の世に花開く雅の世界」(1/2～2/12：42日間：4,559人)
- 3月 特別展「アンモナイトのふしぎ～首長竜やモササウルスとの戦い～」(3/10～5/6：58日間：25,121人) 同時開催「みんなで救った被災標本展」(同期間：6,857人)
- 7月 特別展「対決！恐竜展」(7/14～9/23：72日間：102,921人)
- 10月 特別展「いのちのたび博物館10年のあゆみ～とっておきのコレクションが勢ぞろい～」(10/20～12/2：44日間：30,283人)
- 11月 開館10周年記念行事(11/3～4)
- 12月 リニューアル工事休館(12/3～3/22)
- 平成25(2013)年 3月 リニューアルオープン(3/23)
- 4月 北九州市制50周年記念特別展「北九州市の宝もの」(4/20～6/16：58日間：30,740人)
- 7月 北九州市制50周年記念特別展「世界の昆虫展」(7/13～9/1：51日間：125,805人)  
入館者400万人達成！(7/25)
- 9月 北九州市制50周年記念特別展「邪馬台国が見える!! 古代日本の原風景」(9/14～11/4：52日間：20,990人)
- 12月 北九州市制50周年記念特別展「仁川広域市立博物館・旅順博物館の名品展」(12/21～28, 1/2～2/11：49日間：24,852人)
- 平成26(2014)年 3月 特別展「まるごと猫展」(3/15～6/1：79日間：54,700人)  
年間入場者60万人超達成！(3/31：622,701人。過去10年間[H15～24]の最多は平成17年度

		483,495人で、平均は363,379人)	
平成 27(2015)年	7月	特別展「THE モンスター展～自然界の怪物たち～」(7/19～9/23：67日間：117,585人)	
	11月	特別展「メタルズ！～変容する金属の美～」(11/1～12/23：53日間：11,448人)	
	3月	特別展「地球からの贈り物～石の美と魅力～」(3/21～5/10：51日間：26,182人)	
	4月	上田恭一郎館長が就任	
平成 28(2016)年	7月	入館者500万人達成！(7/4)入館者500万人達成記念特別展「スペイン奇跡の恐竜たち」(7/11～9/23：75日間：102,123人)	
	10月	入館者500万人達成記念特別展「医は仁術～解体新書からiPS細胞まで～」(10/10～1/11：90日間：20,058人)	
	1月	特別展「大正・昭和の暮らしと風景～版画に見る／布が語る～」(1/23～2/28：37日間：6,535人)	
	3月	特別展「ふしぎの教室～よみがえる学校標本たち～」(3/19～5/15：58日間：30,891人)	
	7月	特別展「恐竜博2016」(7/9～9/4：58日間：125,153人)	
平成 29(2017)年	10月	特別展「関門幕末維新伝」(10/1～11/27：58日間：15,327人)	
	11月	第1回東アジア友好博物館巡回展「着物が語る日本の心」(11/12～12/11：29日間)	
		その後 旅順博物館および仁川広域市立博物館に巡回(中国大連市旅順博物館 2017年1/10～2/5：27日間：9,365人、韓国仁川広域市立博物館 2017年2/14～3/19：33日間：8,727人)	
	1月	特別展「発掘された日本列島2016」(1/2～2/19：49日間：10,826人)	
	3月	特別展「ホントはすごい！どうぶつ展～飛ぶ！走る！泳ぐ！～」(3/18～5/14：58日間50,594人)	
	7月	開館15周年記念イベント第1弾(7/14～9/3) 開館15周年記念特別展「大昆虫博」(7/15～9/3：51日間：122,294人) 入館者600万人達成！(7/27)	
	10月	開館15周年記念イベント第2弾(10/7～2/25)開館15周年記念特別展「最後の戦国武将 小倉藩主 小笠原忠真」(10/7～12/3：58日間：11,436人)	
	12月	開館15周年記念特別展「アクア・キングダム～スピノサウルスと水に還ったどうぶつたち～」(12/23～2/25：61日間：37,227人)	
	平成 30(2018)年	3月	特別展「Bones～骨、ほね、ホネ～」(3/17～5/13：58日間：37,000人)
		7月	特別展「へんてこモンスター」(7/14～9/24：73日間：119,141人)
10月		特別展「食のたび～箸と和食の文化史～」(10/20～12/9：51日間：9,793人) ※中国旅順博物館企画の第2回東アジア友好博物館巡回展「箸と生活-中日韓の箸の文化」を拡大	
11月		東田ミュージアムパーク食の祭典2018(11/17～18)	
12月		特別展「世界遺産のまち北九州と明治日本の産業革命遺産」(12/22～2/11：48日間：22,099人)	
平成 31(2019)年 令和元(2019)年	3月	特別展「獣は毛もの～ふわふわ、ごわごわ、すべすべ、ちくちく～」(3/16～5/12：58日間：47,859人)	
	7月	特別展「探検！両生類・は虫類の世界」(7/13～9/16：66日間：119,013人) 入館者700万人達成！(7/10)	
	10月	特別展「九州発！棟方志功の旅-彫り起こされた足跡と交流-」(10/12～12/1：51日間：8,456人)	
令和 2(2020)年	12月	特別展「コレクション大集合 モノが語る私たちの暮らしと自然」(12/21～2/11：49日間：23,154人)	
	2月	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館(2/28～5/18)	
	4月	伊澤雅子館長が就任(4/1)	
	5月	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため平日のみの限定開館(5/19～5/29) 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館(5/30～6/21)	
	6月	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため平日のみの限定開館(6/22～8/7)	
令和 3(2021)年	8月	Web事前予約システム導入(8/3～)	
	1月	特別展「名刀「博多藤四郎の輝き」—戦国を生き抜いた武士の絆—」(1/2～2/14：44日間：6,718人)	
	3月	特別展「わたしたち『収蔵庫』にいるんです—あつめる まもる つなげる—」(3/6～4/4：30日間：17,503人)	
	4月	北九州ミュージアムパーク連携企画展「北九州・産業都市の軌跡」(4/29～5/30、内32日間新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館(5/12～5/30)：16,289人)	
	7月	特別展「THE モンスター展II」(7/17～9/26：76日間：57,731人)	

- 令和 4(2022)年
- 10月 特別展「鉄の都のものがたり～釜石と八幡～」 (10/16～11/28 : 44 日間 : 6,845 人)
  - 1月 特別展「博物館のお正月 2022～開館 20 周年 Year の幕開け～」 (1/2～1/31 : 30 日間)
  - 3月 特別展「まるごとウマ展～ウマと人のキズナ～」 (3/19～5/8 : 51 日間 : 20,516 人)
  - 7月 開館 20 周年記念特別展「昆虫博 2022」 (7/16～9/4 : 51 日間 : 81,554 人)
  - 10月 開館 20 周年記念特別展「トイレのうんちく展」 (10/1～11/23 : 54 日間 : 27,193 人)  
入館者 800 万人達成！ (10/19)
  - 11月 開館 20 周年記念式典 (11/3)
  - 12月 開館 20 周年記念特別展「うなぎの旅展」 (12/10～1/29 : 48 日間 : 10,788 人)
- 令和 5(2023)年
- 2月 リニューアル工事休館 (2/1～3/3)
  - 3月 リニューアル記念式典 (3/3)  
リニューアルオープン (3/4)  
開館 20 周年記念特別展「世界の野生ネコ科展」 (3/4～5/7 : 65 日間 : 55,768 人)

## 7. 入館者の状況

(人)

年度	大人	高校・大学生	小中学生	未就学児	年計	累計
14	60,946 (55.1%)	2,677 (2.4%)	29,903 (27.0%)	17,096 (15.5%)	110,622 (100.0%)	162,527
15	148,376 (46.2%)	7,950 (2.5%)	117,407 (36.5%)	47,692 (14.8%)	321,425 (100.0%)	483,952
16	124,591 (41.5%)	9,262 (3.1%)	125,566 (41.8%)	40,644 (13.6%)	300,063 (100.0%)	784,015
17	220,645 (45.6%)	11,699 (2.4%)	173,303 (35.9%)	77,848 (16.1%)	483,495 (100.0%)	1,267,510
18	163,725 (45.2%)	12,630 (3.5%)	137,387 (37.9%)	48,549 (13.4%)	362,291 (100.0%)	1,629,801
19	160,194 (42.2%)	12,771 (3.4%)	147,601 (38.9%)	58,881 (15.5%)	379,447 (100.0%)	2,009,248
20	125,898 (39.0%)	10,487 (3.2%)	131,344 (40.7%)	54,997 (17.2%)	322,726 (100.0%)	2,331,974
21	145,843 (42.5%)	8,151 (2.4%)	124,106 (36.1%)	65,290 (19.0%)	343,390 (100.0%)	2,675,364
22	148,752 (39.6%)	10,516 (2.8%)	137,441 (36.6%)	78,881 (21.0%)	375,590 (100.0%)	3,050,954
23	154,803 (41.2%)	8,933 (2.4%)	134,619 (35.8%)	77,299 (20.6%)	375,654 (100.0%)	3,426,608
24	144,271 (39.0%)	7,267 (2.0%)	143,409 (38.8%)	74,764 (20.2%)	369,711 (100.0%)	3,796,319
25	277,499 (44.6%)	16,837 (2.7%)	191,914 (30.8%)	136,451 (21.9%)	622,701 (100.0%)	4,419,020
26	214,140 (45.1%)	13,880 (2.9%)	150,867 (31.8%)	96,052 (20.2%)	474,939 (100.0%)	4,893,959
27	216,842 (45.9%)	14,645 (3.1%)	141,525 (30.0%)	99,377 (21.0%)	472,389 (100.0%)	5,366,348
28	224,878 (44.3%)	15,445 (3.0%)	144,379 (28.4%)	123,301 (24.3%)	508,003 (100.0%)	5,874,351
29	230,942 (43.4%)	16,879 (3.2%)	142,794 (26.8%)	141,495 (26.6%)	532,110 (100.0%)	6,406,461
30	218,100 (45.1%)	16,591 (3.4%)	126,849 (26.2%)	122,476 (25.3%)	484,016 (100%)	6,890,477
R1	205,887 (45.5%)	12,818 (2.8%)	122,164 (27%)	111,994 (24.7%)	452,863 (100%)	7,343,340
2	67,590 (49.1%)	5,748 (4.2%)	25,374 (18.4%)	39,024 (28.3%)	137,736 (100%)	7,481,076
3	114,885 (47.5%)	10,300 (4.3%)	53,034 (21.9%)	63,517 (26.3%)	241,736 (100%)	7,722,812
4	185,101 (46.0%)	14,981 (3.7%)	99,650 (24.7%)	103,087 (25.6%)	402,819 (100%)	8,125,631

### 展示リニューアル工事のため休館

平成24年度 12/3～3/22 令和4年度 2/1～3/2

### 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため休館

令和元年度 2/28～3/31。令和2年度 4/1～5/18、5/30～6/21 は休館。また 5/23～8/2 は土日祝日を休館。令和3年度 5/12～6/20 は休館、8/10～9/12 は常設展のみ休館。

## 8. 広報・報道実績

(1) 令和4年度 博物館から報道機関（市政記者クラブ）に情報提供した件数  
15件

(2) 令和4年度 特別展等関連広報・報道状況記録

展覧会名	新聞	雑誌等	テレビ	ラジオ
春の特別展「まるごとウマ展」 ※R4.4月1日～R4.5月8日まで	54	10	27	20
夏の特別展「昆虫博 2022」	209	12	51	47
秋の特別展「トイレのうんちく展」	79	10	0	0
冬の特別展「うなぎの旅展」	95	12	6	3
春の特別展「世界の野生ネコ科展」 ※～R5.3月31日まで	157	13	72	16
合計	594	57	156	86

その他（特別展以外）

ア) 新聞 4紙 15件

「96年小倉南区で発見の化石 大型恐竜の首の骨だった」

「いのちのたび博物館 10年ぶり展示一新」

イ) 雑誌等 29誌 29件

「九州じゃらん」、「グラフ九州」

ウ) テレビ 9社 12件

「NHKスペシャル 恐竜超世界2」（NHK）、「金曜ビックバン」「タダイマ！」（RKB）

「ももち浜ストア」（テレビ西日本）、「めんたいワイド」（FBS）ほか

(3) ホームページアクセス数

トップページ 779,274件 全ページ 2,435,314件

(4) SNS（Twitter、Facebook、Instagram）

SNS	アカウント名	投稿件数	フォロワー数
Twitter	北九州市立いのちのたび博物館	126	10,072
	特別展の公式アカウント	63	446
Facebook	北九州市立いのちのたび博物館	161	3,937
Instagram	北九州市立いのちのたび博物館【公式】	160	1,724
	北九州市立いのちのたび博物館【自然史オンライン】	206	198
YouTube	北九州市立いのちのたび博物館	13	606

合計 729 16,983

(5) 特記事項

リニューアルを広く周知するため、博多駅や小倉駅をはじめ九州一円の主要駅のデジタルサイネージを活用し広く広報を行った。

## 9. 開館 20 周年記念事業

2002 年からの開館 20 周年を記念して 10 年ぶりに展示リニューアルを実施した他、様々な記念イベントも開催した。一部の展示リニューアルについては、東田ミュージアムパーク創造事業の一つとして実施している（44ページ参照）。展示リニューアルは2月1日（水）～3月3日（金）まで休館して実施し、3月3日（金）には展示リニューアル完成と春の特別展「世界の野生ネコ科展」の開会式・内覧会を開催し、3月4日（土）からリニューアルオープンした。

### （1）自然史ゾーンリニューアル

自然史ゾーンのリニューアルでは、これまでに収集した標本、調査研究等で成果を得られた標本、特別展等で展示した標本をできるだけ多く常設展示するとともに、前回のリニューアル後 10 年間更新できていなかった情報や、展示標本のアップデートなどを中心に展示空間の拡充に取り組んだ。主な展示エリアごとに概要を報告する。

地学現象：「世界の石」展示を「鉱物の分類」展示に変更した他、覗きケース展示を更新し隕石・火成岩・堆積岩・変成岩の標本を入れ替えた。また、情報端末の撤去・入れ替え・更新等も行った。

アースモール中生代：全長約 15m の獣脚類恐竜スピノサウルス全身復元骨格を追加した。2014 年に発表された水生適応していた研究に基づく復元での常設展示は日本初となる。展示コンセプトや標本サイズを検討した結果、鉄骨支柱による台座を通路に構築しその上に設置した。

アースモール新生代：体長約 4 m の絶滅したオオナマケモノ類エレモテリウム全身復元骨格を追加した他、約 3000 万年前の北九州に生息していたクジラ類ヤマトケタス全身復元骨格と 2019 年に小倉港で死亡して当館が標本化したコビレゴンドウ全身骨格を、吊り展示することでクジラ類進化の展示を充実させた。また、展示エリア後方を拡張し、アフリカゾウ、カバ、キリン、オウギワシ、ダチョウ、キウイの全身骨格（実物・レプリカ）を追加・移動集約して、骨格展示の充実を図った。

多様性館：展示コンセプト拡張としてアースモール最後方に展示エリアを増設し、アフリカゾウ・キリン・ダチョウ・オジロヌーの剥製とダチョウ卵を展示した他、多様性館内の哺乳類展示・鳥類展示の追加・変更を行った。またイリエワニ剥製・バショウカジキ剥製を展示変更・追加した。

リサーチゾーン：三葉虫やプロトプテルム類の化石・レプリカ、触れる化石を追加した。

ぼけっとミュージアム：3 つのぼけっとミュージアムをリニューアルした。ディプロミスタスの解説パネルを更新、ぼけっとミュージアム No.4 のアンモナイト展示で標本の追加更新、ぼけっとミュージアム No. 5 の貝展示を全面的に変更し鉱物を扱った展示にした。また、ぼけっとミュージアム No. 5 に展示していた深海の熱水噴出孔模型を発見館へのスロープに移設し、既存深海映像との展示効果を高めた。

その他：一部の情報検索端末の情報提供方法の更新や変更を行った。照明の LED 化を進めた他、デジタルアート技術を参考にした展示演出照明や動画上映をアースモール・多様性館等で実施し、ドラマティックな展示を構築することができた。

今回のリニューアルで標本を約 170 点追加し、展示変更のため約 140 点撤収したことにより、約 30 点常設展示に増加し、それに合わせた展示エリア拡張・照明等追加・更新により展示空間の進化がはかれ、博物館の魅力を磨き上げることができた。

（大橋智之）



地学現象：展示ケースを増設



スピノサウルス (Courtesy of The University of Chicago)



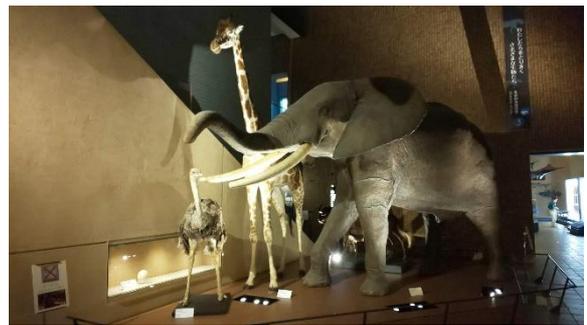
エレモテリウム



クジラ類進化の展示



骨格展示の拡充



多様性館の剥製展示の拡充



多様性館の剥製等の展示変更



リサーチゾーンの標本展示追加



ぽけっとミュージアム No. 4：アンモナイトの追加



ぽけっとミュージアム No. 5：鉱物の展示への変更

## (2) 歴史ゾーンリニューアル

### 1) テーマ館など

#### むかしの時代にタイムトリップ！バナーの設置

自然史ゾーンから歴史ゾーンに移動する通路の壁面に「むかしの時代にタイムトリップ！」と題したバナーを設置した。バナーには縄文時代（男）、弥生時代（女）、室町時代（男）、江戸時代（女）、明治時代（男）、昭和時代（女）、令和時代（男）の7人の人物のイラストを掲載した。

それぞれ、遺跡から出土した人骨や文部科学省の統計調査などから、当時の身長を推定し、その高さに合わせたイラストとし、来館者がむかしの人と背比べできる仕組みにした。

合わせて、各時代コーナーに展示している目玉となる資料の写真と一言解説を付して、これから始まる歴史ゾーンへの期待を高めるものとした。

#### 重留遺跡コーナー再整備

弥生時代後半のコーナーのうち、レプリカなどを展示から引き、代わりに重留遺跡出土の重要文化財のうち、附となっている弥生土器片や石器、ガラス管玉などを展示し、同遺跡の近隣との関係性に言及する説明パネルを設置した。

#### 平安・鎌倉・室町時代の北九州 入口部再構成

入口付近のエントランスウォールが万葉集に詠まれる「企救の浜」のレリーフになっていることから、新しく万葉集写本のレプリカと柿本人麻呂像を展示した。

#### 江戸時代の北九州交通ゾーン再整備

江戸時代の北九州交通ゾーンの展示台・ケース内の布を貼り替え、新しい史料を加えてテーマ展「江戸時代の旅と古文書」を開始した。今後は「旅の道具」「旅の衣装」などとテーマを変えながら、年に2～3回程度テーマ展を実施する予定である（詳細は37ページ参照）。

## 2) 文化学習園

### 茅葺き屋根の葺き替え

2002年の開館から20年が経過し、老朽化のため雨漏りや茅の飛散が問題となっていた再現民家の屋根について、基礎組みから新しく組み替えた。

葺き替えは阿蘇の茅葺職人が行い、約1ヶ月間にわたり手作業で行った。使用した茅は約2,000束で、そのうち300束は古茅の再利用であった。屋根材として再利用できなかった古茅は廃棄せず、畑の肥料などとしてさらにリサイクルされる。

葺き替え作業の様子は動画撮影と定点カメラでの撮影などを行い、記録映像として館で保管することとした。また、動画のうちの一部を再構成して、イラストや解説字幕などを加えた約15分の短い動画も作成し、民家内部で放映した。

#### 民家内部

農具を展示していた土間部分を改修して、そのうちの半分を屋根の葺き替え作業とそれに関連する道具を紹介するコーナーとした。ここには茅葺き屋根の構造がわかる断面の実物大模型を新しく製作して設置し、屋根の構造を間近で見ながら学ぶことができるようにした。

残り半分はハンズオンコーナーとして改修し、実際に触ることのできる資料のうち、升と飯櫃を置いて来館者が実際に手に取ることができるコーナーとした。

土間の隣、水屋部分ではかまどの中に実際に炎があるように見える電灯を新たに設置して、より臨場感を出す仕掛けをした。そのほか、竹製のザルに入れた野菜のぬいぐるみや吹き竹を置き、疑似的にかまどでの調理体験ができるような仕掛けをした。

いっぽう、これまで立ち入り禁止としていた座敷と囲炉裏の部分については、靴を脱いで上がれるように整備し、棚に設置した道具類なども手に取って自由に触れるようなコーナーへと変えた。

リニューアルオープン後には多くの来館者が民家内部に立ち入り、靴を脱いでくつろいで過ごす様子が見られるようになった。

### 3) ぼけっとミュージアム No.11

文化学習園の改修により、土間で紹介していた米作りの農具類の新しい設置場所として、ぼけっとミュージアム No.11 を常設化し、米作りを体感できるゾーンとした。このゾーンにおいては春夏秋冬に分けて農具を紹介するとともに、イラストや写真を多用してその使い方などについての解説を付した。また、会場奥スクリーンには米作りに関わるクイズ動画を作成して投影した。

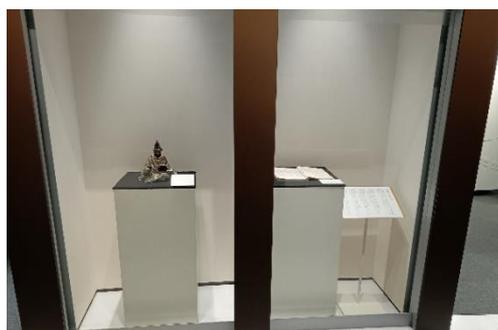
(宮元香織)



むかしの時代にタイムトリップ！バナー



重留遺跡コーナー



平安・鎌倉・室町時代の入口



江戸時代の交通ゾーン



再現民家外観



再現民家（座敷部分）



再現民家内部（土間部分）



ぼけっとミュージアム No.11

### (3) 開館 20 周年記念式典など

いのちのたび博物館は、平成 14 年 11 月 3 日に自然史・歴史・考古の 3 つの博物館が 1 つになり、西日本最大級の総合博物館として開館し、令和 4 年に 20 周年を迎えた。また、同年 10 月には総入館者数が 800 万人を超え、この 20 年で県内外・海外からも多くのお客様に訪れていただけるようになり、日本を代表する博物館の 1 つにまで成長した。

令和 4 年 11 月 3 日、開館 20 周年を記念して、当館ガイド館にて式典を開催し、北九州市長・市議会議長をはじめ、市議会議員、博物館協議会委員など約 200 名が列席した。

式では、「20 年のあゆみ」として、開館から今日までの博物館のあゆみについて、日比野利信 歴史課長が解説を行った。その後、伊澤雅子館長が、「いのちのたび博物館のこれから」として、20 周年事業の目玉事業である常設展リニューアルについて、自然史ゾーンではスピノサウルスやエレモテリウムの全身骨格標本など新設する展示物等の紹介を、歴史ゾーンでは文化学習園の改修や新設するコメ作り体感ゾーンの紹介を行った。

その後、会場を正面玄関付近に移し、晴天の穏やかな日差しの中、当館子ども教室の子どもたちとともに、開館 20 周年と総入館者数 800 万人の記念として 2 つのくす玉割りを行った。

式の最後には、「北九州市役所職員 五平太ばやし愛好会『響』」が迫力のある太鼓の演奏などの演出を披露し、20 周年式典に花を添えた。

同日午後からは、開館 20 周年記念講演会として「トーキング・アバウト・ダイナソー」を開催した。この講演会では、恐竜研究の第一人者である国立科学博物館副館長 真鍋真博士による基調講演のほか、九州の恐竜研究の「いま」と「これから」について、九州で恐竜を展示する博物館・資料館等の研究者 5 名によるパネルディスカッションを行った。

(田平直幸)



主催者（北橋健治 市長・当時）挨拶



来賓（鷹木研一郎 市議会議長）祝辞



日比野利信 歴史課長による  
「いのちのたび博物館 20 年のあゆみ」の紹介



伊澤雅子 館長によるリニューアルポイントの紹介



子ども教室参加者らによるくす玉割り

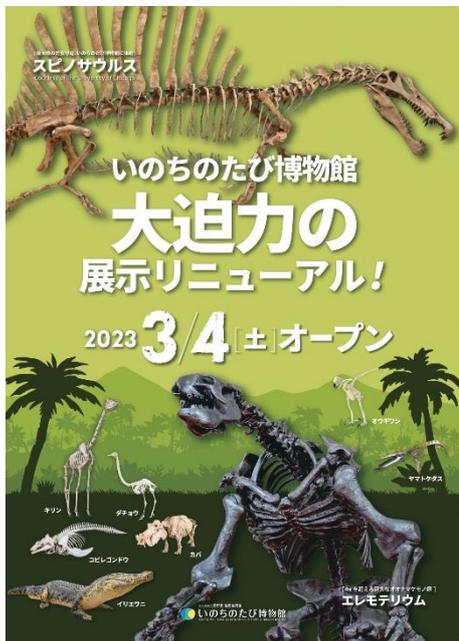


北九州市役所職員 五平太ばやし愛好会「響」による演奏



開館 20 周年記念講演会「トーキング・アバウト・ダイナソー」

(左・真鍋真 国立科学博物館副館長、右・大橋智之 当館自然史課係長)



展示リニューアルのチラシ (左・表面、右・裏面)

## 10. 特別展

### (1) まるごとウマ展—ウマと人のキズナ—

期 間：令和4年3月19日（土）～令和4年5月8日（日）

51日間（前年度からの継続事業）

会 場：ギャラリー館、オープンギャラリー

入 場 料：大人 500 円（団体 400 円）、高・大生 300 円（同 240 円）、  
小・中生 250 円（同 190 円）、未就学児無料

観覧者数：20,516 人（うち令和4年4月1日～5月8日は 14,032 人）

担当学芸員：大橋智之・宮元香織

主 催：北九州市立いのちのたび博物館、毎日新聞社

後 援：日本ウマ科学会、福岡県教育委員会

学術協力：武 豊（日本中央競馬会）、和田直己（山口大学共同獣医学  
部生体システム科学）

協 力：到津の森公園、海の道むなかた館、エルメス、小倉競馬場、ZENNO MANAGEMENT、田川  
市石炭・歴史博物館、トヨタ自動車九州株式会社、長瀬智之、ニッケ商事株式会社 CAVALLO、  
日本中央競馬会、（公財）馬事文化財団・馬の博物館

#### 概 要

人類史に大きく影響を与えてきたウマについて、進化や多様化・体の特徴等自然史分野と、人の暮らしや文化的な面での関わり等歴史分野を貴重な標本や資料をもとに3章構成で紹介した。

第1章：約5000万年前から化石が知られているウマ類の進化を化石レプリカや生体復元模型展示から比較することで、サイズや形態の違いがわかるように展開した。

第2章：ウマ類の骨格の特徴を他の哺乳類と比較、日本在来馬を含めた野生種を骨格や剥製で紹介、全身骨格に見られるウマ類の特徴を示し、ウマ類をより詳しく知っていただくことや特徴を人間がどのように活用してきたのか、第3章へのブリッジとなるように構成した。

第3章：考古・歴史資料を中心に馬と人との繋がりを紹介した。人類が馬をあやつり始めた頃の中央ユーラシア出土の青銅製轡金具、日本国内出土の馬鈴や鐙、鞍等の金銅製、鉄製馬具等を紹介した。また近世で馬糞が痔の薬として使われていた例や、農耕に従事した馬が装着したとみられる古墳時代の馬鍬等を展示した。この他、小倉競馬場の歴史を近代資料等から触れ、競馬関連資料として馬主から借用した優勝レイやカップ等も展示した。また、著名な競走馬画家の長瀬智之氏の原画も展示し、歴史・文化のみならず美術の分野からも馬に迫った。更に特筆すべき展示は、エミール・エルメス・コレクションの女性用馬具である。エルメスジャパンのキュレーターの選定により、フランスから借用した馬具コレクションは、女性が乗馬することに特化したテーマで構成した。ここまでの歴史系の展示が、馬具とそこに込められた職人たちの技術・歴史を言及したものが多かったのに対して、馬具から騎手、そしてそこから派生する文化にまで迫った点で、展示に深みが加わった。

来場者の特徴としては男性一人もしくは成人の男女ペアの入館が目立った。特に競馬に関心が高いとみられる方が競馬に関する展示を熱心に読み、写真を撮る等の様子があった。

#### 主な展示標本・資料

祖先種から現生種までの化石、骨格、剥製等自然史標本。遺跡から出土した馬具や騎馬俑、屏風等の歴史資料。長瀬智之氏の絵画作品。小倉競馬場や競馬に関する資料等。エミール・エルメス・コレクションの女性用馬具類や絵画作品。和田先生と武豊騎手監修による「人馬一体」標本の初公開等。



## 関連事業

小倉競馬場バックヤードツアーを小倉競馬場協力の下、コロナ感染症拡大防止対策を十分に施した上で4月3日（日）に参加当選者20名で開催した。通常は入ることのできないパドック、ウィナーズサークル等を小倉競馬場スタッフの方の説明付きで見学することができた。ナイトミュージアムは、コロナウイルス感染症予防の観点から開催しなかった。

(大橋智之・宮元香織)



第1章 ウマ類の進化の比較展示



第2章 ウマの骨格展示



第2章 野生種の比較展示



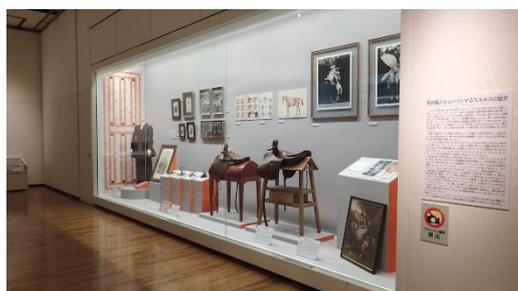
第3章 騎馬俑（左）と青銅製轡金具（右）



第3章 日本古来の馬具類



テーマ展示 初公開展示「人馬一体」



第3章 エミール・エルメス・コレクション



第3章 原画「創世」長瀬智之



第3章 競馬に関する展示



第3章 競馬・馬術に関する展示

## (2) 昆虫博 2022

期 間：令和4年7月16日（土）～令和4年9月4日（日）51日間

会 場：ギャラリー館、オープンギャラリー

入 場 料：大人 800 円（団体 640 円）、高・大生 500 円（同 400 円）、  
小・中生 400 円（同 320 円）、未就学児無料

観覧者数：81,554人

担当学芸員：蓑島悠介・竹下文雄

主 催：北九州市立いのちのたび博物館、毎日新聞社、RKB毎日放送

後 援：福岡県教育委員会、毎日メディアサービス・サンデー新聞

協 力：北九州・魚部

### 概 要

昆虫は非常に多様な生き物で、100万種を超える種が知られるにも関わらず、今もなお新種が発見されている。昆虫博2022では、多様な昆虫を題材としてその多様性を紹介し、感覚的・学術的双方の面から理解が深まるように展示を行った。現在生きている昆虫の標本と、生きている姿と昆虫の進化の歴史を体感し、楽しみ、その結果として昆虫について興味を持ち学んでいただけるよう、世界（日本含む）から収集された15,000点を超える昆虫標本によりグループの違い、種の違い、同じ種内の個体同士の違いの全てを体験いただけるようにしたほか、昆虫生体、精巧な巨大模型、昆虫化石などを展示した。

新型コロナウイルス感染症対策として、事前予約制による入館者数制限を設けて開催した。

### 主な展示標本

昆虫標本は光に弱く、すぐに退色するものもあるため、常設展では展示できない資料が極めて多い。この特別展では、バックヤードで大切に收藏され、普段目にする機会がない貴重な資料を多数公開した。また、北九州・魚部の協力で水生昆虫などに関する展示を行った。

- ・昆虫巨大模型（カブトムシ、テナガコガネ、ヒトスジシマカなど）
- ・昆虫の多様性と進化を示す標本（さまざまな昆虫、甲殻類、幼虫標本）
- ・チョウを利用した巨大アート展示
- ・昆虫標本壁面展示
  - ・甲虫（世界のカブトムシ、クワガタムシ、コガネムシ、オサムシ、北部九州地域（飯塚市笠置山）の甲虫（野村好之コレクション））
  - ・蝶と蛾（世界のルリシジミ（浦野博コレクション）、トリバネアゲハ、昼蛾類）
  - ・その他の昆虫（ビワハゴロモ、カマキリ、ナナフシ）
- ・プラチナコガネの動く展示
- ・変わった形をもつ昆虫（ヒラタムシ、ツノゼミ、テントウゴキブリ、バイオリンムシ、オオエンマハンミョウ）
- ・生体展示
  - ・水生昆虫（ゲンゴロウ、ガムシなど）
  - ・世界のカブトムシ、クワガタムシ
  - ・擬態昆虫（ハナカマキリ、カレハカマキリ）
  - ・世界のゴキブリ
  - ・陸上節足動物（サソリ、サソリモドキ、タランチュラなど）
- ・昆虫化石・虫入り琥珀
- ・昆虫採集の道具



## 関連事業

ナイトミュージアム「夜の昆虫博 2022」(7月29日、8月19日) / 大虫選会(9月3日、4日) / 「いのちはzooとつながっている」with 到津の森公園(7月16日～9月4日)

(蓑島悠介)



展示風景 (昆虫標本壁面展示)



展示風景 (生体展示)



チョウを利用したアート展示



プラチナコガネの動く展示

### (3) トイレのうんちく展

期 間：令和4年10月1日（土）～令和4年11月23日（水・祝）  
54日間

会 場：ギャラリー館、オープンギャラリー

入 場 料：大人 500 円（団体 400 円）、高・大生 300 円（同 240 円）、  
小・中生 250 円（同 190 円）、未就学児無料

観 覧 者 数：27,193 人

主 催：東田ミュージアムパーク実行委員会

後 援：福岡県教育委員会

特別協力：九州製紙株式会社（大分製紙グループ）

協 力：到津の森公園、大田区立郷土博物館、橿原市、（公財）

北九州市芸術文化振興財団埋蔵文化財調査室、木津川市教育委員会、東京国立博物館、東  
京都教育委員会、TOTO株式会社、福岡市博物館、福岡市埋蔵文化財センター

助 成：カメイ社会教育振興財団（事前調査）、全国科学博物館活動等助成事業（展示）

担当学芸員：宮元香織・上野晶子

#### 概 要

考古学の発掘調査では、遺跡から鞭虫や糞石（ウンチの化石）が出土することで、そこがトイレであったとわかる事例がある。この展覧会は、発掘されたトイレ遺構の分析から、人類が長い間その処理に悩んできたウンチやおしっこを処理するトイレの歴史について、子どもから大人まで楽しく学ぶことを目的として行った。

なお、この展覧会は本来、東アジア友好博物館交流事業の巡回展を拡充した特別展として開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大により韓国からの資料借用が不可能となったため、日本国内の資料のみで新しく展示を構成した独自の企画とした。

みんなのウンチ、大集合！：ウンチ標本と動物剥製標本を並べて展示した。

- 1 ウンチは語る：出土したウンチの分析をとおして食生活の復元
- 2 トイレがない？！：路上で用足をしていた古代の庶民
- 3 水洗トイレ登場：古代都城における水洗トイレの構造と出土遺物
- 4 トイレの紙さま：世界各地のおしりふきコレクション
- 5 トイレの神さま：トイレにいるとされる説話の神様
- 6 描かれたトイレ：絵巻や本などに描かれたトイレ
- 7 生まれ変わるウンチ：ウンチが肥料として生まれ変わる過程
- 8 しゃがむから座るへ：和式便器から洋式便器への推移
- 9 下水道のはなし：本市における下水道事業や浄水場

#### 主な展示資料

本展のために新しく当館が作成したウンチ標本、動物剥製標本、液浸標本、遺跡出土の種実、『餓鬼草紙』模本、都城出土考古資料（尿瓶として使用された須恵器、籌木、瓦など）、城下町出土考古資料（尿瓶、大便器、立小便器など）、各時代のミニチュアトイレ模型を全国各地の博物館から借用して展示した。

また、拡大した「伺便餓鬼」の図、近世の公衆トイレ、畳敷のトイレを実物大で展示室に作成し、来館者が実際に中に入って体験できる取り組みとした。その他、市内の古紙再生業者からはジャンボロールと呼ばれるトイレットペーパーのような再生紙原紙を展示室内に設置いただくなど、総数約 100 点の資料を展示した。



## 関連事業

10月22日(土)に到津の森公園の獣医師高橋能理子氏による「ウンチのうんちく」、担当者による「トイレのうんちく展 見どころ紹介」と題した講演会を行った。

学校団体から依頼があった際には簡単な展示解説を行い、展示理解促進に努めた(延べ285人参加)。また、福岡県内の下水道事業担当者会議を誘致し、会議の場で展覧会と日本のトイレについて講演を行った。

## 特記事項

特別展の概要を示した24ページの解説パンフレットを2,000部作成し、希望者に無償で配布したほか、スタンプシート「うんちくあつめシート」を10,000部発行し、展示室内の5か所にクイズパネルを設置するなど、歴史を学習した経験のない未就学児にもわかりやすい展示を心がけた。また、会期3か月前の夏の特別展開催時から、館内トイレに告知CMパネルを設置して広報に努めた。

なお、本展についても夏の特別展と同様、新型コロナウイルス感染症対策として、事前予約制による入館者数制限を設けて開催した。

(宮元香織)



ウンチと動物剥製標本



撮影コーナー実物大『餓鬼草紙』



江戸時代から昭和までの尿瓶たち



江戸時代の公衆トイレ



再生紙原紙「ジャンボロール」



現代の最新式トイレ

## (4) うなぎの旅展

期 間：令和4年12月10日（土）～令和5年1月29日（日）  
48日間

会 場：ギャラリー館、オープンギャラリー

入 場 料：大人 500 円（団体 400 円）、高・大生 300 円（同 240 円）、  
小・中生 250 円（同 190 円）、未就学児無料

観覧者数：10,788 人

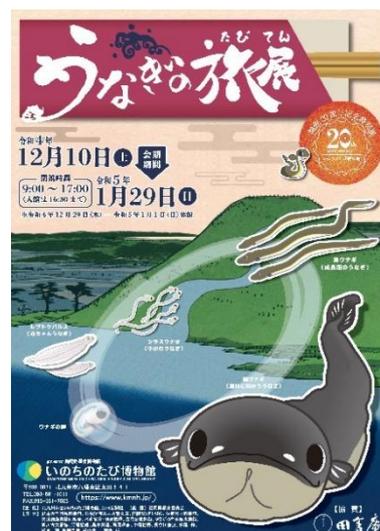
担当学芸員：日比野友亮・江頭幸士郎・上野晶子

主 催：北九州市立いのちのたび博物館、毎日新聞社

協 賛：田舎庵

協 力：熊本大学附属図書館、公益財団法人永青文庫、国際うなぎ

LABO、佐賀県立図書館、宍道湖漁業協同組合、水産研究・教育機構、立花家史料館、やながわ有明海水族館、柳川古文書館、河端雄毅、黒木真理、高原輝彦、中尾勘悟、長谷川悠波、松尾 怜、松重一輝、望岡典隆、横山圭一、渡邊 俊



### 概 要

海から川へ、そして再び深海へとダイナミックな旅をするウナギを主題として、その進化、生態、文化などを総合的に紹介した。最新の研究成果や保全に関する内容も盛り込み、赤ちゃんから産卵に向かう成魚までの成長段階を揃えた生体展示や、各種の動画、VR 映像コンテンツを含めウナギの面白さをあらゆる角度から楽しめる展示会を企画した。

### 主な展示標本・資料

ニホンウナギの実物標本や産卵海域で採集された世界初の親ウナギの標本、レプトケパルスから銀ウナギに至る生体を展示した。これまでにニホンウナギの生体展示は各地で行われてきたが、成長段階を揃えた展示は初めての試みであった。世界 19 種・亜種のウナギ科全種標本や、日本で初めて採集されたウグマウナギの実物も展示した。各種の標本資料には関連する研究成果に関する展示解説を併記することで、標本と研究とが一体で理解できるようにした。標本や解説での説明が難しい行動に関する内容の一部には動画を利用した。

九州北部の江戸時代からのウナギ食文化や流通を示す文書資料（重要文化財を含む）のほか、包丁、器、漁具、絵馬に及ぶウナギ文化に関する人文資料も展示した。国内にあるウナギ料理店の箸袋コレクションを並べ、類似性や個性を感じられるようにした。中尾勘悟氏撮影の有明海の写真や、有明海でのウナギ漁を記録した VR 映像の上映も行い、展示品は合計で 200 点以上（※箸袋コレクションを 1 点と計数）となった。ウナギが絶滅危惧種に選定されている背景から、減少の原因や保全のための研究についても解説と研究に利用される機材実物を展示した。

### 関連事業

会期中、「うなぎの蒲焼教室」（12 月 11 日）、関連講演会「ウナギ研究のこれまで、これから」（12 月 17 日）、「田舎庵会長 緒方弘氏によるスペシャルトークショー&ギャラリートーク」（1 月 7 日）、「担当学芸員によるギャラリートーク」（1 月 14 日）を実施した。

（日比野友亮）



ウナギ科全種標本



望岡典隆氏による講演



文書資料の展示



ウナギ料理に使われる食器



調査のための機材



石積み水槽で隠れるウナギ



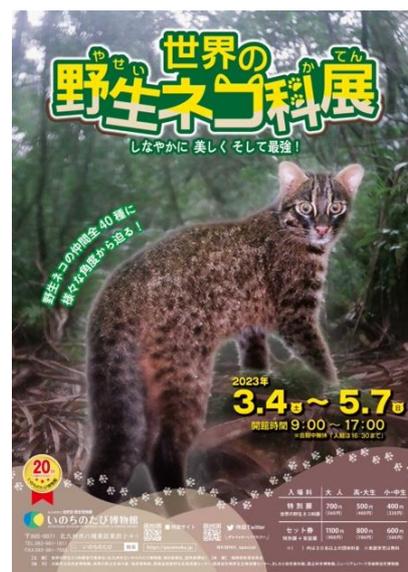
田舎庵会長 緒方弘氏によるトークショー



田舎庵による「うなぎの蒲焼教室」

## (5) 世界の野生ネコ科展

- 期 間：令和5年3月4日（土）～令和5年5月7日（日）  
65日間（次年度への継続事業）
- 会 場：ギャラリー館、オープンギャラリー
- 入 場 料：大人 700 円（団体 560 円）、高・大生 500 円（同 400 円）、小・中生 400 円（同 320 円）、未就学児無料
- 観覧者数：55,768人（全会期、令和5年3月4日～3月31日は23,011人）
- 担当学芸員：中西 希・中原 亨
- 主 催：北九州市立いのちのたび博物館、毎日新聞社、読売新聞社
- 協 賛：福岡県教育委員会
- 協 力：大阪市立自然史博物館、神奈川県立生命の星・地球博物館、環境省西表野生生物保護センター、環境省対馬野生生物保護センター、きしわだ自然資料館、国立科学博物館、ミュージアムパーク茨城自然博物館



### 概 要

完全に肉食に特化し陸上生態系の頂点に位置する「ネコ科」に焦点をあて、世界中の様々な環境に適応したネコ科の多様性や生態系の頂点に位置する高次捕食者の重要性を学べる特別展である。ネコ科動物の多様性を学びながら、ネコ科を中心として様々な生物がつながり合っていることを知る機会を提供した。また、日本に生息するイリオモテヤマネコとツシマヤマネコの剥製と映像を展示し、希少種保護に対する理解も深められるように展示を行った。

1. 起源と進化：ネコ科の起源と進化を化石と復元模型を用いて解説し、現生のネコ科の仲間（食肉目の多様性について多数の剥製を用いて紹介した。
2. 機能と特徴：超肉食獣であるネコ科の身体の機能と特徴を、骨格標本とイラストパネルを用いて紹介した。
3. 多様性：現生ネコ科 40 種の多様性を剥製、骨格標本、画像を、南北アメリカ、ユーラシア・東南アジア、アフリカの 3 つの大陸に分け、島状展示ステージに分けて展示、解説した。
4. コミュニケーションと社会：ほとんどの種が単独性であるネコ科のコミュニケーション方法と、子育て、社会性について、剥製、骨格、映像を用いて解説した。ネコ科の重要なコミュニケーションツールであるイリオモテヤマネコのマーキング臭を嗅げるコーナーを設置し、匂いを体感できるように工夫した。
5. 日本のヤマネコ：かつて日本に生息していたトラとオオヤマネコについて化石を用い紹介した。また、現在の日本に生息するイリオモテヤマネコとツシマヤマネコが、西表島と対馬の各島において生態系の頂点捕食者としてどのような暮らしをしているのかを、ヤマネコに食べられる動物の剥製、液浸、PEG 標本を多数展示することにより紹介した。このほか、フィールドにおける調査について紹介し、食性を調べる糞内容物分析クイズと、自動撮影カメラで撮影されたイリオモテヤマネコの模様を用いた個体識別クイズのコーナーを設置した。加えて、イリオモテヤマネコとツシマヤマネコの毛皮を触り、亜熱帯と温帯に生息するヤマネコの毛皮の違いを体験できるコーナーを設置した。
6. 絶滅に瀕するネコ科：全ての野生ネコ科が絶滅危惧種に指定されており、スナドリネコ、ヒョウ、ユキヒョウ、イリオモテヤマネコ、ツシマヤマネコの保護活動について紹介した。

## 主な展示標本

野生ネコ科最大のシベリアトラの剥製と東南アジア産トラの剥製を比較展示した。マーブルキャットの特徴を表した木を降りる姿勢の剥製を日本初公開した。イリオモテヤマネコとツシマヤマネコの剥製および骨格標本4体の同時展示は国内初であった。

## 関連事業

関連イベントとしてナイトミュージアム（3月25日）を行った。

（中西 希）



獲物を襲う姿勢のトラの剥製



初公開のマーブルキャットの剥製



ネコ科最大のシベリアトラ（左）と  
東南アジア産トラの剥製



触れるツシマヤマネコの毛皮



イリオモテヤマネコの剥製と骨格標本



ツシマヤマネコの剥製と骨格標本

## 1 1. 企画展・その他展示

### (1) 描かれた加藤清正と清正公さん信仰

期 間：令和4年4月9日（土）～令和4年6月12日（日）

65日間

会 場：ぼけっとミュージアム No.9・10

入 場 料：常設展入場料で観覧可能

担当学芸員：守友 隆

#### 概 要

本展は、安土桃山・江戸初期の武将・大名である加藤清正（1562～1611）の没後から現在までの人気・神格化・信仰の理由に迫ったものである。なお、歴史上の人物としては「清正」、神格化された神としては「清正公せいしょうこう」と表記した。

加藤清正は、尾張国中村（現名古屋）で生まれ、幼少から同郷で親戚といわれる豊臣秀吉に仕えた。賤ヶ岳七本槍の一人として知られ、のちに肥後国（現熊本県）の大名となった。名城として名高い熊本城を築いたことでもよく知られている。文禄・慶長の役での虎退治・虎狩の話も有名である。

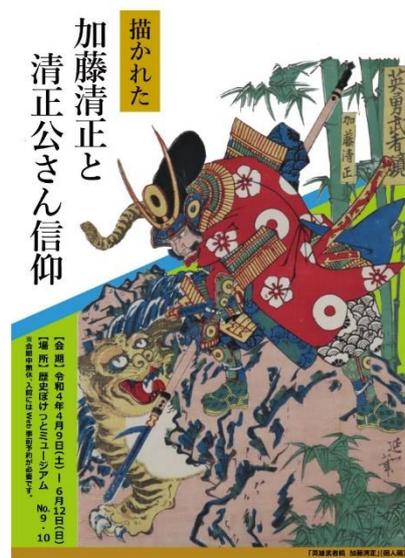
このように、史実の清正は、ほとんど北九州市域と縁のない人物だが、没後は神として祀られ、現北九州市域の旧筑前国福岡藩領・旧豊前國小倉藩領でも信仰を集めた。熊本では「清正公せいしょうこうさん」と親しみを込めて呼ばれるが、人気・信仰は熊本や名古屋に止まらず、北九州を含む日本全国に及ぶ。その理由は江戸時代に読まれた秀吉の一代記『太閤記』や日蓮宗と深い関わりがある。幕末、人気・信仰は一層盛んになり、昭和前期まで続いたことを紹介した。

平成28年（2016）4月14日・16日の熊本地震では、清正が築いた熊本城も甚大な被害を受けた。熊本城は、小倉城主であった細川氏が後に居城とした城でもある。そのような縁・関係があることに加え、令和4年は寅年であったため、端午の節句（こどもの日）に合わせて企画・開催した。

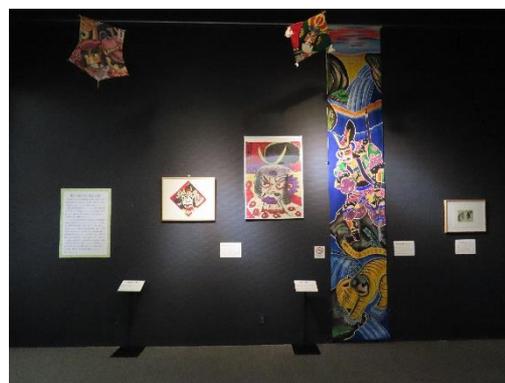
#### 展示内容

「加藤清正と日蓮宗」、「清正人気の秘密① 清正の神格化」、「清正人気の秘密② 武者の代表格」、「清正公信仰の起源」、「清正人気・清正公信仰の展開」、「明治以後の清正人気・清正公信仰」、「現代の清正人気・清正公信仰」の全7章立てで構成し、神格化された清正公、武者絵・五月飾りとしての清正を描いた肖像画・浮世絵・木像・土人形・五月人形・凧など約75点を展示した。

（守友 隆）



ぼけっとミュージアム No.9 展示風景



ぼけっとミュージアム No.10 展示風景

## (2) まがたまの美

期 間：令和4年4月9日（土）～令和4年6月12日（日）

65日間

会 場：ぼけっとミュージアム No.11

入 場 料：常設展入場料で観覧可能

担当学芸員：宮元香織

### 概 要

勾玉とは、古代に作られた装飾品の玉のことであるが、その形状にはさまざまな種類があり、縄文時代の勾玉と弥生時代の勾玉、古墳時代の勾玉にはそれぞれ特徴がある。また、勾玉の材料はヒスイやメノウなどの手に入れることが難しい貴重なものだけでなく、土で作られたものやガラス製のものなど、さまざまある。にもかかわらず、勾玉の形が何を意味しているのか、ということについてはいまだ謎に包まれている。

展覧会では、北九州市内から出土した勾玉をできる限り集め、展示した。勾玉の美しさを感じるとともに、勾玉が語る歴史の謎に思いをはせる機会とする。

### 展示内容

「第1章 まがたまとは」では、勾玉の形や特徴、素材などの概要について、ヒスイの勾玉を中心に紹介した。本章は展示全体の導入部分にあたっており、全資料の中でも特に重要と位置付け勾玉を展示した。具体的には宗像市教育委員会から借用した国指定重要文化財・ヒスイ勾玉（田熊石畑遺跡出土）、北九州市内個人蔵の獣形勾玉などを展示した。このコーナーは全面覗きケースとLEDライトを駆使して勾玉の持つ魅力を感じられる展示を心がけた。

続く「第2章 石のまがたま」では、勾玉のなかでも珍重されていたヒスイ製、水晶製の資料について、その特徴などを紹介した。主な展示資料は、北九州市内の城野遺跡、寺町遺跡、二ノ丸家老屋敷遺跡、長野尾登遺跡などから出土したものである。

「第3章 ガラスと土のまがたま」では、国内でガラス生産が始まったとされる古墳時代以降に作られたガラス製の勾玉などを紹介しながら、その製法などについて触れた。主な展示資料は北九州市内の蒲生石棺群、長野角屋敷遺跡などから出土した勾玉である。

「第4章 玉の素材と作り方」では、玉の素材となった石材にスポットを当て、館蔵の鉱物標本を展示し、また、加工に用いた工具類、成形途中の未成品などを共に展示して紹介した。

展示の概要は白黒版の解説シートを作成して来館者が持ち帰れるようにした。

(宮元香織)



「第1章 まがたまとは」展示風景

### (3) 古文書にみる戦国の北九州

期 間：令和4年6月25日（土）～令和4年9月4日（日）

72日間

会 場：ぼけっとミュージアム No.9・10

入 場 料：常設展入場料で観覧可能

担当学芸員：佐藤凌成

#### 概 要

戦国時代の北九州については、大内氏や大友氏、毛利氏といった戦国大名のことはよく知られる一方で、地域に根付いた武士や寺社にはなかなかスポットが当てられることがない。しかし、大名が地域を安定的に支配するためには、地域の武士や寺社を十分に掌握することが重要だった。

本展覧会では、館蔵品だけでなく、市内外の個人蔵や寺社蔵の古文書を展示して、地域の武士や寺社からみた戦国時代の北九州を紹介する。

#### 展示内容

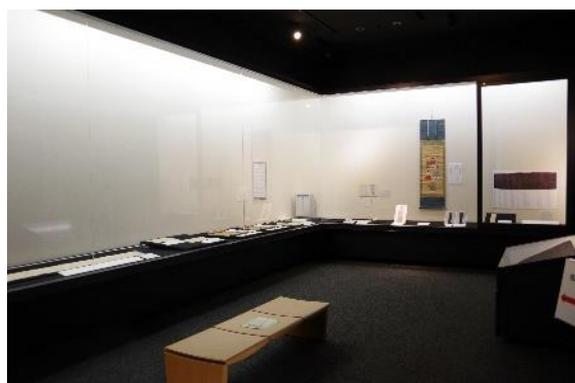
第Ⅰ章「大内氏の時代」では、南北朝時代以来、北部九州に強い影響をもった山口の大名 大内氏と北九州との関わりに注目した。「門司文書」（福岡県指定文化財）や「平野文書」（北九州市指定文化財）を中心に展示し、北九州の武士が大内氏の北九州支配を支えていたことを紹介した。

第Ⅱ章「境目 北九州」では、大内氏滅亡後、北九州の覇権をめぐる毛利氏と大友氏が争う時期を扱った。「和布刈神社文書」（北九州市指定文化財）や「麻生文書」（福岡市指定文化財）から厳選した古文書を通して、戦乱下の北九州で寺社や武士がどのように立ち回ったのか、という点に着目した。この一連の流れのなかで戦国時代の小倉城が築かれたことにスポットを当てたのが、第Ⅲ章「小倉城の誕生」である。毛利氏による小倉城築城の背景やその運用、毛利氏の後に小倉城に入城した高橋氏の活動に注目した展示を行った。また、小倉に残る数少ない高橋氏の足跡を示す資料として、「法輪山安全禅寺開基公尊像図」を展示した。

第Ⅳ章「国衆連合」では、秋月氏・高橋氏・長野氏ら筑前国・豊前国の武士が連携し、大名に対抗する勢力となったことを「萩原文書」や「神代長野文書」を通して紹介した。そして、豊臣秀吉の九州平定により九州の戦国時代が終結へ向かったことを「麻生文書」から紹介した。

なお、展示資料目録と各章の概要、当該期の年表を掲載した展示解説シートを作成し、来館者に配布した。

(佐藤凌成)



ぼけっとミュージアム No.9 展示風景



ぼけっとミュージアム No.10 展示風景

## (4) 襦袢「背守り」

期 間：令和4年6月25日（土）～令和4年9月4日（日）  
72日間

会 場：ぼけっとミュージアム No.11

入 場 料：常設展入場料で観覧可能

担当学芸員：上野晶子

### 概 要

庶民生活史研究者である堀切辰一氏は、庶民が用いた衣類・布類を収集し、その生活実態を探究するという独自の研究分野を開拓した。堀切氏は収集資料のうち 3,500 点を博物館へ提供するとともに、各資料に詳しい解説を付す作業を最晩年まで続けられた。博物館では堀切氏のコレクションを時代布コレクション「襦袢（らんる）」として、目録の刊行、展覧会の開催などを行ってきた。今回は魔除けとして付けられた「背守り」のある着物を中心に、子どもの健やかな成長を願う母親たちの想いについて紹介するものである。

### 展示内容

第1章「背守りとは」では、背守りが2歳頃までの子どもが着る「一つ身」の背中に付けられた飾りのことで、死角になる無防備な部分を守るためのものであることを紹介した。背守りの起源は明らかになっていないが、鎌倉時代後期に描かれた「春日権現験記」に小裂のような布が縫い付けられた着物の子どもがみられることから、古くからの風習であったようである。

第2章「背守りの種類」では、糸じるし、刺繍、小裂・紐・押絵などを縫い付けた背守りを展示し、その種類や技法について紹介した。糸じるしは、紅白の糸などを着物の中央に縫い付けたもので、「守縫」「十二針」ともよばれるものである。子どもの性別や地域によって縫い目に違いがあるが、1年が12か月であることにちなみ、12針の縫い目で飾られている。刺繍には魔除けの意味を持つ文様や鶴亀などの吉祥文などの意匠が多くみられるが、明治時代になると裁縫の教科書が刊行されるとともに自由な発想で様々な図案が紹介されるようになり、呪術的な意味から装飾的なものへと変化していった。小裂や紐は子どもが井戸や囲炉裏に落ちた際、神様がつかんで引き上げるために付けられたといわれ、押絵は小さなアップリケのようなものである。

なお、展示資料目録と各章の概要を掲載した展示解説シートを作成し、来館者に配布した。

(上野晶子)



展示風景

## (5) 折尾駅ものがたり

期 間：令和4年9月10日（土）～令和4年12月11日（日）  
93日間

会 場：ぼけっとミュージアム No.9・10・11

入 場 料：常設展入場料で観覧可能

担当学芸員：中西義昌

### 概 要

前年度に旧折尾駅舎・駅構内関連の一部部材が当館に寄贈されたことを受けて企画した展覧会である。九州鉄道記念館や北九州市内の鉄道愛好家の協力をいただき、九州鉄道・筑豊興業鉄道時代から国有化を経て今日に至るまでの折尾駅の関係資料や写真から日本初の立体交差駅である折尾駅の独自の役割と工夫、北九州における鉄道の発展と役割、地域における意義を明らかにした。

### 展示内容

序章「日本初の立体交差駅、折尾駅」と第1章「折尾駅と構内」では、貨物輸送を担う交通拠点として支線構内が発達した折尾駅の歴史を「駅構内配線図」「架線配置図及び信号機位置図」などから紹介した。続く第2章「貨物輸送から旅客輸送へ」では、次第に旅客輸送に転換する姿を「折尾駅時刻表」「行先表示サイドボード」、国鉄特急・急行ヘッドマークから追いかけた。最後に、第3章「旧折尾駅舎保存資料の紹介」では、今回寄贈された旧折尾駅舎資料の一部（「駅看板」「駅正面飾り」「円形ベンチ部材」）の展示を行った。

(中西義昌)



ぼけっとミュージアム No.9 展示風景



ぼけっとミュージアム No.11 展示風景



ぼけっとミュージアム No.10 展示風景

## (6) 東アジアの食文化

期 間：令和4年12月17日（土）～令和5年1月31日（火）  
46日間

会 場：ぼけっとミュージアム No.9

入 場 料：常設展入場料で観覧可能

担当学芸員：上野晶子

### 概 要

北九州市と仁川広域市は1988年に姉妹都市を締結し、自然史・歴史博物館では2010年より中国・旅順博物館を含む3館で「東アジア友好博物館に関する合意書」を締結し、交流事業をおこなってきた。北九州市立大学においても、2014年度より仁川国立大学校や仁川広域市立博物館との交流をおこなっている。本展は北九州市立大学生が企画し、仁川広域市立博物館で実施した企画展を要約し、東アジアの食文化について紹介したものである。また、2023年2月に仁川広域市立博物館で開催された「第6回 韓国と日本の食文化展—スクールフードと牛肉食」もあわせて事前開催した。

### 展示内容

展示資料は北九州市立大学と仁川広域市立博物館が製作した食品サンプルを中心とし、過去の5回の展覧会をもとに再編集した。第1章「年中行事と餅文化」では、人生の節目や正月・節句などの年中行事において餅が食される共通点を見出す一方、餅の形や食べ方に違いがあることを紹介した。第2章「学校給食」では、実際に使われた給食用の容器も展示し、おかずだけでなく容器にも違いがあることを示した。第3章「菓子」では、日本の「唐菓子」と韓国の「ヤックァ」を取り上げ、それぞれ中国の影響を受けながら発展した菓子であることを紹介した。そのほか、麺料理、保存食なども取り上げた。

「第6回 韓国と日本の食文化展—スクールフードと牛肉食」については、仁川広域市立博物館の学生ボランティアが来館し、展示作業をおこなった。また、会期中には北九州市立大学の博物館実習Ⅰの実習生が作成したワークシートを配布し、子どもむけのクイズを盛り込むなど、来館者が楽しめる工夫を施した。

(上野晶子)



ぼけっとミュージアム No.9 展示風景

## (7) わくわくタイムトラベル いま・むかし

期 間：令和4年12月17日（土）～令和5年1月31日（火）  
46日間

会 場：ぼけっとミュージアム No.10・11

入 場 料：常設展入場料で観覧可能

担当学芸員：上野晶子・中西義昌

担当MT：松永庸助・池田 優・金子滋夫・今城 明

### 概 要

小学校3年生社会科単元「わたしたちの市の歩み」のうち「かわる道具とくらし」の学習支援を目的として例年行っている展覧会で、道具やくらしのうつりかわりについて紹介するものである。今回は No.10 において「およそ 100 年前のくらし—大正～昭和の初め頃—」と「およそ 50 年前のくらし—昭和 40 年代頃—」の2つの時代に使われた道具類を展示し、電化製品が普及する前と後のくらしについて紹介した。また、No.11 において 2023 年 3 月に閉校した小森江東小学校が所蔵する資料の一部を展示した。これは、同小学校 6 年生と資料整理・資料選定・解説作成などを行った成果報告を兼ねるものである。

### 展示内容

第1章「およそ 100 年前のくらし」では、生活道具がかまどや七輪など火力を中心としていたことを紹介した。

第2章「およそ 50 年前のくらし」では、電気炊飯器などの電化製品の普及による生活様式の変化を紹介した。

第3章「小森江東小学校の資料」では、導入として小森江東小学校 6 年生が作成した学校の歴史・学校紹介のパネルを設置し、1897年の開校から 2023年の閉校までの小森江東小学校の歴史を辿り、学校の特徴を紹介した。資料は 15 人の児童が選定した民具類で、手書きの解説とともに展示した。

今回の展示は博物館と小学校が協同で企画した初めての展示で、資料整理・選定・解説文作成にあたっては、学芸員とミュージアムティーチャーが小学校へ赴き、児童らに指導をしながら作業をした。その様子は写真パネルで紹介し、児童たちが企画した展示であることを示した。展示作業は学芸員とミュージアムティーチャーが行ったが、公開後、多くの児童たちが自身が企画した展示を家族とともに観に来るなどしていた。

なお、衣食住の道具写真を用いた年表と、電化製品が普及する以前のくらしと現代のくらしのイラストを比べる「くらしの違い探し」を掲載した展示ガイドを作成し、配布した。

(上野晶子)

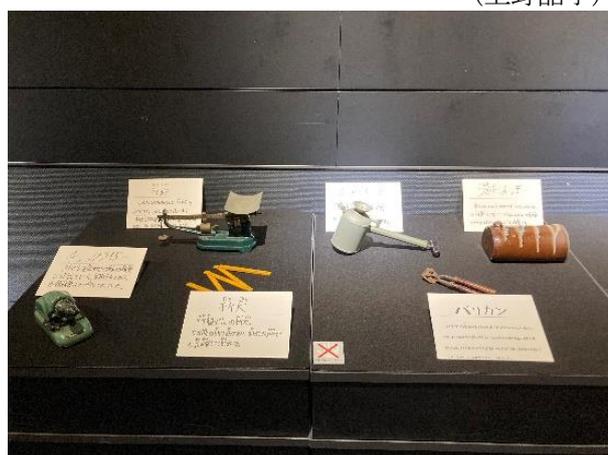


会 期 令和4年(2022) 12月17日(土) から 令和5年(2023) 1月31日(火)まで

場 所 小森江東小学校 ぼけっとミュージアム No.10、No.11



第2章「およそ 50 年前のくらし」展示風景



第3章「小森江東小学校の資料」展示風景

## (8) 北九州市制 60 周年記念 北九州市の誕生とその時代

期 間：令和 5 年 3 月 4 日（土）～令和 5 年 6 月 18 日（日）

76 日間（次年度への継続事業）

会 場：ぼけっとミュージアム No.9・10 ほか

入 場 料：常設展入場料で観覧可能

主 催：北九州市立自然史・歴史博物館

協 力：北九州市立文書館

担当学芸員：日比野利信

### 概 要

昭和 38（1963）年 2 月 10 日に門司・小倉・若松・八幡・戸畑五市が合併して北九州市が誕生した。令和 5（2023）年 2 月に北九州市が市制 60 周年を迎えるのを機に、改めて北九州市誕生の経緯について時代背景と合わせて振り返った。またその後の北九州市の 60 年の歩みを写真資料によって跡付けた。姉妹都市・友好都市についても紹介した。

### 展示内容

#### (1) 昭和戦後の北九州五市

昭和 23 年国体、昭和 28 年大水害、公営競技の叢生、関門国道トンネルの開通、小倉城復興天守の建設、若戸大橋と関門橋の開通、博覧会の開催などに関するポスターや関連資料、北九州五市の昭和戦後の地図

#### (2) 五市合併と北九州市の誕生

「北九州」の浮上、五市合併運動、新市名決定の経緯に関する公文書など

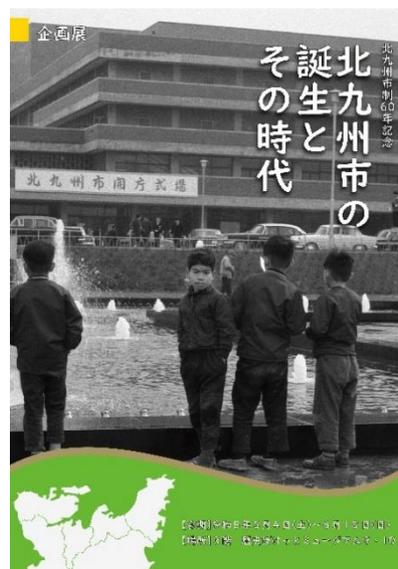
#### (3) 北九州市 60 年の歩み

写真資料「北九州市あの日」「人と暮らしの風景」

#### (付) 北九州市の姉妹都市・友好都市（於 東アジア交流コーナー）

ノーフォーク市（米国、1959 年、旧門司市の提携継承）、タコマ市（米国、1960 年、旧小倉市の提携を継承）、大連市（中国、1979 年）、仁川広域市（韓国、1988 年）

なお、展示の概要と展示品一覧、「写真に見る北九州の歩み」を掲載した展示解説シートを作成し、配布した。



「昭和戦後の北九州五市」展示風景



「北九州市の姉妹都市・友好都市」展示風景



「五市合併と北九州市の誕生」展示風景



新市名「北九州市」決定についての展示

## (9) 歴史ゾーン 常設展展示替え

定期的な展示替えによる資料保護や、来館者に北九州の歴史をわかりやすく伝える目的から、令和4年度は3度の常設展示の更新を行った。

### 1) 「北条時頼袖判下文」(麻生文書)の展示(中世)

期 間：令和4年4月29日(金)

～令和4年9月5日(月) 130日間

会 場：テーマ館「平安・鎌倉・室町時代の北九州」

担当学芸員：佐藤凌成

#### 概 要

前年度に「平家物語屏風」の展示と、デジタルサイネージによる源平合戦の解説を行った。これに続けて、今年度は鎌倉幕府と北九州の関係に着目した展示を行った。北九州ゆかりの古文書である麻生文書(福岡市指定文化財)のうち「北条時頼袖判下文」を借用・展示することで、筑前国の名族である麻生氏と鎌倉幕府の関係を示すとともに、鎌倉時代が中世北九州の基礎をかたちづくった重要な時代であることを紹介した。



(佐藤凌成)

### 2) 「蒙古襲来絵詞」(複製)の展示(中世)

期 間：令和4年10月1日(土)～

会 場：テーマ館「平安・鎌倉・室町時代の北九州」

担当学芸員：佐藤凌成

#### 概 要

鎌倉時代コーナーについて、「蒙古襲来絵詞」(宮内庁三の丸尚蔵館所蔵本の複製)を展示した。卷子本(巻物)のため全場面を一度に展示することができないことから、デジタルサイネージを用いて重要な場面を厳選して紹介した。その際に、日本軍と元軍との武具の特徴や違いの解説を加えたり、蒙古襲来にいたった時代背景や蒙古襲来後に鎌倉幕府が衰退していく過程を解説することで、当時の合戦の様相や蒙古襲来の歴史的意義を知っていただけるよう工夫した。

(佐藤凌成)



上巻

## 元軍との交戦

### 集団戦法

元軍は銅鑼(どら)や太鼓を用いて集団で行動する集団戦法を用いた。戦闘に際して名乗りをあげたり一騎討ちをしたりする日本の武士とは異なる元軍の戦法も、日本軍を苦しめた。

銅鑼(ドラ) 鹿原に陣を構える元軍

デジタルサイネージの一場面

### 3) 江戸時代の北九州交通ゾーン 展示替え

期 間：令和5年3月4日（土）～

会 場：テーマ館「江戸時代の北九州」

担当学芸員：守友 隆

#### 概 要

テーマ館江戸時代の北九州、特に交通に関する展示については、これまでほとんど変更してこなかったが、その後、研究の進展によって展示解説の変更・修正・補足が必要となっている。そこで、「長崎街道と筑前六宿」・「響灘の海運」・「唐船」打払い」などの展示解説パネル・キャプションを変更・修正し、それに合わせて展示資料の入れ替えを行った。

また、江戸時代の北九州の交通について、観覧者の興味・関心・理解を促すため、テーマ展を企画した。その第1弾として「江戸時代の旅と古文書」を開始した（会期：令和5年3月4日～6月18日）。主な展示史料は以下の通りである。

- ・文政9年（1826）に江戸で出版された絵図式の道中記「懐中両面道中記」1枚
- ・寛延元年（1748）に大坂で出版された文字だけの案内書、西国の街道・宿場の距離・駄賃・船賃などが記されている「大坂方長崎迄道中往来の記」1冊
- ・長崎の平山久右衛門が長崎一小倉間を往復した際、長崎街道各宿場で人足・船を利用し、駄賃・船賃を支払ったことを証明するため支払い時、問屋（人馬継所）の押印をもらった人馬駄賃帳1冊
- ・文久2年（1862）12月、小倉藩主小笠原忠幹が14代将軍家茂の上洛に供奉するため大坂に上る際、長門国吉田宿（現下関市）に宿泊した時に作成された「小笠原大膳大夫様御泊御下宿帳」1冊
- ・慶応元年（1865）11月、長崎奉行能勢頼之の行列の通行予定が記された先触1通
- ・豊前國小倉城下の母と娘が檀那寺に発給してもらった往来証文1通
- ・享保20年（1735）、肥後国宇土（現熊本県宇土市）藩主細川興生の家臣が小倉に派遣される際、宇土藩の役人から与えられた往来証文1通
- ・明治5年（1872）2月、長州下関の禅宗光東寺が檀家の長林久吉の娘春に発給した往来手形1通

さらに期間限定の特別展示で、金梨地九曜紋蒔絵刀筒1点を展示した。刀筒とは、大名などが参勤・下国の道中などで長い刀を駕籠の中に持ち込まず、入れて持ち歩かせたもので、本史料は江戸時代初期の小倉藩主細川氏ゆかりの品と伝わり、家紋の九曜紋があしらわれている。

（守友 隆）



江戸時代の北九州交通ゾーン展示風景



「江戸時代の旅と古文書」展示風景

## (10) 雲仙普賢岳噴火災害を振り返る

期 間：令和4年12月10日（土）  
～令和4年12月25日（日） 16日間

会 場：常設展・休憩デッキ

主 催：雲仙岳災害記念館

共 催：全国火山系博物館連携協議会

担当学芸員：森 康

### 概 要

長崎県島原半島で起きた雲仙普賢岳噴火災害から30年を迎えることから、災害の状況、噴火活動、支援活動の過程を、被災資料やパネルとともに紹介する巡回展が雲仙岳災害記念館（がまだすドーム）により企画され、当館を含む国内8館で開催された。当館ではスペースの都合により、実物資料7点、パネル9枚（入れ替えにより全12枚）を抽出しての展示となった。実物資料は時間をかけて見られる傾向にあった。子供より大人の方が高い関心を持ったようである。特に若者（10代後半～20代と思われる）が足を止めて熱心に見ている姿をよく見かけた。期間中の常設展入場者は9,542人であった。

（森 康）



## (11) 生命の材料は宇宙から？いん石と小惑星リュウグウ

期 間：令和4年6月24日（金）  
～令和4年9月4日（日） 73日間

会 場：エントランスホール

入 場 料：無料

担当学芸員：森 康

### 概 要

2020年、小惑星探査機「はやぶさ2」が小惑星リュウグウの構成物質5.4gを持ち帰った。このサンプルは、惑星の形成や生命の誕生に関する新しい知見をもたらすものとして研究が進められている。そこで、来館者の知的好奇心と理解を高めることを目的として、小惑星リュウグウサンプルの3Dプリンターレプリカ（JAXAはやぶさ2プロジェクト提供）を当館所蔵の隕石標本3点（マーチソン隕石、アエンデ隕石、NWA7184隕石。いずれもリュウグウサンプルに類似すると考えられる炭素質コンドライト）とともに展示し、小惑星探査や惑星形成過程などを解説した。期間中の常設展入場者は181,299人であった。小惑星リュウグウサンプルの3Dプリンターレプリカは、展示終了後に当館に寄贈された。

（森 康）



## (12) 到津の森公園とのコラボ展示

期 間：令和4年7月16日（土）  
～令和4年9月4日（日）  
50日間

会 場：到津の森公園南口ゲート  
付近および当館休憩デッキ

担当学芸員：江頭幸士郎・蓑島悠介

### 概 要

到津の森公園と当館の20周年コラボ企画として、到津の森公園南口ゲート付近に当館のサテライト展示を、当館休憩デッキに到津の森公園のサテライト展示を設置し、合わせて二館合同スタンプラリーイベントを実施することで、各館のPRおよび還流促進を図った。当館は同年夏の特別展「昆虫博2022」にちなんだ大型昆虫ペーパークラフト等の展示を、到津の森公園は開園から20年間の歩みなどを紹介する写真・パネルを中心に展示を行った。

(江頭幸士郎)



## (13) 先端技術を使って明らかになった肺の起源

期 間：令和4年7月28日（木）～令和5年1月29日（日）186日間

会 場：ポケットミュージアム No.2

担 当：大橋智之・日比野友亮

### 概 要

当館名誉館員の藪本美孝氏が共同研究者として関与した、精細なCTスキャンを用いた研究によって肺の起源に迫る論文が公表されたため、研究に用いられたシーラカンスに関する「ポケットミュージアム No.2」内に解説パネルを掲示した。

(日比野友亮)

さいせんたんぎじゅつつかあき はいきげん  
**最先端技術を使って明らかになった肺の起源**

数ミリから十数ミリの仔稚魚のCT画像の解析から人類を含む四足動物の肺の起源が明らかになりました。これはシンクロトロンという最先端の施設を使って行われた研究で、2018年にパリ郊外のシンクロトロン：ソレイ（SOLEIL）でポリプテルスの仔稚魚と両生類の幼生が、2020年に兵庫県のシンクロトロン：スプリング8（Spring-8）でオーストラリアハイギョの仔稚魚がCT撮影されました。

研究の結果、魚類が持つ肺は基本的には一つで、両生類になって初めて真の二対の肺ができることがわかりました。

この研究成果は2022年7月19日にイーライフ（eLife）という国際科学誌で公開されました。

ブラジル、フランス、日本の共同研究で、当館も参加しています。



オーストラリアハイギョの仔稚魚をCT撮影したビームライン2020



オーストラリアハイギョの仔稚魚のCT画像の解析



オーストラリアハイギョの仔稚魚をCTスキャンするための装置

オーストラリアハイギョの仔稚魚のCT画像の解析

オーストラリアハイギョの仔稚魚のCT画像の解析しているところ。モニタに撮影した画像が表示されている

スプリング8（Spring-8）でのオーストラリアハイギョの仔稚魚のCT撮影 2020年2月18日

#### (14) 古いカタチを残す生き物たち～ボールニシキヘビ生体展示追加

期 間：令和4年7月26日（火）～

会 場：ぼけっとミュージアム

担当学芸員：江頭幸士郎

##### 概 要

当該ぼけっとミュージアムは令和2年度に「古いカタチを残す生き物たち」というコンセプトで設置したものであるが、展示生体の老化に伴い入れ替えを行った。後ろ足の痕跡を持つなど古い時代の特徴を残すヘビであるボールニシキヘビを追加した。あわせて、生体の生理状態についての解説等を新たに設置し、動きの少ない動物の生態についての理解促進を図った。



(江頭幸士郎)

#### (15) 北九州市から見つかった恐竜の展示

期 間：令和4年10月13日（木）～令和4年12月4日（日） 53日間

会 場：博物館エントランス無料ゾーン

入 場 料：無料

担 当：大橋智之

##### 概 要

北九州市小倉南区で1996年に発見された化石が福岡大学・熊本大学の研究の結果、竜脚類恐竜ティタノサウルス型類の頸椎であることがわかり、学術誌に掲載されることになったので、該当化石を特別に公開した。北九州市内からは2例目の恐竜化石の産出報告である。北九州市は全国的にも珍しい、街中のすぐ近くに化石産地がある特色を有することから「恐竜の眠る街」として広報し、複数の地元メディアに取材していただくなど、博物館の研究成果を広く周知・普及することができた。

(大橋智之)



## (16) ノスリの亜種と渡りに関する特別展示

期 間：令和4年7月20日（水）～令和4年8月28日（日） 40日間

会 場：自然発見館

担当学芸員：中原 亨

### 概 要

ノスリという猛禽類（タカのなかま）のユーラシア大陸亜種が日本国内で越冬していることを確認し、その渡り経路が日本列島亜種とは全く異なっていることを報告した論文がオンライン公開されたことに合わせ、特別展示を行った。日本列島亜種の本剥製とユーラシア大陸亜種の写真パネルを展示するとともに、北九州上空をノスリが



渡るアニメーションやGPSロガーによって判明した両亜種の渡り経路を示した動画を流した。動画内では、2亜種の繁殖域や渡り経路が日本海を挟んで地理的に隔離されていることに触れ、数百万年以上にわたって大きな水域を有する日本海が存在が両亜種の分化をもたらした可能性についても言及した。研究成果には北九州市内で越冬していた日本列島亜種の追跡結果も含まれており、身近に生息する生物の興味深い一面を紹介することができた。

(中原 亨)

## (17) 松本零士先生を偲ぶ

期 間：令和5年3月25日（土）～

会 場：地学現象

担当学芸員：森 康

### 概 要

「銀河鉄道999」や「宇宙戦艦ヤマト」などの作品で知られる漫画家・松本零士氏が令和5年2月13日に逝去された。松本氏は、福岡県立小倉南高等学校在籍中に投稿した作品でデビューし、北九州博覧祭2001公式ポスターの作成を手がけたり、北九州市漫画ミュージアムの名誉館長を務めたりするなど、北九州市とゆかりの深い漫画家である。そこで



松本氏追悼の意を込めて、当館所蔵の隕石標本と天体写真の企画展を行った。隕石標本は、太陽系の形成初期にできたアエンデ隕石とマーチソン隕石を選んだ。天体写真は、松本作品にしばしば登場する、彗星（ハールボップ彗星）、天の川銀河、マゼラン銀河で、当館のミュージアムティーチャーが撮影したものである。

(森 康)

## (18) クリスマス展示

期 間：令和4年12月1日（木）  
～令和4年12月25日（日） 25日間

会 場：恐竜デッキ

担当学芸員：中西 希

### 概 要

クリスマスシーズンである12月にサンタクロースと繋がりの深いトナカイを紹介し、記念撮影を行えるように展示を行った。

### 展示標本

トナカイの剥製がプレゼントを載せた木製のそりを引いている様子を表現した。来館者はそりに乗ることができ、記念撮影を行えるようにした。



## (19) 干支展示

期 間：令和4年12月28日（水）  
～令和5年1月31日（日） 32日間

会 場：博物館入口エレベーター横

担当学芸員：中西 希

### 概 要

博物館新館オープンから、リニューアルオープンのための閉館時を除き、毎年その年の干支にちなんだ展示を12月末から1月に行っている。

### 展示標本

令和5年の干支「卯」にちなみ、日本国内に生息するウサギ科の剥製4体（ニホンノウサギ夏毛・冬毛、エゾユキウサギ、アマミノクロウサギ）を展示した。

(中西 希)



## (20) イオンモール八幡東店出張展示

期 間：令和4年7月16日（土）  
～令和4年9月4日（日） 51日間

会 場：イオンモール八幡東店3階渡り通路

入 場 料：無料

担当学芸員：大橋智之・蓑島悠介・宮元香織

### 概 要

イオンモール八幡東店協力の下、博物館開館20周年記念イベントの一つとして「ミニミニいのちのたび博物館」展示をイオンモール八幡東店3階の渡り通路で開催した。ティラノサウルス頭骨レプリカを展示した他、開催中の夏の特別展「昆虫博2022」、10月から開催の秋の特別展「トイレのうんちく展」の周知・広報を兼ねたそれぞれの関連標本・資料を展示ケース2台で展示した。また、様々な20周年記念イベントの告知看板も設置し、多くの方に周知できるようにした。

(大橋智之・蓑島悠介・宮元香織)



## (21) 小倉駅ホーム出張展示

期 間：令和4年7月25日（月）

～令和5年3月27日（月） 246日間

会 場：JR小倉駅5・6番ホーム 旧喫煙ルーム

担当学芸員：竹下文雄・御前明洋・大橋智之

### 概 要

JR小倉駅と連携して、小倉駅5・6番ホームの旧喫煙ルームにおいて、出張展示「ぷらっとミュージアム」を開設した。期間を3つに分け、7月25日（月）～9月16日（金）（54日間）は、第1弾としてオオシャコガイや、アラフラオオニシ、ヤコウガイ、トウカムリなどの大型の貝類標本を、9月16日（金）～12月21日（水）（97日間）は、第2弾としてアースロプレウラ、メガネウラなどの大型絶滅節足動物や、シノサウロプテリクス、ミクロラプトルなどの羽毛恐竜の復元模型を、12月21日（水）～3月27日（月）（97日間）は、第3弾として「人馬一体標本」（骨格標本）を紹介した。展示の様子については、新聞やテレビ等でも紹介された。



（御前明洋）

## (22) オンライン展示「Loupe～レンズの中の鉱物展」

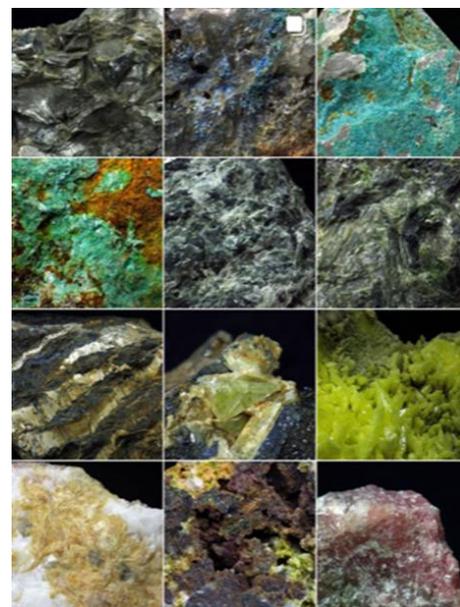
期 間：令和4年4月1日（木）～令和5年3月31日（金） 365日間

メディア：インスタグラム (@kmmh\_natural\_history)

担当学芸員：森 康

### 概 要

2022年はユネスコの支援を得て国連総会で決定された「持続可能な発展のための国際基礎科学年」であり、国際鉱物学連合が中心となって日常生活における鉱物の重要性について、人々の認識を高める活動が世界各地で行なわれる。これに対応して、当館では令和4年1月1日（土）～令和4年3月31日（水）にオンライン企画展を実施し、所蔵する鉱物標本の接写画像を配信した。この企画展が好評だったため、期間を延長して新たに142回160枚の画像（フィード）を断続的に配信した。SNS企画展は開始から1年余りを経て広く認知されつつあるようで、3月末時点でのフォロワーが198人に増加した。



（森 康）

## 12. 中核施設としての重点事業

### (1) 北九州ミュージアムパーク創造事業

#### —東田エリアを中核とする文化×産業×観光—

当館は同じ東田地区にある環境ミュージアムや、市内の美術館、児童文化科学館などと相互連携して、文化庁「地域の美術館・歴史博物館クラスター形成支援事業」の助成を受けて、平成30年度から「東田ミュージアムパーク創造事業」を実施してきた。

令和2年度から上記の文化庁助成事業が「博物館等を中核とした文化クラスター推進事業」に移行したことに伴い、本事業も標記事業に衣替えし、東田地区に建設される新科学館や市内の企業ミュージアムを構成施設として、標記の事業を実施することとなった。旧事業で数えると5年目、新事業では3年目となる令和4年度は下記の事業を実施した。

#### 当館における主催事業

##### 1) 東田三館連携企画展の開催

###### ① SDGsを共通テーマとした連携企画展の開催 (令和4年10月1日～11月30日)

博物館では、開催中の「トイレのうんちく展」に関連付け、「災害とトイレ展」と題して災害用マンホールトイレや災害避難時の携帯グッズなどを展示した。スペース LABO では常設展内にSDGsコーナーを、環境ミュージアムではSDGsをテーマとした企画展やパネル展などを開催した。



###### ② 特別展「トイレのうんちく展」(令和4年10月1日～11月23日) 詳細は22～23ページ参照 遺跡から発掘された古代のトイレから最新のトイレまで、トイレにまつわるさまざまな「うんちく」や歴史について、豊富な資料や模型で紹介する展覧会を行った。

##### 2) 収蔵資料等(コレクション) デジタルアーカイブ事業

博物館の収蔵資料や地域の歴史資源、北九州市の足跡や変遷を示す近代資料を中心として、デジタルアーカイブを構築し、公開をはかるものである。

令和4年度は博物館収蔵資料の写真撮影を行うとともに、古写真等のデータベースを作成した。また、当館収蔵資料の情報を一部公開しているデータベースに資料写真と解説文の公開を開始した。

##### 3) 博物館魅力磨き上げ(展示空間の進化)事業 詳細は12～15ページ参照

令和2年度に常設展における課題解決のための方法等の調査・検討、令和3年度には展示等施設改修基本計画の策定を行い、報告書をまとめた。令和4年度は、これらの計画等を踏まえ、10年ぶりに常設展リニューアル改修を行った。あわせて、常設展の照明LED化を実施した。

(田平直幸・宮元香織・大橋智之)

## (2) 東アジア友好博物館交流事業

当館は北九州市の姉妹都市の韓国・仁川広域市の仁川広域市立博物館（以下「仁川博」という。）、友好都市の中国・大連市の旅順博物館（以下「旅順博」という。）と「東アジア友好博物館に関する合意書」を締結し、毎年館長会議を開催するとともに、学芸員派遣事業や展示交流事業などを継続的に実施している。

今年度の当番館は当館であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため渡航がかなわず、オンライン上にて7月29日（金）に実務者会議、11月4日（金）に館長会議を行った。

実務者会議においては、前年度実施した巡回展「厠、トイレになる」展について、各館から開催報告が行われた。また、11月に予定しているシンポジウムについて、当館から趣旨説明と事前報告を行い、シンポジウムについての合意書を作成し、郵送で調印することとなった。さらに仁川博から令和5年度に主催するシンポジウムのテーマを「海港都市と民俗」にしたいとの提案があった。

館長会議では、第3回巡回展についての事業報告が、仁川博、旅順博、当館の順で行われた。また、仁川博により、来年度のシンポジウムのテーマについて提案があった。

このほか、当館主催のシンポジウム「東アジアの海港都市と建築—北九州・仁川・大連—」は11月5日（土）当館の開館20周年記念事業として、仁川博、旅順博をインターネットで結び、当館ガイド館にて行った。シンポジウムに先立って、5月20日には下関市における建築調査、7月9日には北九州市における建築調査を行い、7月の調査には講演予定の名古屋大学大学院の西澤泰彦教授が参加した。シンポジウムの基調講演は西澤教授による「近代東アジアの海港都市と建築—関門・仁川・大連—」があったのち、関連報告として当館中西義昌学芸員による「海港都市・北九州の形成と近代建築」、仁川博の金來永学芸研究士による「仁川開港期の建築」、大連芸術学校副校長・研究員の秦吟氏による「甘井子石炭埠頭と周辺の建築」が行われた。参加者は93名、当館歴史友の会の協力も得て実施し、32ページの要旨集（三ヶ国語）も刊行した。この様子は当館ホームページ YouTube にて公開している。

なお、シンポジウム開催については、公益財団法人カメイ社会教育振興財団の助成を受けた。  
(宮元香織)



実務者会議の様子

館長会議の様子

シンポジウムの様子

### (3) ジオパーク推進事業

ジオパーク活動の普及に向けた取り組みや情報収集活動を継続したが、前年度に引き続きコロナ禍の状況を踏まえた普及講座など当館主催イベントの計画と実施、各種事業への参加など対応を行った。また、今年度は開館20周年を記念した展示リニューアルによる休館期間があったため、それを踏まえた普及講座等の開催回数となった。その他本市の貴重な地質遺産の市民への周知を深めるため、ジオサイト・イベント予定を紹介するジオパークホームページの維持管理などを行った。このほか、日本ジオパークネットワーク主催の事業に参加し情報収集につとめた。

本年度は、これまで実施してきたジオパーク活動推進事業を総括した。その結果、本市としてジオパーク認定は断念するものの、種々のジオパーク活動は当館の普及活動とも理念が合致するものであるため、普及講座の一環として継続することとした。

#### 主要事業と経過

##### 1) ジオパーク普及講座の実施（一般参加者合計30名）

室内講座1回

野外観察会（ジオハイキング）1回計画・実施

##### 2) ジオパークホームページの運営、アクセス解析の実施

##### 3) 日本ジオパークネットワーク事業等参加

参加：日本ジオパークネットワーク通常総会（東京、令和4年5月26日）

オンラインによる参加：第12回日本ジオパーク全国大会白山手取川大会（令和4年10月21日～10月23日）

（太田泰弘・大橋智之）



ジオパークホームページより

# 13. 教育普及事業

## (1) 博物館セカンドスクール事業

博物館が第2の学校(教室)として、子どもたちの来館機会を創出し、新しい発見や感動を胸に理科・社会科への学習意欲を持たせる仕組みづくりを行うため、学校教育現場と博物館との連携強化を進めている。

### 1) 博物館への誘致事業

学校や修学旅行を手配する旅行会社へのPR・セールス活動  
小・中学校向けの情報誌を月1回発行(幼・保育園は年2回)

### 2) 学校教育支援事業

ガイドブック、体験活動プログラム資料など博物館活用資料の整備  
化石レプリカづくり、ペットボトル顕微鏡づくりなど体験学習プログラムの実施  
小学校への出前授業、ディスカバリーボックスの貸出など授業づくり支援  
職場体験学習、教員等社会体験研修の受け入れ、環境アクティブ・ラーニングの実施

### 3) 家庭教育支援事業

子ども教室(前後期各6回の連続講座)や募集型講座の実施  
ワークショップイベント等への参加

## 【令和4年度 実績】

### 1) 博物館への誘致事業

誘致先	市内	熊本	鹿児島	宮崎	大分	山口	福井	石川	滋賀	京都	合計
訪問社数	49	7	5	5	4	18	4	5	5	5	107

※ 市内誘致先は、市内小・中学校。その他各県は、旅行社。

### 2) 学校教育支援事業(学校等団体)

団体	保・幼	小学校	中学校	高・大	特別支援	合計
団体数	165	390	100	39	13	707
人数	6137	23036	9398	2079	372	41022

体験プログラム	レプリカ	顕微鏡	化石発掘	勾玉	古代の鏡	古銭	合計
学校数	22	4	8	3	0	2	39
人数	1174	157	429	71	0	68	1899

授業	昔の道具調べ	土地のつくり	環境アクティブ・ラーニング	合計
学校数	18	35	33	86
人数	567	1998	1712	4277

### 3) 家庭教育支援事業(一般団体:市民センター、学童保育クラブ、子供会など)

○ 団体数: 278団体 人数: 6342名

体験プログラム	レプリカ	顕微鏡	化石発掘	勾玉	古代の鏡	古銭	合計
団体数	5	0	1	0	1	0	7
人数	117	0	18	0	27	0	162

講座名	回数	参加者数
いのちのたび子ども教室	前期6回 後期6回	24名(各12名×6回×前後期2期)
普及講座	17講座	255名

※ 東田サマースクールはKIGS閉館に伴い終了。

#### 4) 学校教育支援事業（支援実績）

##### ①教員研修

※市内外の教員を対象とした研修

**実施日時：**令和4年7月26日（火）（歴史系）、8月1日（月）（自然史系） 9:00～17:00

**実施内容：**体験プログラム、館内見学、バックヤードツアー、KGG体験など

**実施結果：**全29名（市内14名、市外15名）

○参加者の様子（アンケートより）

- ・社会科見学の前に、事前授業で伝えておいたほうが良いポイントを押さえることができた。
- ・下見に来ても、何処に何があるとどの順序で回るかを考えるだけだが、博物館の解説をじっくり聞けたので、子ども達に返すことができる。



出前授業「土地のつくりと変化」を体験する教員



学芸員による収蔵庫の解説

##### ②みらいのとびらオンライン授業（中学校社会）

※市教育委員会の不登校児童を対象としたオンライン授業

**実施日時：**令和4年10月14日（金）9:00～11:10

**対 応：**歴史課学芸員6名 MT1名 市教委7名

**実施内容：**学芸員が交代でカルチャーモールからテーマ館、文化学習園、特別展までの解説とクイズ

**実施結果：**参加人数 64名（小学校8名、中学校56名）

○参加者の様子（感想より）

- ・前に何度か行ったことがあったのですが、何年か経ってしまったのでもう一度見ることでとても楽しかったです。もう一度実際に見に行きたくもなりました。今回見学をしたことで歴史に少し興味をもったのでいろいろ勉強してみたいと思いました。

○所感

- ・何でも質問タイム（希望制の居残り質問時間）の参加者が非常に多く（担当者談）、途切れることなく質問が出ていた。学校、博物館、歴史に対する興味・関心の喚起につながっていた。



特別展「トイレのうんちく展」の解説



出演学芸員による参加生徒への呼びかけ

### ③みらいのとびらオンライン授業（中学校理科）

**実施日時：**令和4年11月25日（金）9:00～11:10

**対 応：**自然史課学芸員2名 MT 1名 市教委 5名

**実施内容：**アースモールと収蔵庫の展示解説とクイズ

**実施結果：**参加人数 46名（小学校2名、中学校44名）

○参加者の様子（感想より）

- ・じいちゃんが鹿の頭蓋骨を持っています。バビルサこんな頭蓋骨なんだ。楽しい。面白い。先生たちのお話面白かったです。ありがとうございました。

○所感

- ・講義途中から質問が多数チャットに送られてきていた。参加者の意欲的な姿が伺えた。教育効果は非常に高いといえる。



収蔵庫からの中継



参加者の見ている画面

### ④オンラインによる博物館のワンポイント利用

**実施日時：**令和5年1月18日（水）9:35～（計3回）

※各回出演時間 20～30分程度

**対 象：**北九州市立永犬丸小学校 4年生81名

**実施内容：**4年生国語科「ウナギのなぞを追って」

**実施結果**

○参加者の様子（児童の様子、教員からの聞き取りより）

- ・担任の進め方で利用時間等は大きく変わるので、事前の打ち合わせをきちんと行う必要はあるが、教育効果は非常に高く、博物館への誘致効果も高いといえる。



ワンポイント利用時の教室の様子①



ワンポイント利用時の教室の様子②

## (2) 普及講座

### 1) 自然史系の普及講座

自然史に親しみ、理解を深めてもらうため各学芸員の専門分野の講座を14回開催した。

種別	講座名	開催日	人数
室内講座	動物命名の世界を知ろう	4月23日(土)	4
室内講座	哺乳類の食べ物を調べてみよう!	5月14日(土)	10
室内講座	バードウィーク市民探鳥会	5月15日(日)	14
室内講座	きみにもできる? 遺伝子PCR	5月22日(日)	8
室内講座	昆虫標本作製教室	6月4日(土)	26
室内講座	顕微鏡で見る美しい鉱物	6月12日(日)	13
室内講座	植物細密画を描いてみよう!	7月10日(日)	6
夏休み教室	権現山の昆虫観察会	7月23日(土)	8
室内講座	ジオ講座「小さな化石にふれてみよう!」	7月24日(日)	17
夏休み教室	ジオハイキング「化石と地質のたのしみ方」	8月7日(日)	13
室内講座	ヤドカリのひっこしを観察しよう	9月11日(日)	18
室内講座	化石の日イベント「いのちのたびの恐竜20年」	10月15日(土)	28
室内講座	植物細密画を描いてみよう!	10月23日(日)	11
室内講座	恐竜この1年	12月3日(土)	25
	14講座	14日	201

### 2) 歴史系の普及講座

歴史や文化にかかわる講座を実施し、理解につとめた。連続講座では、より深い学習を求める方々に向けた講座を行った。

種別	講座名	開催日	人数
歴史探訪	北九州の文化財を歩く【長野城】	4月16日(土)	17
室内講座	古文書読み方講座(全11回)	4月27日(水)～3月22日(水)	25
室内講座	小倉織入門教室	8月20日(土)	12
	3講座	13日	54

### 3) 特別展の普及講座等

特別展に関連したイベントとして下記を開催した。

展覧会	講座名	開催日	人数
春の特別展	小倉競馬場バックヤードツアー	4月3日(日)	20
夏の特別展	ナイトミュージアム「夜の昆虫博2022」	7月29日(土)	92
		8月19日(金)	138
秋の特別展	学校団体への展示解説	学校団体(2団体)からの依頼により実施	285
秋の特別展	講演会「ウンチのうんちく」「トイレのうんちく展見どころ紹介」	10月22日(土)	68
秋の特別展	ハロウィンナイトミュージアム	10月29日(土)	541
冬の特別展	うなぎの蒲焼教室	12月11日(日)	68
冬の特別展	関連講演会「ウナギ研究のこれまで、これから」	12月17日(土)	56
冬の特別展	田舎庵会長緒方弘氏によるスペシャルトークショー&ギャラリートーク	1月7日(土)	72
冬の特別展	担当学芸員によるギャラリートーク	1月14日(土)	30
春の特別展	ナイトミュージアム	3月25日(土)	649
		合計	2,019

#### 4) いのちのたび子ども教室

当館の特色を活かした体験活動などを行い、自然や歴史について学習することを目的とする子ども（小学校4年生～中学校3年生）を対象とした全6回の連続講座である（前・後期2期で実施）。基本的には、なるべく座学ではなく、専門家である学芸員とともに観察をしたり、体験活動を行ったりする。

【参加人数】24名（各12名×6回×前後期2期）

講座内容	担当学芸員	実施日
前期		
葉っぱからわかること	真鍋 徹（自然史課）	5月21日（土）
古文書をよんでみよう	守友 隆（歴史課）	6月11日（金）
「結晶」～見てみよう・作ってみよう～	森 康（自然史課）	6月25日（土）
化石にふれてみよう、化石レプリカづくり	太田泰弘（自然史課）、MT	7月9日（土）
恐竜の歯の観察	大橋智之（自然史課）	9月10日（土）
体験プログラム・活動したことをまとめよう	MT	9月24日（土）
後期		
カエルやヘビのかたちのふしぎ	江藤幸士郎（自然史課）	10月22日（土）
魚の形の観察	日比野友亮（自然史課）	11月12日（土）
鳥の羽根にクローズアップ！	中原 亨（自然史課）	11月26日（土）
博物館でむかしの住まいを探る	中西義昌（歴史課）	12月10日（土）
ほにゅうるいの骨を観察してみよう	中西 希（自然史課）	1月14日（土）
体験プログラム・活動したことをまとめよう	MT	1月28日（土）

※MT=ミュージアム・ティーチャー

### （3）博物館実習

#### 1) 自然史課博物館実習

学芸員養成過程の学生を受け入れ、各学芸員が数講座ずつを担当した。5日間と10日間を学生が選択した。

1期：8月2日（火）～8月13日（土）、日曜・月曜休講の10日間

人数：13名（うち4名は5日間）

所属大学：北九州市立大学1名、福岡大学6名、北海道大学1名、筑波大学1名、信州大学1名、西南学院大学1名、福山大学1名、宮崎大学1名

2期：8月23日（火）～9月3日（土）、日曜・月曜休講の10日間

人数：10名（うち5名は5日間）

所属大学：北九州市立大学1名、福岡大学1名、福山大学1名、琉球大学2名、神戸芸術工科大学1名、山口大学3名、佐賀大学1名

#### 2) 歴史課博物館実習

学芸員養成課程の学生を受け入れ、それぞれ学芸員が分担して指導を行った。

期間：令和4年8月23日（火）～8月27日（土） 5日間

人数：10名

所属大学：北九州市立大学2名、福岡大学3名、皇學館大学1名、佐賀大学2名、西南学院大学1名、京都橘大学1名

#### (4) 職場体験・職員研修受け入れ

毎年、教育機関等からの依頼を受け、生徒・学生・教職員などが研修生として働くことで、将来に向けての就業体験や社会人として広く見識を深めることが出来るように研修の企画・運営を行っている。今年度はインターシップに1件、職場体験を4件の依頼を受けた。

##### <インターンシップ>

期間 第1期 令和4年10月12日(水)～14日(金)

第2期 令和4年12月5日(月)～9日(金)

研修者 島根大学大学院 学生1名

内容

- 自然史研修
- 歴史研修
- MT業務研修(博物館概要、体験プログラム 団体受付業務等)
- テーマ研究

##### <職場体験①>

期間 令和4年7月6日(水)

研修者 田川市立田川中学校 中学2年生1名

##### <職場体験②>

期間 令和4年7月28日(木)～29日(金)

研修者 西南女学院中学校・高等学校 中学2年生4名

##### <職場体験③>

期間 令和4年8月16日(火)～17日(水)

研修者 輝翔館中等教育学校 中学3年生1名

##### <職場体験④>

期間 令和4年8月18日(木)

研修者 飯塚市立庄内中学校 中学2年生1名

※ 当日、生徒の体調不良により中止。

職場体験の内容(各学校とも共通)

- 自然史研修
- 歴史研修
- MT業務研修(博物館概要、体験プログラム 団体受付業務等)

#### (5) 外部機関の依頼による講演など

小・中学校や高等学校・大学など学校教育機関、年長者大学や市民センターなど社会教育機関ほか、外部機関の依頼を受けて、学芸員が専門分野に関する講演などを行なった。

##### 1) 普及課

14件：東洋学園大学公開講座講師や国立沖縄自然史博物館シンポジウム、徳之島小学校合同授業などにおいて、生態系や生物の生態、保全に関する講演などを行なった。

## 2) 自然史課

23 件：市内の小学校や小中学校の教員、北九州市立大学・九州大学・京都大学・岐阜大学などの大学、福岡市科学館や和歌山県立自然博物館などの博物館、西海市教育委員会などの地方公共団体、帆柱自然公園愛護会や北九州・魚部などのNPO法人など、多くの団体からの依頼を受け、自然史や博物館学に関する講義や学術調査を実施した。なお、昨年度に引き続き、ZOOM などを用いたりモート対応も行なった。

## 3) 歴史課

40 件：市の新規採用職員研修のほか、北九州市年長者大学校（穴生学舎、周望学舎）、各区の生涯学習センター、各市民センター、北九州観光市民大学、北九州市立大学、九州共立大学、公立学校共済組合福岡支部（市内）、田川市（市外）などにおいて、北九州市の歴史と文化、世界遺産「明治日本の産業革命遺産」や日本遺産（関門海峡、長崎街道）、トイレ（秋の特別展）、小倉藩、小倉織、幕末維新、鉄道といった様々なテーマで講演などを行った。

## （6）団体・委員会への就任

### 1) 普及課

伊澤雅子

- ・福岡県希少野生生物保護検討会議委員
- ・福岡県希少野生生物保護検討会議哺乳類分科会委員長
- ・福岡県環境審議会委員
- ・福岡県環境審議会公園鳥獣部会委員長
- ・沖縄県土地開発審査会委員
- ・沖縄県動物愛護管理推進計画懇話会委員
- ・ノイヌ・ノネコ対策事業検討委員会委員
- ・イリオモテヤマネコ交通事故防止対策検討会委員
- ・西表財団顧問
- ・沖縄県観光振興基金検討委員会
- ・浦内橋環境モニタリング検討会委員
- ・沖縄県版レッドデータブック第4版改訂委員会委員（委員長）
- ・沖縄県版レッドデータブック第4版哺乳類分科会委員
- ・奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島世界自然遺産地域科学委員会委員
- ・奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島世界自然遺産地域科学委員会沖縄ワーキンググループ委員
- ・奄美大島、徳之島、沖縄島北部および西表島世界自然遺産地域令和3年度ロードキル対策タスクフォース会議委員
- ・オガサワラオオコウモリ保護増殖検討会委員
- ・ツシマヤマネコ保護増殖検討会委員
- ・ツシマヤマネコ生息域内保全委員会委員
- ・ツシマヤマネコ生息状況モニタリング評価会議委員
- ・ツシマヤマネコファウンダー候補導入検討ワーキンググループ委員
- ・対馬イエネコ対策ワーキンググループ委員
- ・イリオモテヤマネコ保護増殖検討会委員

- ・イリオモテヤマネコ WG 委員
- ・環境省希少野生動植物種保存推進員

## 2) 自然史課

### 真鍋 徹

- ・福岡県環境影響評価専門委員（福岡県環境部）
- ・福岡県希少野生生物検討会議植物分科会委員（福岡県環境部）
- ・北九州市響灘ビオトープ希少種保全検討会議委員（北九州市環境局）
- ・小石原川ダムモニタリング部会委員（水資源機構）
- ・小石原川ダムモニタリング部会委員クマタカ保全検討部会（水資源機構）
- ・日本景観生態学会幹事長（日本景観生態学会）
- ・日本景観生態学会編集委員（日本景観生態学会）
- ・日本景観生態学会生態系インフラ活用検討委員（日本景観生態学会）
- ・西日本自然史系博物館ネットワーク理事（特定非営利活動法人西日本自然史系博物館ネットワーク）

### 森 康

- ・日本鉱物学会博物館委員会委員（日本鉱物科学会）

### 御前明洋

- ・県の石出版プロジェクトチーム「福岡県の石」まとめ役（日本地質学会）

### 大橋智之

- ・石川県白山市手取層群化石調査団員（白山市）
- ・日本古生物学会欧文誌編集幹事（日本古生物学会）

### 太田泰弘

- ・平尾台自然観察センター改修基本設計に係る意見交換会委員（福岡県環境部）
- ・国指定天然記念物「東峰村の阿蘇 4 火砕流堆積物および埋没樹木」保存活用計画策定委員会委員（東峰村）
- ・日本地質学会代議員（日本地質学会・地方区）
- ・日本地質学会生涯教育委員会委員（日本地質学会）
- ・日本地質学会西日本支部役員（日本地質学会）
- ・日本地質学会古生物部会・世話人（日本地質学会）
- ・日本洞窟学会評議員（日本洞窟学会）
- ・日本洞窟月洞窟学雑誌編集委員（日本洞窟学会）
- ・福岡県環境教育学会運営委員（福岡県環境教育学会）

### 蓑島悠介

- ・国道 201 号香春町～行橋市環境影響評価技術検討委員会委員（国土交通省九州地方整備局）
- ・河川水辺の国勢調査アドバイザー（国土交通省九州地方整備局）
- ・「標本救済ネット」ケースワーカー（特定非営利活動法人西日本自然史系博物館ネットワーク）
- ・日本昆虫学会代議員（一般社団法人日本昆虫学会）
- ・日本昆虫学会将来問題検討委員会（一般社団法人日本昆虫学会）
- ・日本昆虫学会英文誌編集委員会 Associate Editor（一般社団法人日本昆虫学会）
- ・日本甲虫学会評議員（日本甲虫学会）
- ・日本甲虫学会庶務幹事（日本甲虫学会）
- ・日本甲虫学会ホームページ担当幹事（日本甲虫学会）

- ・日本甲虫学会和文誌編集委員会（日本甲虫学会）

江頭幸士郎

- ・希少野生動植物種保存推進員（環境省）
- ・環境省第5次レッドリスト・レッドデータブック評価者（環境省）
- ・福岡県希少野生生物検討会議 検討会委員兼爬虫類・両生類分科会委員（福岡県環境部）
- ・宇佐市オオサンショウウオ保護管理委員会（宇佐市教育委員会）
- ・河川水辺の国勢調査アドバイザー（国土交通省九州地方整備局）
- ・国道201号香春町～行橋市環境影響評価技術検討委員会委員（国土交通省九州地方整備局）
- ・林道豊前耶馬溪線建設に伴う環境調査アドバイザー（福岡県行橋農林事務所）
- ・筑紫野古賀線改良に伴う環境調査アドバイザー（福岡県土整備事務所）
- ・日本爬虫両棲類学会英文誌編集委員（日本爬虫両棲類学会）
- ・九州両生爬虫類研究会運営委員・編集委員長（九州両生爬虫類研究会）

日比野友亮

- ・福岡県希少野生生物検討会議魚類・甲殻類分科会委員（福岡県環境部）
- ・日本魚類学会代議員（日本魚類学会）
- ・日本魚類学会編集委員（日本魚類学会）
- ・標準和名検討委員（日本魚類学会）
- ・ニッチェ・ライフ編集委員（ニッチェ・ライフ編集委員会）

中原 亨

- ・猛禽類現地調査指導（国土交通省福岡国道事務所）
- ・福岡県希少野生生物検討会議鳥類分科会委員（福岡県環境部）
- ・日本生態学会九州地区会福岡県委員（日本生態学会）
- ・日本生態学会企画委員高校生ポスター一部会員（日本生態学会）
- ・日本鳥学会企画委員（日本鳥学会）
- ・日本鳥学会英文誌編集委員（日本鳥学会）
- ・2022年度日本鳥学会ポスター賞審査委員会委員長（日本鳥学会）

竹下文雄

- ・日本ベントス学会英文誌（Plankton and Benthos Research）編集委員
- ・熊本大学くまもと水循環・減災研究教育センター学外協力研究員
- ・鹿児島大学国際島嶼教育研究センター客員研究員
- ・「標本救済ネット」ケースワーカー（特定非営利活動法人西日本自然史系博物館ネットワーク）

中西 希

- ・令和4年度イリオモテヤマネコ保護増殖事業検討会委員（環境省）
- ・イリオモテヤマネコワーキンググループ委員（環境省）
- ・福岡県希少野生生物検討会議哺乳類分科会委員（福岡県環境部）
- ・令和4年度沖縄県北部地域マングース防除事業検討委員会委員（沖縄県自然保護課）
- ・令和4年度沖縄県北部地域におけるマングース防除事業検討委員会委員（環境省）
- ・令和4年度外来種対策事業（哺乳類対策）作業部会委員（沖縄県自然保護課）
- ・西表島の観光管理計画改定のための作業部会委員（沖縄県自然保護課）
- ・特別天然記念物カモシカ食害対策事業に係るカモシカ通常調査現地調査員（大分県教育委員会）
- ・第13期北九州市環境影響評価審査会委員（北九州市環境局）
- ・竹富町西表島エコツーリズム推進協議会委員（竹富町）

- ・日本生態学会大会企画委員会ポスター部会員（日本生態学会）
- ・日本哺乳類学会英文誌編集委員会委員（日本哺乳類学会）

### 3) 歴史課

日比野利信

- ・福岡市総合図書館文書資料収集審査委員（福岡市教育委員会）
- ・九州史学研究会運営委員・編集委員・歴史資源部会長（九州史学研究会）

宮元香織

- ・飯塚市文化財保存活用推進委員会専門部会員（飯塚市教育委員会）
- ・佐賀県文化財保護審議会委員（佐賀県）
- ・宗像市文化財保護審議会委員（宗像市教育委員会）

守友 隆

- ・福岡市史編集委員会近世専門部会調査委員（福岡市）
- ・新修宗像市史近世部会編集委員（宗像市）
- ・九州大学附属図書館付設記録資料館九州文化史資料部門学外研究員（九州大学）

中西義昌

- ・日本建築学会九州支部歴史意匠委員（日本建築学会）

## 14. ボランティア組織の活動

### (1) シーダー組織の活動

#### 1) 人数（令和5年3月31日現在）

登録人数 44名（男性 20名・女性 24名）

20代 (1) 30代 (0) 40代 (0) 50代 (2) 60代 (9) 70代 (21) 80代 (11)

#### 2) 活動内容（本来の活動内容）

##### <展示案内グループ>

来館者に対して館内の施設案内、常設展・特別展の展示解説、スポット解説を行う。

##### <講座補助グループ>

体験プログラムの補助、学芸員の普及講座の補助、子ども教室およびMTが行う授業（環境アクティブラーニング、昔の道具調べ）の補助を行う。

##### <演示グループ>

子ども向けの恐竜や生き物の「折り紙」、九州の民話を抜粋した「手作り紙芝居」、お手玉・コマ回しなどの「昔あそび」、糸紡ぎから機織りまでを体験する「小倉織」などの実演を行う。

#### 3) 活動実績（一部再開）

令和4年12月9日より、シーダー活動の一部再開を実施した。再開内容は以下の通りである。

##### <講座補助> 講座中の支援・補助、石臼の演示

※ 石臼体験は12名までとし、状況に応じて実習場所を2~3か所設置する。

##### <演示> 紙芝居の演示、折り紙の演示、季節の飾りつけ

※ 折り紙は、子どもミュージアムを使用。10分程度でできるものとする。動画等も活用する。複雑な折り紙（恐竜等）は、その場で折ったものを参加者に渡す。

##### <展示案内> 展示解説、掲示物の作成・補助

※ 展示場所までの誘導はあっても、基本的には、引率しての解説は行わない。  
短めの解説を心がける。（原則一人10分以内で）

##### <子ども教室> 講座における道具の準備・片付け、講座中の支援・補助

#### 4) 研修

シーダー全員を対象とした「シーダーゼミ」の開催は、令和5年度以降とする。

### (2) 資料整理補助グループ

#### (2-1) 植物さく葉標本整理補助グループ

##### 1) 登録人数（令和5年3月31日現在）

6名

##### 2) 活動実績

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和4年度は活動を休止した。

#### (2-2) 小倉織復元補助ボランティア

##### 1) 登録人数（令和5年3月31日現在）

15名

##### 2) 活動実績

新型コロナウイルス感染症対策の一環として、令和4年度は活動を休止した。

## 15. 博物館友の会の活動

### (1) 自然史友の会

#### 目的

博物館とともに楽しく自然を研究し、正しく自然を理解し、自然史学の普及発展に寄与し、会員相互の親睦を図ることを目的とする（自然史友の会規約第2条）。

#### 会員数

584名（令和5年3月31日現在、以下同）

#### 役員等

会長：小林 繁、副会長：新海義治・佐藤政弘、幹事長：新海義治（兼任）、事業担当幹事 12名、出版担当幹事 8名、庶務会計担当幹事 2名、会計監査 2名、評議員 28名、顧問 14名

#### 年会費

正会員：大人 3,000円、小・中・高生 1,000円、家族 4,000円。賛助会員：10,000円

#### 活動内容

- (1) 会誌「わたしたちの自然史」の発行（B5版、総カラー20～30ページ前後）  
第156号（令和4年10月12日発行）：「奄美の三大ガエルと満月」等4件の報告と研究発表会要旨集  
第157号（令和5年2月20日発行）：「テッポウユリの栄養生殖について」等9件の報告
- (2) 研究部会の活動：例会の実施（計16回）  
地質鉱物（3回）、化石（2回）、植物（例会実施せず）、昆虫（例会実施せず）、水生動物（2回）、両生・爬虫類（8回）、鳥類（1回）
- (3) 友の会野外観察会の実施  
令和4年10月2日（日）宮若市宮田千石峡にて。参加者38名。
- (4) 博物館との共催の野外観察会の実施
- (5) 市民向け室内講座の実施  
「植物細密画を描いてみよう！」  
第1回 7月10日（日）13:00～16:30、博物館実習室にて。参加者16名。  
第2回 10月21日（日）13:00～16:30、博物館実習室にて。参加者11名。
- (6) 会員向け室内講座の実施  
本年度は実施せず。
- (7) 研究発表会の実施  
4月29日（金）～5月21日（土）、HP上でオンライン研究発表会を実施。「チョウの蛹の向きと成長の異常についての研究」等7件の発表。
- (8) 会議等の実施  
総会（文書審議1回）、評議員会（1回）、三役・各担当幹事会代表会（1回）、出版担当幹事会（2回）、事業担当幹事会（3回）、庶務会計担当幹事会（1回）。

## (2) 歴史友の会

### 目的

本会は、考古学など歴史に関する学習を通じて自己啓発と会員相互の親睦を図り、歴史への理解と認識を高めるとともに、博物館への協力によって北九州地域の文化の向上に寄与することを目的とする（歴史友の会会則第2条）。

### 会員数

132名（令和5年3月31日現在）

### 役員等

会長：永尾正剛、顧問：野口委有、副会長：渡辺善夫・福浦高利、会計2名、会計監査2名  
 会員管理1名、講座運営担当12名、遺跡見学運営担当10名、広報・会誌編集5名

### 年会費

正会員5,000円 賛助会員10,000円以上 臨時会員実費（資料代）500円

### 活動内容（令和4年度）

- 1) 会誌「友の会だより」の発行（A4版、総カラー6ページ、年3回）
- 2) 講演会 年12回開催 参加者総計958名

日時	演題	講師	人数
4月9日（土）	磐井の乱の実態を探る —甕依姫のまつりと磐井の乱、そして葛子と糟屋の屯倉—	福岡大学人文学部歴史学科教授 桃崎祐輔氏	102
5月14日（土）	加藤清正、「虎退治」の真相	福岡大学人文学部歴史学科准教授 山田貴司氏	88
6月4日（土）	上野焼の系譜 八代焼 ～伝統の技と美～	元八代市立博物館未来の森ミュージアム副館長 福原透氏	50
7月16日（土）	鎌倉幕府の成立と北条氏	京都女子大学名誉教授 野口実氏	87
8月6日（土）	豊後府内と大友館	大分市教育委員会教育部審議監兼文化財課長 坪根伸也氏	55
9月10日（土）	装飾古墳の白眉—王塚古墳—	王塚装飾古墳館 長安慧氏	81
10月22日（土）	特別展「トイレのうんちく展」関連講演会 獣医が語るウンチのうんちく	到津の森公園獣医師 高橋能理子氏	68
	特別展「トイレのうんちく展」見どころ紹介	北九州市立自然史・歴史博物館学芸員 宮元香織	
11月5日（土）	東アジア三館連携事業シンポジウム 近代東アジアの海港都市と建築	名古屋大学教授 西澤泰彦氏	93
12月10日（土）	家老の忠儀 —細川家家老松井康之と興長—	八代市立博物館未来の森ミュージアム学芸員 林千寿氏	83
1月14日（土）	小倉城の石垣と石切丁場跡 —石垣調査の過去・現在・未来・課題—	北九州市芸術文化振興財団埋蔵文化財調査室 安部和城氏	84
2月18日（土）	遠賀川流域の横穴墓 —史跡城山横穴群を中心として—	福智町教育委員会生涯学習課社会教育係主査 井上勇也氏	106
3月11日（土）	九州の古墳時代と鏡 —石塚山古墳と赤塚古墳の時代—	九州大学大学院人文科学研究院准教授 辻田淳一郎氏	91

- 3) 史跡見学会 年5回開催 参加者総計138名

日時	場所	人数
5月21日（土）～5月22日（日）	石見方面史跡見学会 石見銀山、みよし風土記の丘ほか	21
6月12日（日）	史跡めぐりバスハイク 熊本方面	32
10月14日（金）～10月16日（日）	関西方面史籍見学会 三井寺、大津市歴史博物館ほか	24
11月27日（日）	史跡めぐりバスハイク 佐賀方面	29
2月26日（日）	史跡めぐりバスハイク 中津方面	32

## 16. 資料の収集保存状況

### (1) 自然史課

#### 1) 令和4年度資料登録状況

令和4年度の自然史資料の登録（デジタルデータベース化）数は以下のとおりである。

分野	購入		委託制作		寄贈		寄託		採集		交換		その他		合計				
	件数	点数	件数	点数	件数	点数	件数	点数	件数	点数	件数	点数	件数	点数	件数	点数			
生物学系	無脊椎動物	IvR	0	0	0	0	0	0	0	21	186	0	0	0	0	21	186		
	脊椎動物	VR	0	0	0	0	132	152	0	0	110	113	0	0	7	7	249	272	
	昆虫	IR	0	0	0	0	154	154	0	0	0	0	0	0	0	0	154	154	
	種子植物	GR	0	0	0	0	476	487	0	0	0	0	0	0	0	0	476	487	
	シダ植物	AR	0	0	0	0	162	164	0	0	0	0	0	0	0	0	162	164	
	コケ類	BR	0	0	0	0	261	261	0	0	0	0	0	0	0	0	261	261	
	菌類	FR	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	藻類	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	<小計>			0	0	0	0	1185	1218	0	0	131	299	0	0	7	7	1323	1524
	地学系	無脊椎動物	IvP	0	0	0	0	150	201	0	0	0	0	0	0	0	0	150	201
脊椎動物		VP	0	0	0	0	28	29	0	0	1	1	0	0	0	0	29	30	
昆虫		IP	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
種子植物		GP	0	0	0	0	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	
シダ植物		AP	0	0	0	0	5	5	0	0	0	0	0	0	0	0	5	5	
岩石		L	0	0	0	0	5	5	259	270	0	0	0	0	0	0	264	275	
鉱物		M	0	0	0	0	529	584	3	3	0	0	0	0	0	0	532	587	
<小計>			0	0	0	720	827	262	273	1	1	0	0	0	0	983	1101		
その他	O	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
合計		0	0	0	0	1905	2045	262	273	132	300	0	0	7	7	2306	2625		

#### 2) 令和4年度資料収集状況

令和4年度の自然史資料の収集点数および主な収集資料は以下のとおりである。

		購入	委託製作	寄贈	寄託	交換	採集	その他	合計
生物学系	甲殻類・貝類	0	0	0	0	0	186	0	186
	昆虫類等	0	0	0	0	0	0	0	0
	魚類	0	0	0	0	0	0	0	0
	両生類	0	0	9	0	0	94	3	106
	爬虫類	0	0	45	0	0	14	0	59
	鳥類	0	0	94	0	0	38	0	132
	哺乳類	3	0	69	0	0	1	4	77
	種子植物	0	0	14,280	0	0	0	0	14,280
	シダ植物	0	0	1,066	0	0	0	0	1,066
	コケ植物	0	0	251	0	0	0	0	251
	<小計>		3	0	15,814	0	0	333	7
地学系	岩石	0	0	2	270	0	0	0	272
	鉱物	0	0	584	3	0	0	0	587
	古脊椎動物	1	0	29	0	0	1	0	31
	古無脊椎動物（昆虫以外）	0	0	34	0	0	0	0	34
	昆虫類等	0	0	3	0	0	0	0	3
	植物	0	0	2,739	0	0	0	0	2,739
	<小計>		1	0	3,391	273	0	1	0
その他		0	0	0	0	0	0	0	0
	<小計>		0	0	0	0	0	0	0
合計		4	0	19,205	273	0	334	7	19,823

#### <主な購入・委託製作資料>

- ・エミューなどの鳥類剥製標本（16点）、全身骨格標本（1点）
- ・ホプロフォネウス頭骨レプリカ（1点）
- ・スナネコ・カナダオオヤマネコ・リビアヤマネコ各頭骨レプリカ（各1点）
- ・対馬産カエル（ツシマアカガエル・チョウセンヤマアカガエル・アマガエル）各実物大模型（各1点）
- ・ケナガネズミ・アマミノクロウサギなど哺乳類剥製（8点）

#### <主な寄贈資料>

- ・福岡県産を中心としたコケ植物乾燥標本（251点）
- ・福岡県産を中心とした維管束植物さく葉標本（約2,500点）
- ・九州産を中心とした維管束植物さく葉標本（約12,000点）
- ・近畿地方産の白亜紀軟体動物化石標本（16点）
- ・マーブルキャット剥製（1点）
- ・キンシコウ・ローンアンテロープ剥製（1点）
- ・ゴマフアザラシ剥製（1点）
- ・福岡県産アナグマ剥製（1点）

#### <主な採集資料>

- ・五島列島産両生爬虫類標本（約40点）

## （2）歴史課

### 1) 令和4年度資料登録状況

歴史系の収蔵資料は、出所ごとの資料群台帳を作成し、1点ごとの詳細目録など各資料群に関わる諸データを紐付けしながら管理を図っている。また「北九州ミュージアムパーク創造事業」（43ページ参照）の一環として、博物館資料等のデジタルアーカイブの構築を進めていくなかで、既存のIBミュージアムを用いて、収蔵資料1点ごとのデータを登録して、博物館のホームページから検索ができるシステムの構築を始めている。現時点での登録は一部に過ぎないが、今後は毎年度の目標値を定めて、登録数を確実に増やしていく。

### 2) 令和4年度資料収集状況

令和4年度の歴史資料の受入点数は以下のとおりである。

分類	令和3年度末累計	寄贈	新規寄託	購入	合計	令和4年度末累計
歴史系	33,718	526	0	1	527	34,245
考古系	51,446	0	0	0	0	51,446
合計	85,164	526	0	1	527	85,691

### 3) 令和4年度収集資料の概要

市内の学校には、校区の住民や保護者が教材として活用するなどのために提供した様々な資料が伝わっている。しかし、近年の少子化などによる学校の統廃合によって、そのような資料を保管する主体と場所が失われ、博物館などが調査を行い記録を作成して、可能な限り資料を引き受ける事例が増加している。令和4年度は北九州市立小森江東小学校から239点の資料の寄贈を受けた。それに際して、同

小学校 6 年生の授業の一環として、道具類を中心に調べ学習を実施し、博物館の企画展「わくわくタイムトラベル いま・むかし」(34 ページ参照)で解説文とともに展示するという試みを行った。資料そのものだけでなく、学校資料の引受事例としても今後のモデルとなるものである。

令和 4 年度は下記のように個人の方からの近代・現代資料の寄贈が多かった。

幕末の小倉藩家老で長州藩との戦闘を指揮した島村志津摩の記念碑の拓本  
京都郡豊津出身の郷土史家・中川柿園が日中戦争の杭州湾上陸作戦に従軍した際の日誌 (コピー)  
鉄道乗車券や野球などの入場券や各種記念品  
門司にあった丸山旅館の芳名帳など関係資料  
西鉄路面電車の「北九州線停留場案内図」  
八幡市長・守田道隆が米国・ピッツバーグ市を訪問時に贈られた記念品「ピッツバーグへの鍵」  
若松市長・吉田敬太郎が若戸大橋建設などに関して上京・陳情に同行した若松市秘書係長の日誌  
北九州市発足の記念切手 など

民俗資料では 1934 年生まれの女性の結婚・出産・育児を跡付けることができる着物や布団、また沖縄の骨壺である厨子甕の寄贈があった。前者は当館が所蔵する堀切辰一時代布コレクション「襤褸」と合わせて活用を図っていききたい。

美術資料では棟方志功と北九州の関わりを示す作品「鯉雨」の寄贈があった。令和元年度の秋の特別展「九州発！棟方志功の旅」を開催したことにより今回の寄贈につながった。

購入資料は中世の古文書、天文 5 (1536) 年 4 月 8 日の日付を持つ「貫中右衛門尉宛大内義隆官途吹挙状」1 点である。貫中右衛門尉は豊前国規矩郡貫庄を本貫地とする国人で、勢力は小規模だが一族から大内氏奉行人を輩出している。大内義隆はこの吹挙状で、地方の国人領主である貫中右衛門尉の任官について、本来的な京都 (朝廷) への奏上を行っている。様々に興味深い資料である。博物館が所蔵する貫氏関係の古文書と合わせて所蔵し、研究・活用に役立てていききたい。

## 17. 資料の特別観覧状況（自然史・歴史）

No.	担当課	資料名	目的	観覧者	所属団体名	人数	観覧日
1	自然史	福岡県産魚類標本	福岡県産魚類の研究	中島田正希	自然史友の会会員	1	R4.4.1-R5.3.31 (うち8日)
2	自然史	現生・化石魚類標本	現生・化石魚類の研究	藪本美孝	名誉館員	1	R4.4.1-R4.6.30
3	自然史	シーボルト標本鳥類・哺乳類写真整理	当館所有の左記資料の整理	武石全慈	名誉館員	1	R4.4.1-R5.3.31
4	自然史	関門層群産脊椎動物化石	関門層群産脊椎動物化石の記載（卒業研究）	武藤麗花・田上響	福岡大学理学部地球圏科学	2	R4.4.1-R5.3.31
5	自然史	関門層群産脊椎動物化石	関門層群産脊椎動物化石の記載（卒業研究）	添田双葉・田上響	福岡大学理学部地球圏科学	2	R4.4.1-R5.3.31
6	自然史	植物さく葉標本（ミズヒキモ、ツツイトモなど）	水生植物の分布状況調査	大野睦子	—	1	R4.4.6
7	自然史	ダンジョヒバカリ標本	ダンジョヒバカリ標本の観覧・撮影	川添宣弘	—	1	R4.4.7
8	自然史	白亜系蝦夷層群産コンクリーション	コンクリーションの形成メカニズム解明	長谷川精ほか	高知大学理工学部	3	R4.4.12
9	自然史	エゴノキ植栽木4個隊	エゴノキの花生態学的研究	有吉諒真	琉球大学大学院理工学研究科	1	R4.4.18
10	自然史	三宅文庫（調査研究に係る書籍等）	「研究史」の研究	佐藤崇範	琉球大学島嶼地域科学研究所	1	R4.5.11-R4.5.13
11	自然史	シャコ類標本	山口県日本海沖のシャコ類相の解明	園山貴之	下関市立しものせき水族館	1	R4.5.12
12	自然史	アリ類標本	アリ類標本の整理および研究	山根正気	元鹿児島大学博物館館長	1	R4.5.15-R4.5.18
13	自然史	イリオモテヤマネコおよびツシマヤマネコの骨格標本	ベンガルヤマネコの骨形態学および比較解剖学的データを用いたイリオモテヤマネコの進化史の解明	高橋亮雄・市川美和	岡山理科大学生物地球学科	2	R4.5.23-R4.5.25
14	自然史	水俣産解散無脊椎動物標本	水俣産解散無脊椎動物標本の同定・整理	森啓介・松本潤二・宮岡まこと・梅田誉史	中電テクノ株式会社	4	R4.5.27
15	自然史	福岡県産魚類標本	福岡県産魚類の研究	潮上太郎・長野光	九州大学農学部	2	R4.5.29-R5.3.31
16	自然史	アリ類標本	アリ類標本の整理および研究	山根正気	元鹿児島大学博物館館長	1	R4.7.20-R4.7.21
17	自然史	植物さく葉標本（ミズヒキモ、ツツイトモなど）	水生植物の分布状況調査	大野睦子	—	1	R4.7.28
18	自然史	アフリカ産蝶類	アフリカ産蝶類の調査	伊達常雄	—	1	R4.8.8
19	自然史	カボチャミバエ	カボチャミバエの系統地理学的研究	本間淳	沖縄県病害虫防除技術センター	1	R4.8.11
20	自然史	口脚類（シャコ類）標本	シャコ類の分類学的再検討	中島広喜	琉球大学博物館	1	R4.8.24-R4.8.25
21	自然史	現生・化石魚類標本	現生・化石魚類の研究	藪本美孝	名誉館員	1	R4.8.29-R4.12.31
22	自然史	種子島産更新世魚類化石	種子島産更新世魚類化石の研究	千田森	北九州市立大学国際環境工学部	1	R4.10.1-R5.9.30
23	自然史	液浸標本収蔵庫	液浸標本収蔵庫自体の観覧（資料寄贈可能性の検討）	佐藤正典	元鹿児島大学教授	1	R4.10.14
24	自然史	アリ類標本	アリ類標本の整理および研究	山根正気	元鹿児島大学博物館館長	1	R4.11.6-R4.11.9
25	自然史	高橋コレクションの <i>Mundiphaedus</i> sp.チリメンユキガイ標本	分類学的再検討	宮崎晋介・松隈明彦・石橋猛	福岡貝類同好会副会長（宮崎）・九州大学名誉教授（松隈）・九州貝類同好会（石橋）	3	R4.11.18
26	自然史	イリオモテヤマネコおよびツシマヤマネコの骨格標本	イリオモテヤマネコの骨比較形態学的研究	高橋亮雄・市川美和	岡山理科大学生物地球学科	1	R4.12.7-R4.12.8
27	自然史	ハチ標本	ハチの標本調査	渡辺恭平	神奈川県立生命の星・地球博物館	1	R4.12.15
28	自然史	ジョウカイボン科標本	ジョウカイボン科標本調査	中村涼	東京大学大学院農学生命科学研究科	1	R5.1.19-R5.1.20
29	自然史	アリ類標本	アリ類標本の整理および研究	山根正気	元鹿児島大学博物館館長	1	R5.1.27-R5.1.30
30	自然史	アロサウルス、デイノニクス、ギガノトサウルス、クリオロフォサウルス、エオラプトルのレプリカ	計測・写真撮影・スケッチ	清水洲平・小林快次	北海道大学院	2	R5.2.1
31	自然史	アナグマ標本（前肢）	アナグマ標本（前肢）の観察	デンジャーフェールド・エマ	筑波大学	1	R5.2.6
32	自然史	新角竜類・プロトプレム類の化石	新角竜類・プロトプレム類の化石調査	田中公教	兵庫県立大学自然・環境科学研究所	1	R5.2.6
33	自然史	鳥類に関する文献類	鳥類識別に関する研究	片岡智徳	—	1	R5.2.8
34	自然史	植物さく葉標本（ホソバミズヒキモなど）	水生植物の分布状況調査	大野睦子	—	1	R5.2.22

35	自然史	福岡県産維管束植物さく葉標本	福岡県産維管束植物の分類地理学的研究	金光浩伸	—	1	R5.3.11
36	自然史	サワガニ	サワガニの系統地理学研究	高田賢人	京都大学人間・環境学研究科	1	R5.3.18
37	歴史	高島遺跡出土鉄器4点	博士論文作成のため	鈴木崇司	駒澤大学	1	R4.4.20
38	歴史	御座古墳群 1号墳出土 三角縁神獣鏡片、椿市廃寺出土高句麗系軒丸瓦	特別展「京都平野と豊国の古代」の事前調査のため	酒井芳司	九州歴史資料館	2	R4.6.7
39	歴史	大内氏奉行人連署状（12月2日付、西郷新三郎宛）、杉連緒宛行状（天文24年3月22日付、西郷新三郎宛）、麻生家氏感状（天正11年壬正月28日付、西郷新三郎宛）、田原親貴等連署制札（天正7年10月16日付）	中世九州史研究のため	佐伯弘次	九州大学名誉教授	1	R4.7.20
40	歴史	源忠雄公年譜二・三・四・五・附録5冊（「小笠原文書」3～7）	西山宗因と小笠原家の連歌に関する研究	尾崎千佳	山口大学	1	R4.8.4
41	歴史	榎坂貝塚出土土輪・釣針、黒崎貝塚土輪、楠橋貝塚土輪、永犬丸貝塚重飾	縄文時代の骨角器研究のため	川添和暁	愛知県埋蔵文化財センター	1	R4.12.21
42	歴史	9月3日付長野三河守宛大友氏年寄連署書状、時枝武藏守宛豊臣秀吉朱印状、豊臣秀吉禁制、毛利吉政宛豊臣秀次朱印状	「豊臣政権にける奉行の知行地支配に関する基礎的研究」（22K20062）に関わる研究のために、料紙の特徴を調査するため	石畑匡基	大手前大学	1	R5.1.9

## 18. 資料の貸出状況（自然史・歴史）

No.	担当課	資料名	点数	貸出先	使用目的	貸出期間／申請日
1	自然史	下関産恐竜足跡化石 1、ワキノサトウリュウ歯レプリカ 1、角竜類歯化石 1、魚類化石 2	5	島根県立三瓶自然館	令和 4 年度夏期特別企画展「恐竜の世界へ行ってみた」での展示	R4.6.13-R4.10.31
2	自然史	ミサゴの羽根（冷凍標本から 5 点から 8 枚、剥製標本から 1 点から 7 枚）	15	氏家太（筑波大学大学院生物学学位プログラム）	水銀汚染モニタリングへの利用の可否の検討 水銀汚染状況およびその経年変化の評価	R4.6.20
3	自然史	イリオモテヤマネコ頭骨・下顎（セット）	1	環境省西表自然保護官事務所	イリオモテヤマネコの形態解説展示	R4.6.27-R5.3.31
4	自然史	沖ノ島に関する生物系資料 10 件（22 点）	22	宗像市海の道むなかた館	世界遺産登録 5 周年記念企画展「祈りの原風景 沖ノ島の豊かな自然」での展示	R4.7-R5.1
5	自然史	哺乳類剥製標本 14 点、鳥類剥製標本 2 点	16	山口県立博物館	特別展「ふしぎ！おどろき！大動物展」での使用	R4.7.5-R4.8.30
6	自然史	翼竜標本、魚類化石	8	熊本博物館	世界の大翼竜展での展示	R4.7.9-R4.9.9
7	自然史	マジュンガサウルス全身復元骨格レプリカ	1	長崎県恐竜博物館	令和 4 年度夏期企画展「キングスー白亜紀の支配者たち」での展示	R4.7.13-R5.2.28
8	自然史	福岡県産ヘビ類液浸標本 10、タイコブラ剥製 1、ビルマニシキヘビ頭骨 1	12	福岡市動物園（トータルメディア開発研究所）	世界へびの日にあわせた教育プログラム（知ってトクするへび講座）での展示	R4.7.15-R4.9.19
9	自然史	アドクス・センゴクエンシスレプリカ	1	宮若トレッジ（宮若市文化財収蔵・展示・交流センター）	企画展「今と昔のいきも展」での展示	R4.7.25-R4.10.19
10	自然史	アフリカ産蝶類	4	伊達常雄	アフリカ産蝶類の比較検討	R4.8.8-R5.8.7
11	自然史	カボチャミバエ	2	本間淳（沖縄県病害虫防除技術センター）	カボチャミバエの生物地理学的研究	R4.8.11-R5.8.10
12	自然史	ニワトリ骨格標本	1	NPO 法人 KID's work（環境局環境学習課経由）	小学生対象の体験活動プログラム「にわとりキャンプ」での利用（玄海青年の家で実施）	R4.8.14-R4.8.20
13	自然史	サシバ 1、パン（雛）1、ニシキマダクビガメ 4 いずれも冷凍標本	6	脇水徳之・石川弘樹（東京大学大学院）	現生鳥類・カメ類の頭骨内部形態（血管神経管）の比較研究	R4.8.23-R4.9.30
14	自然史	ライオン（オス）剥製標本	1	西海国立公園九十九島動物園	秋の特別展「ガオーっとライオン展」での展示	R4.9.1-R4.11.28
15	自然史	プロバクトロサウルス全身復元骨格、チュージャンゴプテルス産状レプリカ、各 1	2	佐賀県立宇宙科学館	秋冬の企画展「Geo travel～西九州新幹線「かもめ」が走る地下の旅～」での展示	R4.9.26-R5.1.20
16	自然史	木曾馬（さっちゃん）骨格標本および剥製	2	北九州市科学館	展示会「スケスケ展」での使用	R4.10.6-R5.1.10
17	自然史	双眼鏡	30	藤ノ木市民センター	生涯学習講座遊び塾における「観望会」にて使用	R4.11.9-R4.11.14
18	自然史	ミサゴ剥製	1	西海国立公園九十九島ビジターセンター	冬企画展「ミサゴ展（仮称）」での展示	R4.12-R5.7
19	自然史	日本産ハナバチ類（ヒメハナバチ科を中心）	66	渡辺恭平（神奈川県立生命の星・地球博物館）	日本産ハチ類の研究	R4.12.16-R5.12.15
20	自然史	日本産ジョウカイボン科（甲虫目）パラタイプを含む 185 個体	185	中村涼（東京大学大学院農学生命科学研究科 M1）	日本産ジョウカイボン科の研究（分子系統学、生物地理学）	R5.1.20-R6.1.19
21	自然史	ウナギの旅展・展示パネル資料	10	NPO 法人 大木町堀と自然を守る会	環境学習会等での活用	R5.2.9-R5.3.26
22	自然史	福岡県産ムカゴサイシン液浸標本	1	中村康則	ムカゴサイシンの新産地報告用原稿作成に使用	R5.2.28-R5.3.22
23	自然史	両生類 DNA 解析用資料 14 点	14	服部敦（土木研究所・流域水環境研究グループ長）	両生類を対象とした環境 DNA 特異プライマー開発	R5.2.28-R5.7.31
24	自然史	ダイオウグソクムシ液浸標本	1	西宮市文化振興課	西宮市貝類館第 23 回特別展「ダンゴムシの街」での展示	R5.3.1-R5.5.31
25	自然史	宗像市産哺乳類化石標本（コリフォドン）	14 箱	宮田和周（福井県立恐竜博物館）	新生代における絶滅哺乳類相の研究	R5.3.20-R6.3.19
26	自然史	福岡県産ムカゴサイシン液浸標本（借用延長申請）	1	中村康則	ムカゴサイシンの新産地報告用原稿作成に使用	R5.3.23-R5.6.30
27	歴史	広寿山福聚寺所蔵「藕糸織弥陀三尊来迎図」「藕糸織霊山浄土図」「藕糸織聖衆来迎図」「永貞院像 喜多元規筆」	4	奈良国立博物館	貞享本當麻曼荼羅修理完成記念特別展「中将姫と當麻曼荼羅—祈りが紡ぐ物語—」における展示	R4.7.26-R4.8.28
28	歴史	旧折尾駅舎正面半円形意匠材 1 点、旧折尾駅円形ベンチ構成部材 1 組（10 枚）、レール部材 2 点、展示ケース（円形ベンチ構成部材の展示のため）1 台	5	北九州市立折尾まちづくり記念館	「折尾まちづくり記念館 開館企画展示」における展示	R4.5.28-R4.8.28
29	歴史	三角縁獣文帯三神三獸鏡 北九州市御座古墳群 1 号墳出土、蓮蕾文軒丸瓦（高句麗系）、行橋市椿市庵寺出土（行橋市教育委員会所蔵）	2	九州歴史資料館	令和 4 年度特別展「京都平野と豊国の古代」における展示	R4.10.8-R4.12.4
30	歴史	糸車 1 点、綿繰機 1 点	1	北九州市立小倉城庭園	「小倉織—その技と美—」における展示	R4.10.下旬-R5.3.31
31	歴史	牧山古墳群出土 平瓶	1	戸畑郷土史会	戸畑図書館 1 階郷土資料室における展示	R4.5.1-R6.3.31

合計 435

## 19. 画像等資料の貸出状況（自然史・歴史）

No.	担当課	資料名	点数	貸出先	使用目的	申請日
1	自然史	ヒプセロサウルスの卵化石	1	振興出版社桂林館	中学校理科教科書1年への掲載	R4.11.20
2	自然史	プロトプレラム類全復元骨格画像	1	丸善出版株式会社	「古生物学の百科事典（日本古生物学会編）」への掲載	R4.11.21
3	自然史	ナウマンゾウ全身骨格画像1点	1	アフロ	中学理科教科書「中学校科学1（学校図書刊）」への掲載	R4.12.8
4	自然史	白亜紀異常巻アンモナイト（ <i>Praviloceras sigmoidale</i> ）および（ <i>Didymoceras awajense</i> ）標本写真、白亜紀ツツイカ類（ <i>Haboroteuthis poseidon</i> ）標本写真、白亜紀コウモリダコ類（ <i>Naraimoteuthis hikidai</i> ）標本写真、各1点	4	レカボロ編集舎	「地球生命 無脊椎動物の興亡史（技術評論社刊）」への掲載	R5.1.11
5	自然史	白亜紀異常巻アンモナイト（ <i>Praviloceras sigmoidale</i> ）	1	講談社	「生命の大進化 40億年史 中生代編」への掲載（デジタル版も含む）	R5.1.26
6	自然史	イナバテナガコガネ標本写真	1	誠文堂新光社	「化石のきほん」（出版物および電子版）への掲載	R5.2.9
7	自然史	大牟田市動物園から寄贈いただいたエミュー標本の展示風景画像	1	大牟田市動物園	大牟田市動物園のSNSで利用	R5.3.23
8	自然史	博物館外観1点、多様性館2点、ティラノサウルスとトリケラトプス全身骨格レプリカ（展示風景）1点	4	有限会社 駿	BSでの放送大学番組「情報をデザインする」での使用	R5.3.24
9	歴史	DVD『世紀の若戸大橋』	1	北九州市立若松図書館 館長 藤崎隆幸	若戸大橋 60周年イベントとして若松図書館内で無料上映会開催	R4.5.31
10	歴史	「享保5年6月26日付松井善治宛喜多村弥次兵衛・加藤直右衛門成政書状」、「長州戦争図」、天明8年(1788)「西国筋図巻」、「小笠原忠固（瑞巖院殿）画像」（広寿山福聚寺所蔵）、「元禄十二年若松附近古絵図（写）」の芦屋宿と山鹿	5	新修宗像市史編集委員会 委員長 西谷正	『新修宗像市史 いくさと人々』、『新修宗像市史 海の道・陸の道』への掲載	R4.5.31
11	歴史	宗祇馬上図（江戸時代、狩野永納筆）	1	北九州市立長崎街道木屋瀬宿記念館 館長 用田和彦	企画展「旅人と木屋瀬 さまざまな休泊者たち」における展示	R4.8.16
12	歴史	西国内海名所一覧、山海愛度図絵、小倉機織図	3	北九州市立小倉城庭園 館長 中川康文	「小倉織—その技と美」における展示	R4.9.30
13	歴史	琳聖太子像（乗福寺所蔵）	1	山口市長 伊藤和貴	『西国一の御屋形様 大内氏がわかる本 文化交流編（仮）』への掲載	R4.12.23
14	歴史	門司文書「下総親胤申状の袖に記された北畠顕家の自筆外題安堵」	1	相馬市教育委員会 委員長 福地憲司	『相馬市史第1巻通史編I 原始・古代・中世』への掲載	R5.1.18
15	歴史	堀切辰一コレクション 襦袢 No.65（木綿地普段着兼用野良着）	1	株式会社アフロ 代表取締役 青木紘二	「スタディサプリ高校・大学受験講座（日本史探求）」の会員制のオンライン教材及び紙媒体の教材への掲載	R5.2.21
16	歴史	西国内海名所一覧	1	LOCAL&DESIGN 株式会社 代表取締役 高山美佳	一般社団法人九州地域づくり協会発行『土木遺産な旅のスズメ』への掲載	R5.3.13
17	歴史	広寿山福聚寺所蔵「小笠原秀政所用具足」「小笠原忠真画像」	2	株式会社エディキューブ 代表取締役 濱田真理	『歴史人』5月号（印刷版・電子版）への掲載	R5.3.20

合計 30

## 20. 学芸員研究業績

### (1) 普及課

#### 1) 論文など

Kobayashi, S., Maeda, K., Tamura, H. and Izawa, M. 2022. First record of the black-bearded tomb bat *Taphozous melanopogon* Temminck, 1841 (Chiroptera: Emballonuridae) from Japan. *Mammal Study*, 47: 261–264. (査読あり)

Asato H., Sueyoshi K., Nakagawa M., Sugawara R., Kawauchi N., Kobayashi S., Izawa M. and Toda M. 2022. Food habits of the Taiwan beauty snake, *Elaphe taeniura friesi*, as an introduced species on Okinawajima Island. *Current Herpetology*, 41(2): 205–214. (査読あり)

伊澤雅子 2022 「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」 — 「島」の世界自然遺産の特徴. *ランドスケープ研究* 86(2): 96-99.

#### 2) 書籍・普及書など

伊澤雅子. 2022. 「島」の世界自然遺産. *環境管理*. 51:1–5.

伊澤雅子. 2022. ほんものに触れる. *幼児教育じほう*. 50(8):2–3.

#### 3) 学会等講演

有吉諒真・傳田哲郎・伊澤雅子. 2022. エゴノキの開花期と訪花動物相の相違が種子生産に及ぼす影響. 九州沖縄植物学会・日本動物学会九州支部・日本生態学会九州地区会合同大会. 佐賀大学. 2022年6月11～12日.

伊澤雅子・小林 峻・傳田哲郎・佐々木健志・堀江明香. 2022. 北大東島における外来鳥類・哺乳類の生息状況. 沖縄生物学会第59回大会. 2022年5月28日. 琉球大学 (オンライン).

小林 峻・伊澤雅子・堀江明香・佐々木健志・傳田哲郎. 2022. 海洋島北大東島における外来哺乳類および鳥類の生息状況. 日本哺乳類学会 2022年度大会. 2022年8月. 三重大学 (オンライン).

中西 希・伊澤雅子. 2022 胃内容物からみたイリオモテヤマネコにおける成長段階間の食性比較. 日本哺乳類学会 2022年度大会. 2022年8月. 三重大学 (オンライン).

伊澤雅子. 2022. 生物多様性のもう一つの舞台としての自然史博物館. 「シンポジウム：国立沖縄自然史博物館ができたあかつきには」. 日本動物学会第93回早稲田大会. 2022年9月9日. 東京.

#### 4) 外部資金獲得状況

##### 【文部科学省科研費助成事業科学研究費補助金・学術研究助成基金】

基盤研究 (C). マメ科トビカズラ属をモデルとした広域分布種と局所分布種の送粉様式の差異の解明.

研究分担者：伊澤雅子 (研究代表者：小林 峻). 2022–2025年度.

##### 【その他の外部資金】

公益財団法人自然保護助成基金 第31期 (2020年度) プロ・ナトゥーラ・ファンド助成. 海洋島大東諸島の固有種とそれを支えるピロウ林の現状と保全に関する研究—その後の経緯と新しい外来種の影響. 研究代表者：伊澤雅子 (継続)

プロ・ナトゥーラ・ファンド助成 (公益財団法人自然保護助成金). 対馬におけるニホンジカの個体数急増が絶滅危惧種ツシマヤマネコの生息環境に与える影響. 研究分担者：伊澤雅子 (研究代表者：中西 希). 2020–2022年度.

プロ・ナトゥーラ・ファンド助成 (公益財団法人自然保護助成金). 対馬におけるニホンジカの個体数急増が絶滅危惧種ツシマヤマネコの生息環境に与える影響. 研究分担者：伊澤雅子 (研究代表者：中西 希). 2022–2024年度.

## (2) 自然史課

### 1) 論文など

- Ando, R., Ujiie, K., Nishiyama, N. and Mori, Y. 2023. Depth-dependent slow earthquakes controlled by temperature dependence of brittle-ductile transitional rheology. *Geophysical Research Letters*, 50, e2022GL101388. doi: 10.1029/2022GL101388 (査読あり)
- Eto, K., Matsui, M. and Sugahara, T. 2023. Description of a new subterranean breeding brown frog (Ranidae: *Rana*) from Japan. *Zootaxa*, 5209, 401–425. (査読あり)
- Fukuyama, I., Kodama, T., Eto, K., Matsui, M., Hossman, M.Y. and Nishikawa, K. 2022. Phylogenetic placement and diet of homalopsid snake *Miralia alternans* (Ruess, 1833). *Zoological Research*, 43, 734–737. (査読あり)
- Herlambang, A. E., Riyanto, A., Munir, M., Hamidy, A., Kimura, K., Eto, K. and Mumpuni, M. 2022. After 16 Years: An Update Checklist of Herpetofauna on the Natuna Islands, Indonesia. *TREUBIA*, 49, 67–84. (査読あり)
- 日比野友亮. 2022. サメの和名と英名 学名の重要性. わたしたちの自然史, 155, 22–24.
- 日比野友亮・伊藤雄一. 2022. 日本初記録のウツボ科魚類 2 種 *Gymnothorax mucifer* タカノハウツボ (新称) と *Gymnothorax niphostigmus* ワタユキウツボ (新称) . 魚類学雑誌. 早期公開, DOI: 10.11369/jji.22-011. (査読あり)
- 日比野友亮・小林大純. 2023. 夏季に筑後川感潮域上部から得られたアリアケシラウオ (キュウリウオ目 シラウオ科) の成長後期個体. 北九州市立自然史・歴史博物館研究報告 A 類 (自然史), 21, 4–8. (査読あり)
- 日比野友亮・折田大志. 2022. 奄美大島から得られた標本に基づく *Gymnothorax shaoi* (ウナギ目ウツボ科) の日本からの確実な記録. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 26, 30–33. (査読あり)
- 日比野友亮・洲澤 譲. 2022. 岐阜県から得られた東海地方初記録のオキチモズク. *ニッチェ・ライフ*, 10, 80–81.
- Hibino, Y., Yamashita, K., Sakurai, Y. and Ho, H.-C. 2022. Two new species of the snake eel genus *Bascanichthys* (Anguilliformes: Ophichthidae) from the northwestern Pacific. *Zootaxa*, 5189: 103–113. (査読あり)
- 是枝伶旺・日比野友亮. 2022. 福岡県, 宮崎県, および鹿児島県から得られたマメアカイソガニの追加記録. *ニッチェ・ライフ*, 10, 45–46.
- Liu, H.-C., Fikáček, M. and Minoshima, Y. N. 2022. New record of *Laccobius inopinus* Gentili, 1980 (Coleoptera, Hydrophilidae) from Taiwan, with updated key to the Taiwanese species. *Elytra, New Series*, 12, 246–248. (査読あり)
- Minoshima, Y. N. 2022. *Laccobius bedeli* Sharp (Coleoptera, Hydrophilidae) found in Aomori Prefecture, Honshu, Japan. *Elytra, New Series*, 12, 114–115. (査読あり)
- 蓑島悠介. 2022. 北九州市立自然史・歴史博物館所蔵のキバネツノトンボ *Libelloides ramburi* (McLachlan) . 北九州市立自然史・歴史博物館研究報告 A 類 (自然史), 21, 1–3. (査読あり)
- Minoshima, Y. N., Kamite, Y. and Fikáček, M., 2023. The genus *Anacaena* Thomson from the Ryukyu Archipelago of Japan (Coleoptera, Hydrophilidae). *Deutsche Entomologische Zeitschrift*, 70 (1), 143–157. (査読あり)
- Nakahara, T., Nagai, K., Iseki, F., Yoshioka, T., Nakayama, F. and Yamaguchi, N. M. 2022. GPS tracking of the two subspecies of the Eastern Buzzard (*Buteo japonicus*) reveals a migratory divide along the Sea of Japan. *IBIS*, 164, 1192–1200. (査読あり)
- Nakao, M., Ishikawa, T., Hibino, Y., Ohari, Y., Taniguchi, R., Takeyama, T., Nakamura, S., Kakino, W., Ikadai, H. and Sasaki, M. 2022. Resolution of cryptic species complexes within the genus *Metagonimus* (Trematoda: Heterophyidae) in Japan, with descriptions of four new species. *Parasitology International*, 90, 2022, 102605. (査読あり)
- Nishiyama, N., Ujiie, K., Noro, K., Mori, Y., Masuyama, H., 2023. Megathrust slip enhanced by metasomatic actinolite in the source region of deep slow slip. *Lithos*, in press. (査読あり)

Oto, Y., Sakanoue, R., Matsushige, K., Hibino, Y. and Mochioka, N. 2022. Artificial shelters that promote settlement and improve nutritional condition of Japanese eels in a human-modified estuary. *Estuaries and Coasts*. DOI: 10.1007/s12237-022-01152-z. (査読あり)

佐藤真央・長嶋祐成・日比野友亮. 2022. テンジクダイ科 *Ostorhinchus hartzfeldii* サザナミイシモチ (新称) の日本からの初記録. 魚類学雑誌. 早期公開, DOI: 10.11369/jji.21-039. (査読あり)

Shimada, T., Matsui, M., Ogata, M., Miura, I., Tange, M., Min, M. S., and Eto, K. 2022. Genetic and morphological variation analyses of *Glandirana rugosa* with description of a new species (Anura, Ranidae). *Zootaxa*, 5174, 25–45. (査読あり)

杉野広利・太田泰弘・原賀いずみ・花田秀揮・高橋俊吾・大橋直子・森 三保・加藤久美子・八百屋さやか・大澤得二・白川正樹・浦田健作・森ふさ恵・富永重稔・葉山 彰・船井泰乃・野井英明・宮田 薫. 2023. 独自活動と博物館への協力 (活動実績: 2022 年度). ジオ&バイオ研究会報告書, ジオ&バイオ研究会, 第 12 号, p.3–32.

Takeshita, F., Nishiumi, N. 2022. Social behaviors elevate predation risk in fiddler crabs: quantitative evidence from field observations. *Behavioral Ecology and Sociobiology*, 76, 162. (査読あり)

Ujii, K., Noro, K., Shigematsu, N., Fagereng, Å., Nishiyama, N., Tulley, C. J., Masuyama, H., Mori, Y. and Kagi, H. 2022. Megathrust Shear Modulated by Albite Metasomatism in Subduction Mélanges. *Geochemistry, Geophysics, Geosystems*, 23, e2022GC010569. (査読あり)

## 2) 書籍・普及書など

日比野友亮. 2022. ウナギとはどういう生き物か 他 21 篇. ウナギの旅展実行委員会 (編) もっと知りたいうなぎの旅展. ウナギの旅展実行委員会. 青雲印刷, 北九州市.

日比野友亮. 2022. 博物館での出会いがきっかけに ダイダイマダラウミヘビ. 馬場友希・福田宏 (編) 新種発見! 見つけて、調べて、名付ける方法. 山と溪谷社, 東京.

日比野友亮. 2023. 九州にある特殊なウナギ石倉. pp. 108–109. 中尾勘悟・久保正敏 (編) 有明海のウナギは語る 食と生態系の未来. 河出書房新社, 東京.

日比野友亮. 2023. 三者協同による親ウナギ放流事業. p. 224. 中尾勘悟・久保正敏 (編) 有明海のウナギは語る 食と生態系の未来. 河出書房新社, 東京.

日比野友亮. 2023. 小型個体の再放流による増殖義務の履行. p. 225. 中尾勘悟・久保正敏 (編) 有明海のウナギは語る 食と生態系の未来. 河出書房新社, 東京.

蓑島悠介・保科英人・吉富博之. 2022 [2023]. ガムシ科. 吉富博之・大原昌宏 (編) 日本昆虫目録, 第 6 巻 鞘翅目 第 1 部. pp.42–58. 権歌書房, 福岡.

大橋智之. 2023. 羽毛恐竜や絶滅鳥類に出会える博物館 (日本編) 北九州市立自然史・歴史博物館. p. 102. 羽毛恐竜完全ガイド. BIRDER 編集部. 103pp. 文一総合出版.

大橋智之 (一部監修). 2022. 学研の図鑑 LIVE 新版 恐竜. 総監修: 真鍋 真, 執筆・監修: 平沢達矢・田中康平・林 昭次・大橋智之・千葉謙太郎・中島保寿・加藤太一. 248pp. 株式会社学研プラス.

竹下文雄. 2022. カニの歌を聴け-ハクセンシオマネキの恋の駆け引き-. 192pp. 京都大学学術出版会.

## 3) 学会等講演

馬場 碧・江頭幸士郎・島田知彦・西川完途. 2022. 関東地方西部のタゴガエルの広告音に見られる地理的変異. 日本爬虫両棲類学会第 61 回大会. 沖縄.

江頭幸士郎・松井正文. 2022. ゲノムワイド SNP 解析に基づくタゴガエルとその近縁種の進化史推定. 日本爬虫両棲類学会第 61 回大会. 沖縄.

江頭幸士郎・松尾公則. 2023. 五島列島産タゴガエルの遺伝的分化パターンについて. 九州両生爬虫類研究会第 13 回大会. 大分.

- 藤島幹汰・笹井隆秀・日比野友亮・西澤秀明・森 哲. 2022. クロガシラウミヘビとクロボシウミヘビの形態および食性. 日本爬虫両棲類学会 第 61 回大会. 琉球大学.
- 日比野友亮. 2022. ウミヘビ科魚類の未記載 2 種の標本に基づく特徴と水中写真に基づく色彩変異. 日本動物分類学会 2022 年度東京大会. オンライン形式.
- 日比野友亮・福山伊吹・福山亮部. 2022. 西表島産アオマダラウミヘビ消化管内容物から得られたウツボ属の 1 未記載種 (ウナギ目ウツボ科). 2022 年度日本魚類学会年会. 大阪公立大学.
- 東山陽次・長井大輔・柵山徹也・森 康. 2022. 島原半島南部に分布する中新世玄武岩類の地質と岩石. 日本火山学会 2022 年度秋季大会. 三島市民文化会館およびオンライン.
- 井上 翼・谷口隼也・黄 榮富・水元惟暁・平井厚志・竹下文雄・佐藤武宏・川端雄毅. 2022. カニ類における進行方向と形態の関係性の解明. 第 41 回日本動物行動学会. 福岡大会.
- 井上 翼・谷口隼也・黄榮富・水元惟暁・平井厚志・竹下文雄・佐藤武宏・川端雄毅. 2022. カニ類における進行方向と形態の関係性の解明. 第 60 回甲殻類学会. 岡山大学. 【学生ポスター賞受賞】
- 伊東茶宥・河村功一・戸田竜哉・小林大純・日比野友亮・金尾滋史. 2022. mtDNA からみた日本産タカハヤの遺伝的集団構造. 2022 年度日本魚類学会年会. 大阪公立大学.
- 伊東茶宥・河村功一・戸田竜哉・日比野友亮・小林大純・田城文人・金尾滋史. 2023. 日本産アブラハヤの遺伝的集団構造と移植の実態. 第 70 回日本生態学会大会.
- Karasawa, T., Matsui, K., Misaki, A. and Uchida, S. The same pathological deformation patterns were recognized in Japanese ammonoids from different age and different taxa. The Geological Society of America (GSA) Connects 2022. Denver, Colorado. (Virtual meeting)
- 唐沢與希・御前明洋・松井久美子. 2022. 和歌山県の上白亜系鳥屋城層から産出した病理変異を有する *Menabites* (アンモナイト目コリンニョニセラス科) 化石. 日本古生物学会第 172 回例会. 九州大学.
- 松井久美子・Nicholas D. Pyenson・島添恒太・大橋智之. 2022. 福岡県北九州市若松区千畳敷から新たに発見された哺乳類化石. 日本古生物学会 2022 年年会. オンライン.
- 松木崇司・江頭幸士郎・西川完途・田辺真吾・松井正文. 2022. 白山国立公園とその周辺における両生爬虫類の分布の特徴について. 日本爬虫両棲類学会第 61 回大会. 沖縄.
- 松重一輝・日比野友亮. 2022. 夜間の人工光によるニホンウナギの摂餌活性への影響: 釣果記録の解析結果. 2022 年度日本魚類学会年会. 大阪公立大学.
- 中原 亨・長井和哉・伊関文隆・吉岡俊朗・中山文仁・山口典之. 2022. 追跡から判明したノスリにおける migratory divide と大陸産ノスリの正体. 日本鳥学会 2022 年度大会. 東京農業大学北海道オホーツクキャンパス.
- 中西 希・伊澤雅子. 2022. 胃内容物からみたイリオモテヤマネコにおける成長段階間の食性比較. 日本哺乳類学会 2022 年度大会. オンライン形式.
- 大橋智之・宮元香織. 2022. 北九州市立いのちのたび博物館 2022 年春の特別展「まるごとウマ展」開催報告. 日本ウマ科学会第 35 回学術集会. 東京都.
- 太田泰弘. 2022. 人は、自然にふれあう機会から何を得ているのか? ~コロナ禍の短い覚書~. 福岡県環境教育学会 第 25 回年会~みんなでつなぐ SDGs~. B5, 中村学園大学・短期大学部.
- 太田泰弘. 2023. 福岡県平尾台に露出する石灰岩露頭 (凸部) の傾向と呼称について (予察的研究). 日本地質学会西日本支部令和 4 年度総会・第 173 回例会. 島根大学, 講演要旨集
- 田畑諒一・福家悠介・川瀬成吾・Kim, S.-K.・佐々木剛・富永浩史・中島 淳・半澤直人・日比野友亮・渡辺 勝敏. 2022. 分布重複域におけるニゴイとコウライニゴイの遺伝的隔離と遺伝子流動. 2022 年度日本魚類学会年会. 大阪公立大学.
- 竹下文雄. 2022. 「カニの歌を聴け」の苦勞話を聞け. 第 60 回甲殻類学会若手の会. 岡山大学. 【招待講演】

- 竹下文雄, 2022. ハクセンシオマネキにおける密度依存的なメスによる配偶者選択と近隣オスによる妨害. 2022年日本ベントス学会・日本プランクトン学会合同学会. オンライン形式.
- 谷口隼也・井上 翼・黄 榮富・平井厚志・水元惟暁・竹下文雄・佐藤武宏・川端雄毅. 2023. カニの移動様式はどのように進化したのか? : 現生種情報を用いた祖先形質の復元. 日本生態学会 70 回大会. オンライン形式. 【ポスター賞最優秀賞 (進化・数理)】
- 田上 響・市川慎太郎・大橋智之. 2023. 漸新統杵島層群産骨質歯鳥類の下顎化石の元素分布解析. 日本地質学会西日本支部第 173 回例会. 島根大学.
- Ujii, K., Ando, R., Mori, Y. and Nishiyama, N. 2022. Depth-dependence of shallow and deep slow earthquakes: ductility comes from friction or plasticity? Japan Geoscience Union Meeting 2022. 幕張メッセおよびオンライン.
- Ujii, K., Nishiyama, N., Nori, K., Mori, Y. and Masuyama, H. 2022. Change in slip mode along subduction megathrust controlled by metasomatic reactions near mantle wedge corner. Japan Geoscience Union Meeting 2022. 幕張メッセおよびオンライン.

#### 4) 外部資金獲得状況

##### 【文部科学省科研費助成事業科学研究費補助金・学術研究助成基金】

- 国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化 (B)). ヒキガエル利用からホタル利用へ: 毒源を変化させたヘビ類の進化過程の探求. 研究分担者: 江頭幸士郎 (研究代表者: 森 哲). 2018–2022 年.
- 基盤研究 (B). 自然史標本の汎用化と収蔵展示技法の体系構築. 研究分担者: 真鍋 徹 (研究代表者: 三橋弘宗). 2019–2023 年度.
- 基盤研究 (B). ヘビ類の餌毒再利用による某業メカニズムの多様化: 外敵刺激依存から自発的攻防へ. 研究分担者: 江頭幸士郎 (研究代表者: 森 哲). 2021–2024 年度.
- 基盤研究 (C). 機械学習で読み解く蛇紋岩メランジュ形成の過程と影響. 研究代表者: 森 康. 2020–2022 年度.
- 基盤研究 (C). 付着・穿孔生物化石から絶滅軟体動物の古生態を探る. 研究代表者: 御前明洋. 2019–2022 年度.
- 基盤研究 (C). 里山のすがたを科学的に伝えるための展示手法の開発. 研究代表者: 真鍋 徹. 研究分担者: 藪島悠介・中原 亨・中西 希. 2022–2025 年度.
- 基盤研究 (C). イリオモテヤマネコの生存を支える西表島の食物網構造の解明. 研究代表者: 中西 希. 2018–2022 年度.
- 基盤研究 (C). 半自然草原における人為的な草原管理がニホンノウサギの行動と生息数に与える影響. 研究分担者: 中西 希 (研究代表者: 中本 敦). 2022–2025 年度.
- 基盤研究 (C). 比較解剖学的・組織学的手法による古生物の嘴の復元. 研究分担者: 大橋智之 (研究代表者: 田上 響). 2018–2023 年度.
- 基盤研究 (C). ライバル雄の妨害がドライブするシオマネキ類の配偶者選択におけるシグナル系の複雑化. 研究代表者: 竹下文雄. 2019–2022 年度.
- 若手研究. 南シナ海西部インドネシア半島縁辺域における熱帯～温帯性魚類の分布障壁の解明. 研究代表者: 日比野友亮. 2020–2023 年度.
- 若手研究. 高い生物多様性を内包する里山環境の変遷を追う: 指標種ノスリを用いた検証と予測. 研究代表者: 中原 亨. 2019–2022 年度.
- 若手研究. 渡り鳥における越冬地の社会関係を介したキャリーオーバー効果の実証. 研究代表者: 中原 亨. 2022–2025 年度.
- 研究活動スタート事業. 固有性喪失か多様性増大か? 島と本土の頻繁な接続に伴う両生類の変遷過程を探る. 研究代表者: 江頭幸士郎. 2021–2023 年度.

## 【その他の外部資金】

- 東京大学地震研究所特定共同研究. 機械学習で推し進めるデータ駆動型地球科学の新展開. 研究分担者: 森 康 (研究代表者: 上木賢太). 2022-2023 年度.
- プロ・ナトゥーラ・ファンド助成 (公益財団法人自然保護助成金). 対馬におけるニホンジカの個体数急増が絶滅危惧種ツシマヤマネコの生息環境に与える影響. 研究代表者: 中西 希. 研究分担者: 伊澤雅子. 2020-2022 年度.
- プロ・ナトゥーラ・ファンド助成 (公益財団法人自然保護助成金). 対馬におけるニホンジカの個体数急増が絶滅危惧種ツシマヤマネコの生息環境に与える影響. 研究代表者: 中西 希. 研究分担者: 伊澤雅子. 2022-2024 年度.
- プロ・ナトゥーラ・ファンド助成 (公益財団法人自然保護助成金). 希少海鳥カンムリウミスズメの保護増殖に関する研究. 研究分担者: 中原 亨 (研究代表者: 山口典之). 2021-2023 年度.
- 2021 年度ニッセイ財団環境問題研究助成 (若手研究・奨励研究). 繁殖期の希少海鳥 2 種の行動に基づいた洋上風発建設リスクの評価. 研究代表者: 中原 亨. 2021-2022 年度.
- 公益信託乾太助動物科学研究助成基金. 生活史全体を考慮した保全状況評価の実施を見据えたヒメクロウミツバメの移動追跡. 研究代表者: 中原 亨. 2021-2023 年度.
- 鹿児島大学国際島嶼教育研究センター令和 4 年度客員研究員. 奄美大島に生息するシオマネキ類 6 種の求愛シグナルの種間比較と生殖前隔離機能との関連性. 研究代表者: 竹下文雄. 2022 年度.

## (3) 歴史課

### 1) 論文・著書など (五十音順)

#### 【学術書・論文等】

- 上野晶子・大和恵子.2023.「東谷地域の小倉織について」.『北九州市立自然史・歴史博物館 研究報告 B 類 歴史』 20. pp1-10. (査読あり)
- 佐藤凌成.2023.「十六世紀後半の小倉に関する研究状況と展望」.『北九州市立自然史・歴史博物館 研究報告 B 類 歴史』 20. pp11-20. (査読あり)
- 宮元香織.2022.「古墳から出土した食物形土製品について」.『古代文化』 74-3. pp62-72. (査読あり)
- 守友 隆.2022.「朝鮮通信使の福岡藩領における交流と見聞—通信使の紀行文を中心に—」.『朝鮮通信使研究』 33.朝鮮通信使學會. pp147-180. (査読あり)

#### 【その他】

- 富岡優子.2022.「我が国最古の藕糸織」.特別展『中将姫と當麻曼荼羅—祈りが紡ぐ物語—』.奈良国立博物館. pp166-169.
- 中西義昌・日比野利信.2022.「海港都市・北九州の形成と近代建築」.『北九州市立自然史・歴史博物館 開館 20 周年記念 東アジア友好博物館シンポジウム要旨集「東アジアの海港都市と建築—北九州・仁川・大連—」』.北九州市立自然史・歴史博物館. pp20-23.
- 守友 隆.2023.「幕末の戦争」.『新修 宗像市史』 3 いくさと人びと.宗像市. pp411-454.
- 守友 隆.2023.「朝鮮通信使」「唐津街道」「赤間宿」.『新修 宗像市史』 4 海の道・陸の道.宗像市. pp216-236, 249-278.

### 2) 資料紹介・書評など (五十音順)

- 佐藤凌成.2022.「書評 岡寺良著『戦国期北部九州の城郭構造』」.『九州史学』 191. pp53-60.
- 守友 隆.2023.「〈史料紹介〉 嘉永六年の太平天国の乱情報の流通—吉田松陰の「燕都流言録」を中心に—」(『九州文化史研究所紀要』 66.九州大学附属図書館付設記録資料館九州文化史資料部門. pp51-88.

### 3) 書籍・普及書など(五十音順)

宮元香織(編).2022.『開館20周年記念秋の特別展 トイレのうんちく展』.北九州市立自然史・歴史博物館. pp1-24.

宮元香織.2023.「奈良発!古代スイーツ再現 第14回 古墳時代のスイーツ?~古墳時代の食物形土製品~」.『月刊大和路ならら』2023年1月号.(一社)なら文化交流機構. pp24-25.

### 4) 学会等講演・報告(五十音順)

佐藤凌成.2022.「室町・戦国期における筑前秋月氏の動向」七隈史学会日本史部会.2022年9月24日.福岡大学.

佐藤凌成.2022.「毛利氏の九州進出と北部九州の国衆の役割」日本古文書学会大会.2022年10月2日.別府大学.

中西義昌.2022.「河川流域の歴史的景観を復元する研究手法①」(口頭発表),「河川流域の歴史的景観を復元する研究手法②」(ポスターセッション).日本緑化工学会・日本景観生態学会・応用生態工学会3学会合同大会 ELR2022 つくば大会.2022年9月22日.

大橋智之・宮元香織.2022.北九州市立いのちのたび博物館2022年春の特別展「まるごとウマ展」開催報告.日本ウマ科学会第35回学術集会.東京都.2022年11月28日.

守友 隆.2022.「朝鮮通信使の福岡藩領における交流と見聞一通信使の紀行文を中心に一」.朝鮮通信史学会国際シンポジウム.2022年5月6日.オンライン形式.

### 5) 外部資金獲得状況

#### 【文部科学省科研費助成事業科学研究費補助金】

基盤研究(C)小倉織の基礎的研究 研究代表者: 上野晶子、研究分担者: 日比野利信. 2020-22年度  
基盤研究(C) 藕糸織の基礎的研究—非破壊調査による藕糸織の再検討を中心に— 研究代表者: 富岡優子. 2020-25年度.

基盤研究(C) 戦国大名領国に関する文献史学・考古学・城郭史の総合的研究—豊後大友氏の検討から— 研究代表者: 中西義昌. 2021-23年度.

基盤研究(C) 石炭資源の発見と近代政治システムの形成 研究代表者: 日比野利信. 2019-23年度.

基盤研究(C) 幕末維新期の日朝間における情報流通とネットワーク形成—対馬宗家文書を中心に— 研究代表者: 守友 隆. 2020-23年度.

基盤研究(C) 日本古代菓子の実態解明と再現活用に関する研究—東アジアの食膳研究その1— 研究分担者: 宮元香織 (研究代表者: 前川佳代). 2019-22年度.

基盤研究(C) 日本古代菓子の飲食・供膳様式の解明と菓子再現活用の研究—東アジアの食膳研究その2— 研究分担者: 宮元香織 (研究代表者: 前川佳代). 2022-25年度.

若手研究(B) 九州を中心とする仏涅槃図の基礎的研究 研究代表者: 富岡優子. 2014-22年度.

#### 【その他の外部資金】

(公財)カメイ社会教育振興財団 博物館に関する国際交流に対する助成「東アジア友好博物館シンポジウム開催事業」.担当: 日比野利信. 2022年度.

## 2 1. 博物館刊行物

### (1) 研究報告 A 類 (自然史) 第 21 巻 (2023 年) (2023 年 3 月 31 日現在)

J-Stage にてフリーアクセスで公開中 (<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/kmnh/>)

蓑島悠介. 北九州市立自然史・歴史博物館所蔵のキバネツノトンボ *Libelloides ramburi* (McLachlan). p. 1-3.

[List of specimens of *Libelloides ramburi* (McLachlan) in Kitakyushu Museum of Natural History and Human History, Japan (Neuroptera)]

日比野友亮・小林大純. 夏季に筑後川感潮域上部から得られたアリアケシラウオ (キュウリウオ目シラウオ科) の成長後期個体. pp. 4-8. [Summer occurrences of pre-mature stage of *Salanx ariakensis* (Osmeriformes: Salangidae) in the tidal upper reach of Chikugo River, Fukuoka Prefecture, Japan]

### (2) 研究報告 B 類 歴史 第 20 号 (2023 年 3 月 31 日発行)

#### 【研究ノート】

上野晶子・大和恵子「東谷地域の小倉織について」

佐藤凌成「十六世紀後半の小倉に関する研究状況と展望」

### (3) 展示解説図録

『開館 20 周年記念 秋の特別展 トイレのうんちく展』(2022 年 10 月 1 日発行) 24 ページ

『もっと知りたいうなぎの旅展』(2022 年 12 月 10 日発行) 24 ページ

### (4) その他

『北九州市立自然史・歴史博物館開館 20 周年記念 東アジア友好博物館シンポジウム要旨集「東アジアの海港都市と建築—北九州・仁川・大連—」』(2022 年 11 月 3 日発行) 32 ページ



博物館公式キャラクター「いのたん」

年 報

令和4年度

---

令和5年9月20日 発行

編集・発行 北九州市立自然史・歴史博物館

北九州市八幡東区東田 2-4-1

TEL 093-681-1011

FAX 093-661-7503

<https://www.kmnh.jp>



北九州市立 自然史・歴史博物館

いのちのたび博物館

KITAKYUSHU MUSEUM OF NATURAL HISTORY & HUMAN HISTORY